

# 「チョゴリときもの」

～新しい時代に向かう日本人、韓国・朝鮮人～

アジアの風文庫⑨



# はじめに

## 「チョコリ」ときもの「に歩ぶもの

仲尾 宏  
ナカオ ヒロシ

どの国の民族衣裳も美しい。今、世界ではスーツやスカート、あるいはTシャツにジーンズという服装が共通のファッショントなつていて、そうなればなるほど、チョコリやアオザイや和服姿が一段ときれいにみえる。

民族文化をひと口で言いあらわすことは難しいが、私たちが自己の民族衣裳だけでなく、他の民族のそれぞれ独特の衣裳をも美しいと思うことにすべては言いつくされているのではないだろうか。

日本には約七〇万人の在日韓国・朝鮮人が生きておられる。京都市では四万人近い人口である。一〇〇人に三人が在日の市民なのだ。

それらの人々が日本で生まれ、育ちながらも親から伝えられた祖国の文化を守り、子孫に伝えようとするのは当然の當為であろう。日本人が国外で暮らすことになつた場合でも同じように思うにちがいない。

しかし、この日本で在日の人々の文化が伸び伸びと育つ土壤はかつて無かつた。衣裳だけでなく歌や食べ物や、名前さえもが蔑視と差別の対象とされた。

九〇年代に入つて在日の世代の中心は三世となりつつある。それらの若い世代が、日本で生きながら自らの文化や民族にどんな思いを抱いているのか。そのことを隣人として、日本人はもつともつと知るべきではないか。こんな思いからこのフォーラムは始められた。日本の文化を見直すよすがとしても、このレポートをじっくりと味わつてほしい。

## 目 次

第一回 「在日韓国・朝鮮人の教育観」	5
第二回 「若者たちの祖国観と日本観」	49
第三回 「朝鮮文化と共に生きる」	91
第四回 「国際社会・日本の中での在日韓国・朝鮮人」	123

## 第一回 「在日韓国・朝鮮人の教育観」

パネラー

趙順南氏(チヨウスンナム)  
(在日二世・主婦)

ユン・マルジヤ氏(在日三世・主婦)  
コードィネーター  
仲尾 宏氏 (京都芸術短期大学教授)

一九九三年十二月二十四日実施



# 第一回「在日韓国・朝鮮人の教育観」

## 第一部

司会 今日はお忙しい中をご参加いただき、ありがとうございます。昨年開館三周年記念事業として開催しました「在日韓国・朝鮮人は今——その生活と意見——」に続きまして、今年は「チヨゴリときもの」というテーマでお話をいただきます。今日はその一回目として「在日韓国・朝鮮人の教育観」についてお話をいただきます。本日のコーディネイターの方と、パネラーの方をご紹介します。

コーディネイターは仲尾宏様。仲尾様は現在、京都芸術短期大学の教授で、去年に続きまして今年もコーディネイターをお願いいたしました。

パネラーの方ですが、趙順南さんは在日二世の方で、現在四人のお子様がいらっしゃいます。もう一人の方は、ウン・マルジャさんで、在日三世の方で趙さんと同じく四人のお子様がいらっしゃいます。なお、後半には会場の皆様と意見交換を行いますので、もしご質問やご意見がおありでしたら、お手元の意見用紙に書いていただきまして、別に用意しますご意見箱に入れてください。それでは仲尾様よろしくお願ひします。

仲尾 これから在日の方々がどのように日本社会の中で生きていこうとされるのか、その肉声をお聞きして、そして日本人がそれをどのように受けとめていったらいいのか、ということを考えよう、これが今年のテーマです。従つて今年のパネラーの方は、前回と比べるとお若い方が多くなると思います。今回、前に出ていただきましたお二人ですが、お二人のうら若きオモニをお招きすることができまして、

大変嬉しく思つております。さて未来論につなげることになると、一番大切なのは子どもたちの教育です。子どもたちの教育については、のちほどもご説明申し上げますが、いわゆる民族学校に行つてらつしやる方と、日本の学校に行つてらつしやる方との二通りに分かれますが、大多数が現在では日本の学校に行つてらつしやるという現状です。そういう中で、お二人はどういう思いで子どもさんの教育をお考えになつてゐるか、また、子供さんのおられる学校現場ではどういう問題があるのかということをご体験を通じてお話していただこうかと思います。

今からお二人に約三〇分ずつお話を聞いていただきます。その後で私が若干資料の説明をさせていただいた後、休憩に入りまして、その間に皆さん方から今お配りしております中に質問票がございますので、それに質問事項をお書き入れただいて、それを私のほうで整理してお二人のほうにそれをお答えいただくという形で皆さん方とのコミュニケーションを図つてしまいりたいと思ひますので、どうぞお話をお聞きになりながら聞きたいこと、あるいはご意見を質問票に書いていただければと思います。

それではお二人のことにつきましては、私が申し上げるよりも自己紹介の形で、お話いただいたほうがいいので、さつそくお二人にお話を聞いていただきます。最初にウン・マルジャさんからお話をいただきたいと思います。

### 韓国の幼稚園で学ぶ

ウン 今ご紹介いただきましたウンです。本日は「在日韓国・朝鮮人の教育観」ということでこのようないいな機会をいただきましたけれど、私はまだ経験も浅いです。四人の子どものうち、一番上が韓国学園の中学生一年生に通つています。この子を通して、公立の小学校でしたが、六年間で経験したことをお話したいと思います。

私達は、子どもが女の子でしたら「伽耶」<sup>カヤ</sup>という名前にしようと思つていました。ご存じの方も多いかと思いますが、韓国には「伽倻山」<sup>カヤマツ</sup>とか、「伽倻琴」<sup>カヤク</sup>とか、「伽倻」<sup>(注)昭文社の地図による)</sup>と名前のついたものがたくさんあります。私の娘の「伽耶」は昔の「伽倻國」、任那、金官加羅という名前でご存じの方も多いと思いますが、この「伽耶」です。不幸な時代がありましたが、私達は二一世紀に向けてこれから学んでいく子どもが、もっと豊かに、日本の地でいろいろな経験を積んだらなーという思いでこの名前をつけたわけです。この当時の金官加羅と日本は共存共榮、もっと豊かに暮らし合っていたと思うんです。そういう願いを込めて次の世代を生きていく娘につけました。

幸いにして、私達の田舎はちょうど今の釜山空港の近く、金海<sup>キンカイ</sup>の近くです。そこがちょうど伽倻國のところですが、そちらの家を基盤にして韓国の幼稚園に通わせました。初めはソウルの幼稚園に通わせたのですが、ソウルは大都会ですから、日本の幼稚園もソウルの幼稚園も余り変わらないということで、私達がみたら非常に物足りなかつたので、田舎の幼稚園に通わせました。ところが、田舎ですから蠅がブンブン飛んでいたり、虫がいたりするので非常に拒否反応が強くて、日本に帰りたいと泣くものですから、その年は失敗して、一年待つて一年生に入る前の六歳の時に、もう一度田舎の幼稚園に連れて行って通わせました。この時は一年経つて本人も大きくなっていますし、楽しく大変喜んで通いました。もちろん、言葉は特別教えたりということはしませんでしたが、必要な単語・言葉、例えば、先生に家に連絡して欲しいとか、トイレに行きたいとか、水が欲しいとか、そういう短いセンテンスを教えて、紙に書き、その上に片仮名で読み方を書いて持たせて幼稚園に通わせました。本人はすぐにお友達もできましたし、歌も覚えましたし、大変樂しく通いました。

## 母国の幼稚園から日本の小学校へ

それから帰ってきて、小学校にはいる段階でいろいろ考えましたが、私のところは西京区の桂ですから、桂小学校に通わせました。一年生を無事に終わって、二年生の春休みに韓国の小学校、本人は二年生でしたが、田舎の小学校の一年生に入れ、一週間くらい学校に通わせました。その時にハングルの「ト、ド、ナ、オ、ヨ」からキッチンと勉強させてもらいました。

日本に帰ってきて二年生、ちょうどクラス替えがあつて、新しいお友達もできて本人は非常に元気に通っていたんですが、遠足の日に私がお弁当を作つていたら、「お母さん、今日はお弁当の時のグランドシート、小さいのでいいわ」と言つうんです。「どうしたの」と聞くと、「班の子が『キムさんは韓国人だから一緒にお弁当食べられへんし』って言つてるから、私もしかしたら一人で食べなきやならないかも知れへんし、小さいの入れといて」と何気無く言つたんです。私は今まで韓国のはうで生活させたり、日本のほうでも一生懸命、金伽耶として、在日韓国人として豊かに生きて欲しいという願いがありましたから、差別というのは余り意識しなかつたんですね。本人も非常に元気潤達にやつっていましたので、その日の一言は非常にショックでした。そして「一人で食べたらどうしよう、寂しいのにね」と言いましたら、本人は「大丈夫、大丈夫。私は楽しいんだから大丈夫」と言つて、元気に行つたんです。私は一日子どもの帰つてくるのを待つていました。そしたら「非常に楽しかったし、みんなが一緒に弁当を食べててくれへんかったけど、先生と食べたわ」と行つて帰つてきたんです。私は良かつたかな、と思いましたが、それから何日かして、社会の授業で班ごとにお店調べというのがあつたんです。その時も、「班の子が私とするのがいやつて言つてはるから、お母さん、一緒に行つて」と言つてたんです。

## 韓国人としての誇りをもつて

そういうことが何回か重なりましたので、このままほつておいてはいけないと思って、まず本人に「先生のところに行つて相談しようか」と言いましたら、本人は「ううん、大丈夫。違う友達にちゃんと話できるから大丈夫」と言いますので、しばらく様子を見ようということで待つていました。

それから一週間くらいしてから、非常に嬉しそうな声を上げて帰つてきました。「○○ちゃんが私の言つたことをとつてもよく分かつてくれたし、今日はその子と一緒に遊ぶ」と言つて帰つてきました。「なんて言つたの」と聞いたら、「私は韓国人だけど、これは神様が『金伽耶は韓国人になりなさい。○○さんは日本人になりなさい』と決めたことで、私の意思ではなくて全部神様が決めてくれたことなんだから、みんな仲良くしなきゃダメなんじやないの、と言つた」と言うのです。自分の子供で手前味噌のようなんですが、その言葉を聞いた時に何とも言えず嬉しかつたです。そういうふうに、周りからも理解を示されて育つていつてくれたらどんなにいいだろうという感じで見ていました。後から担任の先生にお話しましたら、「もう少し授業の中で金さんの国、韓国をもつとみんなに伝えていきましょう」と、授業の中でも随分本を読んだり、文化・習慣を取り入れて話をする機会を作つてくださいました。

本人は非常に元気に、「自分は韓国人だ」という意識の中で大きくなつてしまつたし、その証拠に、お誕生会の時に「お母さん、韓国と言つたら食べ物はやっぱりキムチかな」と言つたんですね。「キムチだけでもやっぱり焼肉かな」と言つたら、「今度のお誕生会はみんなを呼ぶから、焼肉してちょうだい」って言つてます。そして焼肉パーティーをしたり、その時も自分がチマ・チョゴリを着たり、キムチもお友達に「食べてみる?」という感じで非常に無邪気に過ごしていました。それは低学年のうちなんですが、そういうふうに大きくなつていきましたので、私としては別段問題もなく、上手に育つてているな

と感じていました。

### 韓国人を見る子供の目

それから段々と高学年になつていくわけですが、三年四年と同じ先生に持つてもらいました。その時くらいから、一人の男の子でしたが、常に伽耶を意識すると言うか、そういうことが強かつたんです。ある日帰つてきて「○○君に『金さんは韓国人だから、韓国に帰れよ』って言われたけれど、そういうふうに言われても困っちゃうよね」と言うんです。私は、伽耶はある意味でおとなしい子ではなかつたので、自分で対処するだらうとはおつておきました。ところが、その子が言葉の暴力というのを感じよか、いろいろなことを言つてきて、それは常に「韓国人」が一つの的のような感じでした。「韓国人だから帰れ」から始まって、ある日「その子が私のことを『エイリアン』と呼ぶんだけど、『エイリアン』ってどんな意味なの?」と言つて帰つてきました。もちろん、「エイリアン」は外国人という意味もあるけれど、映画の「エイリアン」が余りにもグロテスクでしたので、そういう言葉は使わないのよ、と言いましたら、「明日、学校にいつたらそういうふうに言い返してあげる」という感じで、常にその子にこう言われたら、こう返そう、こう言われたらこういう言葉で返そうという緊張感の中で、高学年に向かつていきました。

あんまりそういう言葉が多かつたので、本人が家に帰つてきても言葉数が少なくなりますし、また、帰つてきて私に話すと、私が「あなたは韓国人なんだから頑張らないと。たくさんの日本人の中で韓国人が一人だから、伽耶が頑張れば、『韓国人つて賢い』と言われるし、伽耶がちよつとでも悪いことをすると『韓国人つてあんななんか』と言われるから、お勉強も頑張りなさい、何でも頑張りなさい」と、常に「頑張れ、頑張れ」の頑張れコールなんです。学校に行つたら行つたで、常にその子と向かい合つ

ているわけですから、こういう言葉を返そう、こう言われたらどうやつて返そうかと、自分の心中はいろんな言葉を持ちながら、常に緊張しているわけです。そして、家に帰つても私に言われるという感じできでいましたから、今から思うと、一オくらいの子供にしてはちょっと酷だつたなど、親の私が思つくらいにきつかったと思ひます。

#### 日本人の子供に潜む差別意識

段々歴史などを勉強していくと、ある時男の子がバーンと身体をぶつけてきて、「『尊皇攘夷』だから、外国人は日本から出ていけ」と私に言つた」と言うのです。伽耶は向こうつ気が非常に強いので、私の前で泣くことはなかつたんですが、その時は非常に泣きまして、「何か違うんじやないか」と言つていました。「尊皇攘夷だから、外国人だから、金さんは韓国へ帰れ」と言われたことの理不尽さが、非常に本人の心を深く傷つけましたし、私もその時は子供とともに非常に暗い気持ちになりました。それで子供に、「○○君は伽耶が韓国人だからいじめたり、韓国人が非常に民族的に劣つているとか弱いとか、そういうことでいじめているんじゃないと思うよ。それはマイノリティ、少数民族を差別する、つまり、自分たちたくさん者の者と、違う人が一人でもいる。それは国籍であつたり体が弱かつたり、自分たち健康な者とちょっと違つたりするということでそれを責める。弱い、卑怯な心で言つているんだから気にしないで」と常に言つてきました。

マイノリティというとマイナスのイメージが強いと思いますが、私はそうは思いませんでした。うちには桂小学校で初めて「金伽耶」という本名を名乗つていつたわけですから、諸先生方の対処の仕方も非常に熱心でした。「金伽耶」という一人の存在によつて、いろいろな問題をみんなで考えようという場をたくさん作れたわけですから、少数がマイナスだとは私自身思いたくありませんし、子供にもそういう

うことで卑下したり、差別されているという意識を持つて欲しくないというのがありました。

ところが、国籍は自分の意思ではないわけです。自分の意思で韓国人になりたいとか、もちろん後から法的な手続きをすることは別として、生まれた時に韓国人であつたり、日本人であつたり、アメリカ人であつたりするのは、自分の意思とは全く関係ないですから、私は子供に常々「それは自分の意思ではないのだから」と言つていきました。ところが自分の意思ではないんだけれど、責任は付いて回るわけです。私達は在日韓国人であるわけですが、自分が選んで在日韓国人になつたわけではないけれど、歴史を背負うということは非常に大きいことだと思います。

### 民族教育を取り入れる

でも、五年や六年の子が、本当にひとつまみしか勉強していない子が「尊皇攘夷」と言つて、子供に体当りしてくるというのは非常にショックでした。私達が「金伽耶」の「伽耶」を受けた意味、もつといい歴史があるにもかからず、一握りの暗い暗い部分を面白半分に当つてくるというのは、非常に残酷で、非常に無責任だと思いましたので、その旨は担任の先生に言いました。もちろん普通の授業の中では、取り立てて韓国、あるいは朝鮮を考える時間、覚えたり見たりする時間がないわけです。でも担任の先生が非常にご理解が深くて、ご自身が韓国語の勉強をされていましたので、授業の中でほんの五分程度でしたが、ハングルを学ぼうという時間を作つてくれました。まるで記号のような文字だけれど、こういうふうに組み合わすとこういう意味になるよとか、韓国の人食べ物はキムチや焼肉だけではなくて、いろんなものがあるということ。歴史も植民地時代だけでなく、もつと過去を遡つていけばこんな時代もあるよとか。それから私達が韓国に帰つて、韓國のお菓子、ユガアとか古典的なお菓子などを持ち帰ると、試食会をしたり、と積極的にそういうことを取り入れてくれましたので、多くの日本人の

中の一人の在日韓国人の金伽耶でしたが、たくさんものものを提供できたと思います。

### 眞の国際化とは

いろいろな人がいるという楽しさを味わえる、楽しさを勉強できるというのが、私は眞の勉強だと思つています。国際化は英語を流暢に喋るということではなくて、四〇人のクラスの中に、韓国の子もいる、朝鮮の子もいる、アメリカの子もいる、日本の子もいる、それが当り前というのが教育だと思つています。

実際は子供は言葉の暴力で傷つきましたし、緊張の中にいましたので、最後は「疲れた六年間だったわ」ということでした。もちろん、みんながいじめたというわけではありません、特定の子だけでした。六年間にいい人にも巡り会えたし、心の友達もできましたが、ただ、小さいときは無邪気に韓国を振りまいていた子が、自然にそういうものは出さないし、そういうことを言っても聞き入れてもらえないといふ感じになつてくるんですね。私が「そういうことをいちいち説明してあげないと分からないんだから、『あなたも外に出れば外国人だから』って言つてあげたら」と言つたことがあるんですね。すると娘は、いちいち説明するんだけど、結局茶化されて聞いてもらえない、ということがありましたので、六年間で楽しいこと、豊かな思い、たくさんのお友達ができしたことなど数知れずありますが、たつた一人のその言葉で、子供には非常に重たい六年間という印象になつてしまつたようです。

### 韓国中学へ進学

それで、子供の意思でしたが、糸余曲折があつて最終的に韓国中学に行つてみたいと言いました。ご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、非常に素晴らしい学校ですし、民族教育を主にする学校です。

ところが、在日の中でも残念なことですが、贊否両論です。非常に素晴らしい学校だという方もいらっしゃれば、学力的に日本の公立中学と比べたら劣るんじゃないか、先生の数も少ないし、先生の質もちょっと……、とおっしゃる方もいました。私が「伽耶が韓国中学に行きたいと言つてるけれども」と言いましたら、電話がありまして、「公立の普通の中学に入れた方がいいんじゃないか」とわざわざおつしやつてくださる方もありました。本人が行きたいということで、実物を見せようと連れていきました。本多山の上で遠くですから少し歩くんです。その道がわりと時間がかかるので「大丈夫? あなた、この道を登つていけるの?」と聞いたら、「大丈夫」と言いました。本当に山の上にあるし、空気がいいですし、景色も素晴らしいところです。

私自身嬉しくてびっくりしたことは、先生方の中に日本の教師の方が何人かいらっしゃるんですね。私はこれが教育だなど思いました。民族学校というと、韓国一辺倒で、一から十まで韓国、韓国というのはちょっと困るなど思っていました。在日は日本で暮らして日本で生活していくわけですから、日本のことも分かり、そして韓国のことも分かるというのが理想的でしたので、韓国の先生もいらして、日本の教師の方もいらっしゃる中で勉強できるのは非常にいいことだと思いました。

学力的なことですが、今まで二度、授業参観がありました。英語と地理でした。これは自分の子どもが通っているからということではなく、非常に良かったです。うちの子は地理がどうもよくなかったので、私は是非地理の授業をみたいと言つております。今日の参観は地理だから、お母さんおいいで」と言いましたので、行きまししたら非常に面白いんですね。誇張して言うのではなく非常に良かったです。英語も素晴らしかったです。ですから、学力的に劣るということはありませんし、本人もマイノリティ、たつた一人の韓国人ではなくて、どちらを見ても同じ年の韓国の子供ばかりですから、生活条件も似ていますし、話をしていても同じようなことがあるんですね。ですから大変伸び伸びと学校生活を送って

いますし、学校自体も非常に素晴らしい。

民族学校などと韓国一辺倒で、一から十まで韓國、韓國という感じで、変に韓國に傾倒させてしまうという危惧を持っている方がいらっしゃるかもしれません、そうではない。体育祭や文化祭などに日本のお友達もどんどん連れて来るんですね。伽耶も桂の時のお友達をどんどん連れて行つて、また新しいお友達もでき、という交流ができますので、非常に親子共々緊張してきた六年間でしたが、今初めて、韓国中学に入れて子供がほつとしていると言おうか、伸び伸びと手足を伸ばして勉強をしています。もちろん、緊張が少々取れていますので、一生懸命勉強しているかというとそうでもないみたいですが。勉強だけでなく、心がリラックスできるというのは、非常にいいことですよね。

#### 母親としての願い

まだ、私には子供が三人おりますので、どういうふうに大きくなっていくのか、どういう学校で勉強させてもらうのか、まだ分かりませんが、国籍は自分の意思で選ぶことができませんが、その国の歴史は背負わなければならない。ということは、マイナスの面ではなく、プラスのもつといい歴史、もつと深い歴史を双方が学ばないと、これから国際化も含めて、眞の教育はなかなか難しいと思いました。今は韓国中学に行っていますが、高校・大学などいろんなところで学ぶわけです。本当に豊かに、マイノリティではなくみんな平等だ、ということでお友達が大きく成長できたら、母親としてこんな嬉しいことはないと思っています。

「静聴ありがとうございました。」

仲尾 ありがとうございました。それでは引き続き趙順南さんにお願いいたします。

## 日本の学校教育に対する懸念と覚悟

趙 趙順南と申します。

四人の子どもは全員日本の学校に通つております。子どもたちを通じての、先生方や保護者の方との出会いそのものが、「チヨゴリときもの」の出会いだつたような気がします。子どもを日本の学校に行かせるにつきましては、私達に一つの決意がありました。韓国人としての誇りと自覚を、親の責任において家庭教育においてしっかりと身につけてさせること。そのことを離れては、望ましい人格形成はありえないということでした。

スウェーデンなどでは、どんな小さな国の外国人が一人入学してきたとしても、その子には民族教育を受ける権利を有するという考え方の下に、学校側でどんなことをしてもその国の先生を捜してくる、そのようにして民族教育が保障されると聞きましたが、日本では私達のように歴史的な経緯を持つ、相当数に上る外国人に対してでさえ、民族教育どころか、同化政策が取られ、本名さえ名乗りにくい状況にあるという社会に子どもたちを送り出すわけですから、親としての覚悟も相当に致しました。

もう一つ、日本の教育における歴史教育に大きな危惧を持つつていきました。教科書における朝鮮半島に関する、あの貧しいボリュームと内容、それだけでも「あなたの方の国は学ぶべきものは何もないのよ」と言つているようですし、例えば、高い文化や技術が朝鮮半島から伝わったという史実一つを取つてみても、私の先生は中国大陸から全部伝わったのよ、ごく一部が朝鮮半島を素通りしてきたものもあるけれども……、とおっしゃつており、私は長いことそれを信じております。ある時期からこれは私の聞き間違いだつたかもしれないと思つたこともありましたが、大きくなつて、松本清張さんの書かれた本で、「文化や技術は高いところから低いところに流れる。高い技術や文化がまるで飛行機に乗つて伝わつたかのように教えるのは間違いである。人々が実際に持つてきて、伝えて、そこで活躍したといった

ところまで教えないとい、今の教え方だといかにも飛行機で渡つてきただよな、よしんば伝えただけにしても、それは素晴らしい、それくらいのレベルにあつたからで、そういうたレベルになかつたら、伝える前に消滅しているではないか」という文章に触れたときに、私の聞き間違いでなかつた、そのことに気付くだけでも一〇年以上かかつたという経験を持つています。

もう一つ例を挙げると、「伊藤博文は安重根に暗殺されました」そういう記述に触れると、生徒たちはどのように取るでしようか。日本人はますます朝鮮人嫌い、韓国人嫌い、それと優越感、私達同胞は劣等感、「やばい民族に生まれた」という思いですね。文部省検定教科書を学ぶことを通して、そのような関係を作り出してきたという皮肉な結果を生み出してきました。

### 日本人の低い歴史認識

私は子供を通して、いろいろな先生方、お母さん方と出会つてきましたが、私達同胞の抱える歴史的な背景、社会的な問題を正しく認識している人が余りにも少ないことにすっかり失望してきました。これ程新聞やテレビやラジオで強制連行とか、日本の戦争責任といったことが言葉だけでも飛び交っていますのに、その中身について全く認識がない。未だに私に「いつ渡つてこられたの?」とか、「日本語がお上手ね」とかいった質問がありますし、日本にいる外国人は、皆、難民か移民といった感覚の人結構多いのです。

例えば、先のパネラーが「あちら」とか「向こう」という言葉を使つていました、私の前で韓国とか朝鮮という言葉を使うことすら、失礼ではないかという認識。大概「あちら」とか「向こうの方」という、鴨川の向こうなのか太平洋の向こうなのか、今度聞いてみようと思うのですが、とても低い認識にあることにショックを受けてきました。私達の同胞の多くが教科書を越えて正しい歴史を認識するこ

とで、民族的な自覚を獲得していくたどりの持つ意味は大きいと思います。

### 歴史を直視することの大切さ

よく正しい歴史学習と言われますが、これも言葉の空回りを避けるために私の場合に少し触れたいと思います。

例えば、ヤマト政権時代に養蚕技術が伝わったとか、棒読みに覚えるのではなく、外交文書の作成まで渡来系の人が担つたということは、それまでヤマト政権は外交文書もよう作らなかつた。そこへ渡来系の人が来て、伝えてその役を担つた。そういういた史実一つを取つても、また日本の国宝第一号が広隆寺の弥勒菩薩、それは新羅のものです。桓武天皇のお母さんは百濟の武寧王の娘、高野新笠で、桓武天皇はそれをとても誇りに思つて平野神社を建てた。そういういた一つ一つの史実が、だから朝鮮民族は優秀だとか、高貴だということではなく、こういった記述にも「人類皆兄弟」ということを認めることができます。朝鮮通信使を学ぶことは不幸な時代を遙かに上回る、善隣友好の時代、歴史の光の時代のほうが長かつたということの確認もなります。大名が一行を迎えるために、迎賓館の建築を命じられて国許に帰る。その建築だけに半年もかかつたとか、鶏を三〇〇〇羽潰したといった記述にも当時の日本人が朝鮮人を見る目がうかがい知れますし、「鎖国」の時代であつたにもかかわらず、今の日本よりずっと国際的であるということの確認になります。

例えば、秀吉の朝鮮「出兵」もいかにもちよつとちよつかいを出しにいつたような記述でしたが、あれも詳しく学ぶと、当時の朝鮮の人口が五〇〇～六〇〇万人でそのうちの四〇〇万人以上が戦死、伝染病死、捕虜として連行されるといった多大な被害を被るという侵略戦争でした。

「安重根」一つ取つても、あの時代背景と一緒に学んだり、当時彼の法廷闘争に立ち会つた日本の

法務官、一流の知識人皆が「彼ほどの崇高な人格の持ち主は、後にも先にも知らない」と、死ぬまで絶賛していたという証言集を読んでも、教科書の記述の圧倒的に省かれた欺瞞性というのを見抜くのに十分な学習でした。皇民化政策や創氏改名を詳しく学ぶことは、先人の悲しみや苦しみ、無念を学ぶことでいたし、あの時に本名を名乗れないことは先祖に対して申し訳ないと、死をもつて抗議したほどの名前を、五〇年経つた今や、その名前を名乗ることのはばかられる社会の異常さ、通称名にしがみつくことの滑稽さ、それらのことを悲しみや憤りをもつて学ぶのに十分な歴史学習でした。

私の知人は、このような歴史学習を通して歴史の中で自分の位置を確認できたとき、初めて安らぎを覚えたという表現をしましたが、当時の私の気持ちを言い得ていてびっくりしました。

### 本名を名乗ると差別される日本社会

現在、九割以上の同胞の子供たちが本名を名乗れないというのは、外国人教育に深く携わった先生方は一様にその問題と原因、解決すべき問題点は一〇〇%日本人側にあると言つておられます。ほとんどの先生方は、「外国人教育は勉強不足でして……」とか、「これからやろうと思います」というのを挨拶代わりにされるのです。日本は人権感覚が優れていなくとも恥をかかない、珍しい先進国だという言葉をその時に思い出しますし、「赤信号、みんなで渡れば恐くない」式にあぐらをかけておられるのか、居直っておられるのかと、私などは腹立たしく思つてまいりました。

私は今日、皆様の前でお話するに当たり、本名通学をさせているお母様方に何人か確認を取つたのですが、子どもたちが本名通学をすることで、被差別体験、あるいは「朝鮮に帰れ」とか「韓国に帰れ」とか言わされたことのない人が一人もいなかつたということに、うかつにも驚いてしました。

ある兄弟の例ですが、本名通学をした途端、上級生が「面白い名前やな」と言つて何度もからかいに

くる。終いには「韓国語を喋つてみる」。「いやだ」と言いましたら、「それ日本語やんけ」というわけです。そういうことを家で話していると、弟の方が、来春入学の子で、本来なら桜の咲く季節を楽しみに待つている子なのに、入学するのにとても不安を持っているというのです。それを聞いたお兄ちゃんが「心配するな、三年生になつたらそれも気にならなくなるから」と言うのですって。およそ、先進国、民主主義国日本に住む六歳児と九歳児の兄弟の会話だと誰が想像するでしょうか。

私の友人は、自身、大学まで日本の教育を受けながらいろいろ考えた末、朝鮮学校にいかせた人がいます。メリット・デメリットを考えても、周りがみんな同胞である環境の中で子供を勉強させるメリットは、何事にも変えがたいと言うのです。私も迷わず日本の教育を受けさせていますが、子どもが小さな小さな地方都市の特産物まで勉強している姿を見ると、この子、本国の大きな山や川も知らないのにと思い、本当に一〇〇%正しい選択であったかどうか悩む時です。

さて、私の子供たちですが、幼い頃より何度も韓国に旅をして、韓国で社会的に活躍する従兄弟の家に長期滞在するとか、父親や韓国の留学生がマン・ツー・マンについてハングルを学ばせるとか、日常生活で朝鮮民族の伝統や風習を、私のできる限り、大切に取り入れて生活する、といった生活を通して、日本の学校に学びながらも、強烈に韓国人であることをアピールできる子供として育つたように思います。

### 日本人教員の役割

最初の子が入学して四番目が卒業するまでに、公立小学校に二年間在籍しました。三〇人から四〇人、常に同胞がおりましたが、本名通学は最後まで私達だけでした。同胞にいつも本名通学させるよう進めरのですが、やはり自分の被差別体験が余りにも辛かったために、まだまだそういう社会ではな

い、とても子どもたちには経験させたくないという答えがほとんどでした。私達の場合は、ほとんどの先生方が、私達の家庭の教育方針に熱心に耳を傾けてくださって、ご自身も随分勉強もしてくださいました。

私は四つの中学校と三つの高校を経験してきましたが、学校といつてもいろいろあって積極的に向上心をもって朝鮮民族であることをアピールできる子供ほど、先生方は真剣に答えてくださった、そのことの持つ意味は、多くの通称名で通学させている同胞の人にも大きなヒントになるのではないかと思っています。日本社会の根強い偏見・差別があるために本名が名乗れないのか、本名を名乗らずに日本人に化けて通学するから、この外国人問題が見えにくいか、ニワトリが先か卵が先かという論争がありますが、本名すら名乗れないということは、相撲を取るのにまず土俵に上がっていないということを意味すると思うのです。

『在日韓国・朝鮮人はいま』という本をお読みになつた方も多く思いますが、その中でこのような作文がありました。通称名通学をしている児童ですが、先生が民族服を持ってこさせて、朝鮮民族の歴史や文化について学びます。その授業から生まれた作文ですが、日本の小学校三年生の女の子の作文です。

「私は○○君は立派な日本人であればいいと思っていましたが、それではいけないと思いました。立派な朝鮮人にならなければ、○○君のおばあちゃんたちの苦労が水の泡になる」というものでした。私は、在日一世の苦しみまで思いを馳せることのできる授業をしたこの先生に敬意を覚えましたし、そのような感受性の鋭い子に育てたお母さん方・お父さん方の人格の高さを想像しました。

これは平安女子中学校で起こったことですが、入学が決まったとたん、通称名で行く予定だったのですが、先生が家庭訪問をされて本名を勧めます。本人は本名で行くのですが、一番最初に親しくなった

お友達がからかうのです、面白い名前やといつて。悪気はないのですが、本人も繰り返されると不愉快で、一番目に親しくなったお友達に「いやなので通称名に代える」と打ち明けるのです。その、打ち明けられた友達が素晴らしいのですが、例えばチヨウ・ウォルソンだとしますね、「どうして？ チヨウ・ウォルソンっていい名前、素晴らしい。私は大好き」と言うのです。「ましてそれが本名なのだから」と励ますのです。それで本人に内緒で担任の先生にそのことを報告します。そしたら担任の先生が、本人とからかつた友達と励ました友達を呼んで、じっくりとお話をするとですね。それからの話を本人から直接聞いたのですが、前よりももっと本名が好きになつたし、自信を持てるようになつた。それに励ましてくれた友達を前よりもっと好きになつたと言つていました。

この二つのエピソードは、在日外国人教育が外国人のためだけにあるのではなく、日本人の人権教育である、日本人自身に「あなたはともに歩む人々の痛みや苦しみを自分の痛みや苦しみとして感じることができますが、それとも自分さえよければいい」という生きかたをしますか」という問いかけだと思うのです。もつとも「自分さえよければいい」という社会は有りえないのですね。差別がある社会というのは、必ず別の形で自分に降りかかる」と意味するということは、歴史が証明していると思いません。

### 進まぬ在日問題へのとりくみ

このようにどのような先生に当るかということは、人生の運・不運を決めるくらいに大きなことなんですね。熱心な先生のノウハウが学校全体で生かされるとか、市町村レベルで生かされるということは殆どない状態にあると思います。その先生の熱心さだけに任されて、そのクラスだけで止まることは、ある意味ではとても不幸なことです。

福岡県の中学校であつたことで、皆様ご存じのことと思ひますが、卒業生の中に韓国人生徒が一人いたというだけで、どうしても日の丸を掲げなければならないのなら、その隣に大韓國旗を掲げて卒業式を取り行うと。それには担任の先生と校長先生が大きく働きかけたのですが、それを迎える中学校のほうでもそのようにして迎えました。彼にどれだけ大きな励ましになつたか。あるいは彼と付き合う日本人生徒にどれだけ大きな教育効果をもたらしたか、想像に難くないと思ひます。

先にうまくいつた例を挙げましたが、次にまずい例を少し話します。

最近聞いた話ですが、小学校低学年で親から学んだ朝鮮語の単語、ハングルを交えて作文を書くのです。六つほど単語が出てきたそうです。私の息子もよくやつたのですが、息子の先生は間違っているのもあつているのもそのまま載せて「こんな字を私は覚えました」という報告を受けたものです。ところがその先生は全部それを日本語に直して、学級通信に作文を載せるのです。どうしてそのようにしたかといふと、差別が発生するとまずいからというのです。子どもたちをなだめることは自信があつたけれど、父兄まで私の力は及ばないから、父兄同士のいじめがあるとまずいから、そのようにしたというのです。「それが正しいと思つていいのですか」と聞きましたら、「〇〇年若ければそのようにしていい」というのです。あれがドイツ語やフランス語ならそのようにしているのかしら。訂正された子どもの母国語に対するこれからの関心を思い、胸を痛めました。

もう一つまずい例ですが、「神のもとに平等」というキリスト教系の学校ですが、朝鮮・韓国系の生徒が數十名いるのにもかかわらず、「日の丸・君が代」で入学式・卒業式が取り行われます。

教育現場でこのようなことが行われるというのは、本当に罪が大きいのです。「日の丸」のもとで朝鮮民族の苦しみが始まりました。その苦しみが在日四世にまで及ぶことは確実です。そういうことがほとんどの日本人に認識されていない。そのような条件のもとで、教育現場でそのようなことが行われ

るということは、再び同じ過ちを繰り返さないために、歴史に学ぶという教訓を放棄したことになりますし、とても混乱を起こすやり方だと思いますが、抗議しても「叩けど開かず」といったところです。このような本音と建前の使い分けはいくらでも見いだすことができます。

### 日本社会と欧米国の違い

アメリカなどでは差別解消のために、アフリカ系アメリカ人を雇用の何%かは必ず雇い入れることが必ず守られてきたのですが、日本では「差別のない明るい社会」とか「人類平和のキーワードは人権」とか、行政レベル、教育委員会でいつも言われています。しかし、公務員の採用でさえ門戸が著しく閉ざされている。このことは在日韓国・朝鮮人子弟にとっては、勉強の目的を持つのに障害になっています。それにもかかわらず皆さん良く勉強していますし、与えられた条件のもとで、いろんな分野にチャレンジしている姿を思うとき、私は朝鮮民族に生まれたことを誇りに思います。

例えば、学校の先生、小学校や中学校の義務教育の中で、竹下先生や細川先生とまじって、キム先生やパク先生が活躍しておられる姿、先の韓国学園の紹介の中にもありましたが、そのような姿は日本人の生徒に対しても、計り知れない教育効果があると思いますが、何が都合が悪いのでしょうか。欧米では外国人が三年から五年住むと、その国の民族の持つ文化が自国の文化に貢献したということで、市民権が与えられるそうですが、私達のような経緯を持つ朝鮮・韓国人にさえ未だに一段低い外国人、無用な外国人としてみる傾向にあるのは、このように教育の場の混乱が非常に大きな役割を果たしていると思思います。

伝統的に朝鮮語科のある天理大学で、本名を名乗ったというだけで「どうして日本式の名を名乗らないか」と、上級生が執拗にいじめを繰り返して、拳句の果ては暴力事件にまで及んだというのは、この

ような教育の延長線上にあると思います。

### 教育で違いを大切にする心を

最後になりますが、私達の世代は正しい歴史学習を通して民族的自覚を確立していかねばならなかつたという人が多いですが、今の学生はどうでしようか。中学や高校で見る本名通学生によく見るのですが、先に紹介した本の中にもありましたが、彼らは日本にいる少數者の朝鮮・韓国人であるけれど、ただそれだけのことなんですね。「チユーリップ畑に咲いている一輪のすみれ」という作文がありました。が、この子たちを見ていると、うちの娘たちもチユーリップ畑に咲いている、バラかランくらいの感覚で、彼らは歩いているだけで、朝鮮・韓国人をアピールしていますし、日本人生徒の中にぽつんといいるだけで国際交流といった趣があるんです。それはどこからきたのかなと思うのですが、家庭教育だけではないようです。「違うということは素晴らしい、同じでないことが素晴らしい」という感覚が実に頗もしいのです。

就学前の子供、六、七歳児が「本名だ」「通称名だ」と本人が選択するのは稀で、ほとんど親が選択して始まります。そのような姿を見ると、親の持つ責任はとても大きいと思わざるをえません。

私のような年命になると、日本人でないメリットもたくさんあります。私のようなものがこのような場所でお話させてもらうのも日本人でなかつたからです。人生を歩むにおいて本質的な言葉をたくさん持てることになりますし、高め合うための刺激、緊張などを持つて、嫌でも前向きに真剣に生きていかざるを得ない立場にあるということは、ある意味ではラッキーであつたかもしれません。在日一世の苦しみを見て育つたということは忍耐を覚えますし、様々な被差別体験は他人の痛みや悲しみにすぐり寄り添える感性を磨くことにつながります。何よりも二つの文化を所有する人間になれたということ

とは、それだけ人生を豊かに過ごせる。料理一つを取つてもバラエティーに富んだものになりますしね。いろいろメリットはあります、これから伸びゆく子どもたちはそもそも言つてられません。

特に義務教育において違うということは素晴らしいという教育、他民族・異文化に対する尊敬心がいつでも持てる教育、本音と建前の使い分けのない人権教育、まだ土俵に上つていない貧弱な状況ですが、人間本来が持つている優しさが生かされる教育を、教育者が平気で使い分けすることがない、言葉と行動が一致するような教育が切に望まれてなりません。

「ご静聴ありがとうございました。」

仲尾　ありがとうございます。お二人ともそれぞれのご体験を通じて、日本社会の中で在日として子どもたちを育てていく、大変な緊張感をもつて生きておられる、それがひしひしと伝わってくるようでした。

お二人へのご質問・ご意見につきましては共通なものはいいのですが、例えば、趙さんに、あるいはユンさんに、ということでしたらご質問の欄にそのように最初にお書きください。

私のほうからは少しだけ時間をいただきまして、皆さんのお手元にお配りした資料の説明をさせていただきます。

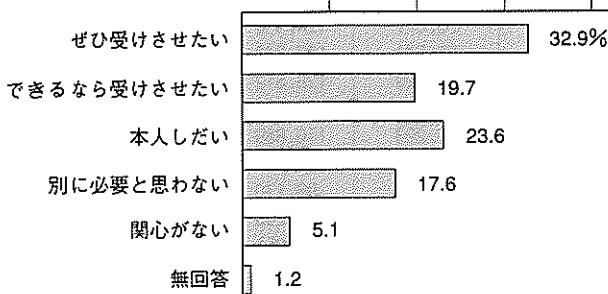
最初に、こういう縦書きの「子どもや孫など、若い世代に民族教育を受けさせたいか」という、横の棒グラフが上有るものをご覧いただきます。これは少し前の統計ですが、そこにあるように「日本の中の韓国・朝鮮人、中国人」という神奈川県内の実態調査です。これで見るとやはり、「別に必要はない」という人が一七・六%、「関心がない」というのが五・一%等々で、残りの約八割近くの人が、「ぜひ受けさせたい」か「できるなら受けさせたい」、あるいは「本人次第」ということあります。

少なくとも七五%くらいの在日の人が子供さんの教育について民族教育は必要であるという認識がありますあるということが出ています。(表1)

表2は、文部省の調査によりますが、「日本の学校に在学している在日朝鮮人の学齢児童の生徒数」が一九五六六年が一二万六千名だったのが、七二年では七万名になっています。その後の調査はまだ私は目に

していませんが、ほぼ横這いであろうかと思います。六〇年前後に少し減っているのは、朝鮮民主主義人民共和国への帰国運動があつて、ある程度帰られたということが反映されているのではないかと思います。(表2)

表1 子どもや孫など若い世代に民族教育を受けさせたいか(サンプル=866人)



(注) 「日本のなかの朝鮮・朝鮮人、中国人一神奈川県内  
在住外国人実態調査より」(明石書店)

次に同じく縦の表ですが、「市立小・中学校における韓国・朝鮮籍児童の在籍状況」というのがあって、これは京都市の在籍数です。左肩の五八という数字は昭和で、一九八三年になります。最後の四は一九九二年になります。この一〇九年間でどういう異動があつたかという表ですが、先ほどの全国傾向とほぼ同じです。六〇年を境に僅減しましたが、一九九二年の段階では、小学校で二三三〇人、中学校で一二九〇人。とともに全児童・生徒に占める割合は、二・七%、つまり一〇〇人に約三人の在日の子供たちが小学校、あるいは中学校に通っていることになります。ならすと一クラスに一人くらいはいらっしゃるのが実情です。(表3)

表4 「京都の民族学校」を御覧下さい。まず訂正を申しま

表2 日本学校在学の在日朝鮮人学齢児童・生徒数  
(1956~1972年度)

年 次	小 学 校	中 学 校	計	前年比増減
1956年	89,879	35,077	124,956	
57	91,702	35,541	127,243	2,287
58	92,483	36,329	128,812	1,569
59	91,394	35,934	127,328	- 1,484
60	80,596	36,293	116,889	-10,439
61	71,444	35,485	106,929	- 9,960
62	65,953	33,217	99,170	- 7,759
63	62,710	32,495	95,205	- 3,965
64	59,405	31,646	91,051	- 4,154
65	57,078	30,314	87,392	- 3,659
66	52,799	28,731	81,530	- 5,862
67	50,836	26,907	77,743	- 3,787
68	49,418	25,557	74,975	- 2,768
69	48,797	25,253	74,050	- 925
70	50,032	24,848	74,880	830
71	48,222	23,479	71,701	- 3,179
72	48,328	22,584	70,912	- 789

(注) 文部省「学校基本調査報告書」(各年度)による。

表3 市立小・中学校における韓国・朝鮮籍  
児童・生徒の在籍状況

○年度別の在籍数 (各年度の5/1現在)

年	小 学 校		中 学 校	
	人	(%)	人	(%)
昭和58年	3,614	(2.9)	1,659	(2.8)
59年	3,535	(2.9)	1,722	(2.9)
60年	3,422	(2.9)	1,709	(2.8)
61年	3,131	(2.8)	1,757	(2.8)
62年	2,941	(2.8)	1,672	(2.7)
63年	2,783	(2.8)	1,562	(2.7)
平成1年	2,671	(2.8)	1,450	(2.7)
2年	2,620	(2.9)	1,361	(2.7)
3年	2,477	(2.8)	1,295	(2.7)
4年	2,330	(2.7)	1,219	(2.7)

左の年は日本年号。 ( ) 内は、全市児童・生徒数に占める割合

すと、最初の京都韓国中学というのは間違いで、京都韓国学園中・高等学校です。このように全部で七校ございますが、二つ目の京都信明学校は夜間の外国語の学校です。これは各種学校の認可を取つておられるところを並べたので、夜間の外国語だけの学校ですが、ここにでてまいります。これを除いた六校が京都にある民族学校（韓国学校、朝鮮学校）です。その生徒数はおよそ一三〇〇人ぐらいと聞いています。その所在地を見れば、京都市の中で集中されている地域というのがほぼ想像されると思いますが、必ずしも集中地区ばかりとは限りません。長い反対運動の後、東山区に本拠地を見つけられた京都韓国学園中・高等学校のような場合もあります。こういう民族学校は、戦後しばらくは日本にいるだらうという在日の方々の親御さんの熱意で全国各地で作られました。それをGHQ総司令部や日本政府は認めないで武装警官を使つた弾圧をしました。そういう中を生き延びてこられて、発展に努力してこれらた関係者の方々の努力が今このような学校として残つてゐるわけです。（表4）

三枚目の「京都市立高校における外国人在学状況」、これは先ほどの数字をさらに詳しく行政区別・学校別・学年別に分けた数字、しかも男女別も出ています。これが一九九二年五月現在の概況です。

（表5）

「京都市立学校の外国人教育方針——主として在日韓国・朝鮮人に対する民族差別をなくする教育の推進について——」という文章は、京都市教育委員会が昨年三月に制定して、市内の小中高に配布したもので、本来これは京都市の全ての学校に行つていらつしやる子どもさんをお持ちの在日の方だけではなく、日本人の家庭にもいくべきだと思いますが、まだそこまでにいっていません。今日も初めて見たとおつしやる方があるかもしれません。実はこれは十数年来、「京都市における在日の子供たちの教育についてどうしていくんだ」ということの、熱心な先生を中心とした運動が実つて、ようやくこういう方針が決まつたわけです。全市で約三〇〇〇人の子供たちが学んでいますが、子供たちに対する教育を、

教育委員会としても熱心に取り組んで行かねばならないという、ある意味では決意表明かと思います。但し、現場のほうでこれからどうしていくのかという方針については、先ほどのお二人のお話の中の言及もございます。むしろ課題はこれからだと思います。ともかくこういう方針が全国の政令指定都市の中で、京都市も出たということは一つのステップになると思います。今日のテーマに即して、ぜひ皆様に知つていただきたいということで配布させていただきました。

只今から少し休憩を取らせていただきまして、その間に質問・意見をまとめさせていただきます。そしてそれを整理してそれを受けて、後皆さん方とのお話を展開をさせていただきたいと思います。

表4 京都の民族学校

		設置年月日	科別	
京都韓国学園中学・高等学校	東山区	1947. 9. 8	外国人	昼
京都信明学校	右京区	1949. 5. 30	外国语	夜
京都朝鮮第一初級学校	南 区	1949. 11. 21	外国人	昼
京都朝鮮中高級学校	左京区	1953. 5. 18	外国人	昼
京都朝鮮第二初中級学校	右京区	1969. 12. 26	外国人	昼
京都朝鮮第三初級学校	北 区	1969. 12. 26	外国人	昼
舞鶴朝鮮初中級学校	舞鶴市	1970. 12. 25	外国人	昼

表5 京都市立小・中・高等学校等における外国人在学状況

(1) 小・中学校

(1992年5月2日現在)

区分 校種・ 行政区別	韓国・朝鮮												その他の外國						総合計		
	韓国・朝鮮						その他の外國						総合計			男			女		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	男	女	計	男	女	計	
北	21	21	17	23	24	18	69	55	124	2	1	3	1	2	5	7	71	60	131		
上京	8	14	6	9	11	10	32	26	58	2	4	2	1	4	5	9	36	31	67		
中京	14	15	16	27	15	19	66	40	106	1	1	4	2	2	1	7	4	11	117		
下京	7	6	8	5	11	7	27	17	44	1	1	3	1	1	2	4	6	29	21		
南	71	105	97	107	94	101	304	271	575	3	1	2	2	4	6	306	275	581			
左京	25	31	27	31	28	96	73	169	15	10	6	5	7	11	29	25	54	125	98		
東山	5	3	5	9	7	5	17	17	34	1	2	1	1	2	7	7	17	17	34		
山科	13	12	14	10	15	15	42	37	79	1	2	1	1	2	7	7	49	87	86		
京	57	61	63	79	77	75	202	210	412	1	1	1	1	1	1	2	203	211	414		
西京	46	41	48	50	47	48	155	125	280	1	1	2	2	4	6	157	129	286			
伏見	58	66	78	70	74	103	235	214	449	5	9	8	10	6	1	21	18	89	256		
校	325	375	379	420	402	429	1,245	1,085	2,330	29	29	30	24	19	16	77	70	147	1,322	1,155	
計	17	25	24							1		1	1	1	1	39	28	67			
北	8	7	4													2	2	13	8	21	
上京	27	26	24													6	2	8	41	44	
中京	28	29	38													2	3	10	88	98	
下京	71	69	89													1					
南	21	35	31													132	97	229			
左京	7	4	2													6	7	13	60	40	
東山	17	17	16													1	1	4	10	14	
山科	73	79	87													133	109	242			
京	32	46	37													65	50	115			
伏見	71	84	74													112	126	238			
校	372	421	426													637	622	1,259			
計	619	600	1,219													15	12	13			

## 第一部

### 質疑応答

司会 それでは只今より第一部を始めさせていただきます。これから、先ほど皆様から寄せていただいたご意見・ご質問を元に進行させていただきます。仲尾先生お願ひいたします。

仲尾 それでは第一部を始めます。お一人に全部で九人の方から質問・ご意見が寄せられました。まず最初に個別に、ユン・マルジャさん、趙順南さんに質問がある分を一問一答の形で答えていただきます。その後共通してお二人に対するご意見、並びにご質問についてもう一度私がまとめて読み上げますので、その後にお二人からお二人の思いを語っていただくという形で進めさせていただきます。

ユン・マルジャさんへ三点質問がござります。まず一つ。

「桂小学校卒業式の時、『君が代・日の丸』を強制されませんでしたか。私の娘は日本人ですが、思うところあって、『君が代・日の丸』の強制に反対なので、在日韓国人の友人とともに、親同士共闘して学校当局に強制しないように毎年働きかけています。」

ユン 強制は一切ありませんでした。入学式のときもそうでした。ただ、先生の中でも父兄の方でも『君が代』の最初のときに椅子に座られる方がかなり多くいらっしゃいましたし、それから娘が卒業証書をもらうことで、担任の先生ともう一人の先生から電話があつて、それは私のほうからお願いに上がらうとしていた矢先だったのですが、元号でもらわないで、西暦でもらいましようと、先生のほうから言つていただきました。但し、既製のものでもう出来上がつてるので、元号のところが訂正印が入つ

て醜くなるかもしれないけれど、頑張つて西暦でもらいましょうと、先生から言つていただきました。校長のほうにかけ合いました。初めは、そういうことをすると「自身問題があるということで、校長先生が渋りましたが、先生のほうが金伽耶という本名で六年間頑張つてくれたんだから、最後のご褒美として西暦あげましょうということでおひただきました。

仲尾 もう一つ次の質問に移ります。

「韓国の幼稚園に行かれた理由と、韓国の都会の幼稚園のどのような点が日本の幼稚園と同じで、どのような点で田舎の幼稚園に行かせたのか、理由をお聞かせください。」

ユン ソウルの幼稚園は非常にきれいでした。設備も非常に揃っていますし、給食制度もあります。教育も、手作業をしたら知能がよくなるよ、というようなものが全て整つていて教えてくれるわけです。私自身、娘をどうして韓国の幼稚園に入れたかったかと申しますと、非常に個人的なことですが、私は「故郷の春」という歌が大好きで、知らない方が多いかと思いますが、本当に牧歌的な田舎の歌なんですね。願わくば、娘にそういう朝鮮の山河を見せてあげたいということで、田舎の幼稚園に行かせました。

仲尾 分かりました。ではその次にまいります。

「なぜ長女を韓国中学に通わせようと思いましたか。日本学校がいやになつてそうしたのですか。自分の民族についてもつと学ばせ、自覚を持たせたかったからですか。」

ユン 本人は私立の中学校を希望していました。それは理由があつて、父親がそだといふこともあり

ます。小さい時から父親が「あそこの中学は平等で、伽耶が思いきり勉強できるんだよ」ということを常々申しておりましたので、本人は無意識的にその中学にいきたいと望んでいましたし、一生懸命勉強していました。ところが結果は受験に失敗しまして、私もいろいろと第一の学校を捜しましたが、本人が本多山に連れて行つて欲しいと。親のほうは何も言いませんでした。本多山は韓国学園のあるところです。父親と二人で見てきて、最終的には本人が「お父さん、そこに行かせてください」と、望んで行つたことです。とりたてて強烈な民族教育をしようということを私達は考えていません。やはり、韓国一辺倒というのは、私自身それはおかしいことだと思いますし、ましてや在日韓国人ですから、双方の中でも豊かに生きていくことを一番望んでいます。韓国学園にいれて民族教育を、というキヤッチフレーズがあるかどうかわかりませんが、そういうことは望んでいませんし、また韓国学園でも非常に強烈な民族教育はないと思います。

仲尾 以上三点がユン・マルジャさんへの質問です。趙順南さんに対する質問がまず  
「いります。  
「これからも子どもたちは日本の学校に通わせますか。今後、子どもたちの将来についてどのようにお考えですか。」

趙 一番下が中学二年生で一番上は大学二回生です。常々私達が子どもたちに言つていることは、日本にしがみついていなければならない理由はひとつもない。できるだけ日本以外の国で住みなさい。韓国・朝鮮人にとつては世界中で日本ほど住みにくい国はないし、精神的に殺されている、と言つています。世界中で本名が名乗れない国が他にあるでしょうか、という意味においてですね。最低限大学の一

年や二年、望ましくは四年、今私達の立場なら韓国の大学を修めるようにと、口癖のようにいつています。

仲尾 次の二つの質問は、必ずしも趙順南さんに対するものではないのですが、先ほどのお話との関連で、趙さんにお答えいただいたほうがいいかと思いますので、読んでみます。

「差別は無知より出ると思う。無知を制するのは教育です。教育のよりどころである教科書が文部省という行政の枠にはめられているところにも、一つの問題があると思います。教育だけ三権から分離したものにすべきではないか。そこから自由な国際化も生まれてくるのではないかと思います。これまでに管理下におかれた教育だと感じられたことはありますか。」

趙 小学校の高学年になると、結構教科書を越えて、先生方の努力で朝鮮・韓国に対する悲しい歴史、歴史の光の部分について触れた教育や授業をしてくださる先生もいらっしゃるのですが、ある時、受験勉強のように字面を追うのではない、痛みを負った人の心に迫るような学習のできるプリントがあったので、こういったものを使っていただけませんかと言うと、テキスト一つ使うにしても、教育委員会の許可がいるので、問題が大きくなるからそれを使うことはできないといったこともございました。

それから卒業式は必ず先生方が前もって私に「すみません。私たちの本意ではないのですが『日の丸』が掛かっていますし、『君が代』が流れますが、どうぞ退席していただいても結構ですし、お座りになつてくださいとも結構です。お子さんにもそうおっしゃつていただいて結構です」という申し入れを受けたことがありますし、ある学校では、私どもの娘をもつたというだけで、まだ十分に勉強したわけではありませんが、金の前で「日の丸」に向かつて敬意を示すことはできないということで、皆さ

んの前でその先生だけ着席しておられた。後で主任の先生に伺うと、みんな着席したかったけれども、問題が大きくなるので担任の彼だけそうするようにみんなで決めたことです。どうぞご遠慮なさらないでくださいという答えをいただいたこともあります。

仲尾 今、実例を上げて、管理ということについてのケースをご紹ひただいたと思ひます。もう一つ、一二三才の女性からですが、「私の小学校時代、人権問題として同和問題をよく学びました。しかし、在日韓国・朝鮮人問題はあまり学んできません。現在でもそのような状況なのでしょうか。これから親になる者として子どもに教育することがとても大事なことだと思うのです。」

という質問です。

趙 人権週間に絡んで、年に一回だけ保護者を対象にした同和問題の学習会がございます。普段、夏休みや春休み前に「お小遣いはいくら与えたらいいでしょうか」という話し合いの保護者会でしたら、常時二〇～三〇名集まるのですが、人権学習と決まっているときはいつも五～六名なんですね。勉強する内容は、歌の文句のように「士農工商エタ非人時代がありました」とか、いかにも知らない人までが間違つて覚えてしまう、それで同和教育を終えてしまつたような錯覚を与えるような学習でした。そういう席に私達がいると、外国人教育の場合はどうですかと意見を求められて、ついでに話し合うという状態で、特に在日外国人のために設けられた時間はなかつたように思います。

仲尾 私からも少し付け加えさせていただきますと、定住外国人問題を正面から取り上げるという教

育はまだ非常に少ないと思います。私の経験で言いますと、行政の研修、市役所・区役所、府庁の職員方への研修も、在日の問題についてはほとんど従来は取り組まれていなかつた。二二二一、三年、重要なことになつて私のところにも最近ちよくちよく声をかけていただくのですが、そこで聞くことは、市役所や府庁、教育委員会が主催する管理職への研修でも、「こんな問題、初めて知つた」「初めての研修だ」ということをよく耳にします。ですから、今まさに始まつたばかりというものが現状ではないかと思います。

次に、民族学校の問題についてです。

「およそ一〇年ほど前に、朝鮮系の民族学校（滋賀県大津市に所在する）の小中学校に一度だけ行つたことがあります。その時教室の机や椅子がてんでバラバラ、つまり大きさや高さがまちまちで、日本の学校に比べて著しく設備が劣つていることに驚きました。現在では、民族学校の施設・設備面で日本の中学校に比較して劣つているということは、少しはまだあるのでしょうか。京都市内の学校についてで結構です。」

これは韓国学園に子どもさんをやつていらつしやるウンさんにお答えいただきます。

ウン 私は子どもが決めた時点で、桂の校区の中学校にも行つて来ました。設備面ではよくありませんでした。それからいくつかの私立にも行つて来て、最終的に韓国学園に行きましたが、それまでに何度も行つて来ましたがとてもきれいです。本国の方からも援助を受けているようですが、在日韓国人の融資、そういうことの志をもつていらっしゃる方の援助が非常に大きいわけです。ところが、私達は日本政府にたくさん税金を納めているわけですが、そういう税金は公立の小学校や中学校にはいつているでしょうが、私達の民族学校はどうなつているのかなど深く疑問に思います。

仲尾 付け加えていただくことはございませんか。

これも私のほうから補足させていただきますと、今おっしゃったように、民族学校についてはほとんど設備・備品の面での行政からの援助はございません。「ほとんど」というのは、完全にゼロではなくて、確かに年額二〇〇万ですか、補助が出ています。しかし、基本設備については全くありません。校舎の建て替えという大事業になると独力でやらなければならないということで、大変問題が多い。今年になつて、京都の学者・文化人が、民族学校の施設面についても、行政が援助すべきではないかという運動を起こされまして、私も事務局を務めさせていただきましたが、京都府に対してもそういう要望を出しているというのが現状です。

隣の滋賀県では、ちょっと面白い例ですが、大津市にフィンランド学校というフィンランドの方々の学校があります。その建て替えについて、県か市かどちらか忘れましたが設備を含めて援助された。それが前例となつて在日の行つておられる民族学校についても出すという話が出ていると聞いています。そういう点では、京都府・市に対して一段の努力が望まれる段階かと思います。

それから、この次からはお一人に、という質問、あるいはお二人の指名がないので、お二人にそれぞれ思いを語つていただきたいと思います。最初のケースは、

「私はお二人と反対の立場で、私の息子が高校を卒業して韓国へ渡り、一年ほどソウルの会社社長の家に寄宿し、高麗大学校に入学し大学を卒業し、その上の大学院に進み、韓国の娘と仲良くなり、一昨年、九年ぶりで帰国してきました。その息子が男子を恵まれ、その男子の子どもに「ソウル」と名付けているようです。その嫁は日本語の勉強に一生懸命です。立場があなた方と私の場合は全く逆なので、要点を分かり易くお答えください。」

先ほどもお二人とお話ししていたのですが、その要点というのはこのお孫さんの将来、つまり一つの文化

を背負つて生きていかれるわけですが、そういうことについての思いを、立場は逆ですがどのようにお考えですか、ということに解釈して、お一人にお話いただけたらと思います。どちらからでも結構です。

ユン 私は一年間ぐらいですが、それまでもわりと長い期間を区切つてソウルのほうに勉強に行つていました。その中でいろんな国の人とお友達になりましたが、やっぱり日本の方で短期留学という形で来ていた方でした。韓国の大學生と結婚した方がいらっしゃいました。今も幸せに暮らしていますし、お互いにいいところをどんどん取り入れて、本当に生活しています。このような御夫婦の間に生まれたお子さんは、両国の素晴らしいを受け継いで、眞の国際人として歩まれると思います。

趙 質問を出された方は、お姑さんかお舅さんですね。その方に何よりもできるだけ朝鮮の歴史や韓国の文化をたくさん勉強していただき、そのお嫁さんに日本の文化をたくさん教えていただき、どちらの文化も大切に、どちらの生活習慣も大切に、そういうことを大切に生活を當まれていかれるなら、お孫さんも二つの文化を大切にする、二つの民族を愛する子どもに育つのではないかと確信しています。

仲尾 ありがとうございました。次は在日の方からの質問で、自らへの問い合わせもあると思います。

「私も同じ在日三世で、中学生の子どもを持つ母親としても良く理解でき、また考え方をせられるお話をしました。民族に対する意識は別にしても、子どもに対する思いは在日の親として皆同じだと思います。でも、具体的に子どもに働きかけられることは、親の力はまちまちです。お二人は、家庭の力・親の意識が一致して高く理想的ですが、もっと広く在日の子どもたち全般に対してもどうあるべきだとと思わ

れますか。」

子どもたち全般というお尋ねですが、当然これは親御さんへの思いも含まれていると思いますので、それを含めてそれぞれからお話を聞かせていただきたいと思います。

趙 例えはどうでしょうか。イギリス人がフランスに住んでいるのではなくて、これだけ社会的な制約の中で生きているわけですから、朝鮮人であるとか韓国人を意識しないで生きるということは全く不可能なことです。むしろ真剣に生きていくことを放棄することすら意味します。ならば、先ほども申し上げましたように強烈に、日本に住む朝鮮人・韓国人をアピールして生きるということは、とても大切なことです。周りの日本人をも高めていくという意味で。具体的にどのようにすべきか、一つの方法として、例えば西京区では日本の学校に通わせている朝鮮人・韓国人のお母様方がグループを組んで、子供たちを連れて焼肉会を開いたり、歴史や文化を学ぶ会を開いたり、先生方との懇談会に横の繋がりを持ちながら臨んでいくという、集うこととともに大切にしているグループがあります。昔は集うことさえ国から取り締まられたということから思いますが、このことはとても大切で、お互いに話し合いながら、励まし合いながら、学びながらいくということは、多くの人が無認識、無関心である今の社会において、とても大切なことであると思います。異国にあっても、祖国を知り、民族的自覚と誇りを持つということは、日本人でも愛せる、日本文化も大切にできる人間としてのスタートでもあると思うのです。

ユン 私の場合は、向こうに家があつたりしましたし、確かに経済的なものは大きいと思います。ところが、経済的なものがあれば全部が解決するかというとそうじやないと思います。もちろん親の意識ということもあります。私は三世ですから、一世二一世の大変な日々を実際見てきているわけです。と

ころが、四世になるとそういうのが分からぬわけです。ですからそういうものを伝える使命が私達の世代だと思います。ですから私は、子どもに一生懸命勉強して、一生懸命生きること、おじいちゃんやおばあちゃんが頑張ってきた、その道を絶やすことなく続けることが大事なんぢやないか、ということを常々言っています。ところが祖父母は血縁関係にあるわけですが、歴史を見た時にいろんな人がいろんな思いをして、ここまで歴史を引っ張ってきたわけですから、経済的なこと以外でも子どもの意識はそういう観点から考えても伝えてあげるという役目は、私はあると思います。

仲尾　ありがとうございました。

「教科書の意図的な欺瞞性など、厳しい指摘があり参考になつた。外国人教育の後退などおっしゃるところだ。本名か通称名かの問題は学校は完全に保護者任せである。できるだけ気付かないようにといふ、事なき主義が教育現場にあることは間違いない。ただ、京都府の場合、外国人教育の指針が未策定であり、一教員としてどういう姿勢で在日の人達と接するべきかということが分からぬ。歴史の勉強が不十分な同僚も多いし、せめて京都市のような方針の策定が必要である。先生との出会いの影響が大きいのは分かる。しかし私自身そんなに学校教育の求心力が今あるのか、疑問がある。社会背景・家庭環境等のほうが影響が多いように思う。『日の丸・君が代』はなかなか難しい。現場での混乱の指摘はあるが、むしろそれが日本に文教政策の一貫であり、明らかに上からの動きである。首を掛けても反対する必要があるのでしようか。」

「という、ある意味では大変深刻な問題としてとらえられておりますが、「日の丸・君が代」の問題については先ほども少しお答えいただきましたので、それだけではなく、この方がおっしゃつておられることで、私が主観的に取り上げさせてもらいますが、学校教育に今求心力があるのだろうか、何ができる

るのだろうかという日本人の教員側の疑問、率直な告白だとも思いますが、そのことについて、在日の親御さんとして日本人の先生にどういうことを望んでいらっしゃるか、ということを率直にお答えいたくことが一番いいのではないかと思いますので、その辺についてお二人それぞれ御考えを述べていただければと思います。

趙 四人の子どもを持つて思うことは、今のご意見とは全く正反対で、特に中学生、高校生になると親の言うことよりも先生、それも朝鮮人問題に関しては日本の先生が正しく教えてくださることがとても大きな効果があると思います。四人とも口を揃えて言っていることです、すこし誤解を承知で言うと、「何でも日本人が悪者で、朝鮮人が良い者でと親の話して出てくるけど、今日、先生が言つてたけれど、本当に日本人で悪かつたな」と。親が言つている時は結構反発して聞くのですが、それが学校という場で日本人の口から聞くと結構受け入れるものなのです。でも、言論統制の激しい中でも、朝鮮独立運動のために立派に闘つた日本人の話（柳宗悦や布施辰治）を必ず私達は言い添えて、困難な時代にも生命をかけて弱者のために闘う日本人のことを、逆になれば、かくあれという願いを込めて話しことく歴史教育を心がけますが、学校教育において先生の持つ力は大きいです。自信をもって言えます。「日の丸」の問題ですが、最近では掲揚しないとペナルティが課せられましたね。アンクル・トムズ・ケビンを書かれたスナー夫人の弟ですが、「国旗や国歌、特に国旗は、あのデザインは素晴らしいなど見る人は少ない。必ずその国旗の持つ政治・信条・社会といったものを合わせて見るものだ」と言っています。今こういう状態の時に「日の丸」をある時にペナルティを課してまで掲揚させる必要があるのかどうか、自然に「日の丸」をみんなが心から掲揚できる、そういう条件を先に整える方が大切だと思います。

ユン 私は桂小学校が初めてでしたので、先生が韓国のこと学ばれていましたし、授業の中でもカリキュラムはきちんとされていましたが、それ以外のほんの僅かな時間をさいて韓国のこと勉強する時間を作ってくれました。学校によつては民族学級を設けている学校もあるみたいですが、桂はませんでしたので先生の熱意でやつてくれました。子どもがその中でたつた一人の本名の韓国人でしたが、豊かに生活できましたから、それはそれは先生の力は大きいと思います。

歴史を勉強していくうちに先生が「仁徳天皇陵はどうして開けられないか」というと、開けてしまうと朝鮮半島との繋がりがすごく大きいからだよ」と授業中におっしゃったというのです。子供は非常にびっくりして帰つきました。私もそこまで言い切る先生はすごいなと思いましたし、子どもはその影響もあつてか、歴史は非常に勉強しました。もちろん家庭教育は大事でしょう、ベースは家庭教育になると思いますが、成長していく過程でいろいろなものをたくさん身につけていくのは、先生、友達、特に先生は非常に大きいと、子どもを学校にいかせてしみじみと思いました。

「日の丸」ですが、先生や一般の父兄の中でも痛みを感じて分かつてくださる方がこれだけいるのに、文部省は今おつしやつたようにペナルティを付けてきているのですね。卒業式の時に先生が「卒業証書はそういうふうになりましたが、『君が代』は残念ながら外すことができません。ペナルティが付きました」とはつきりおつしやいました。「思いがこんなにあるのに、現実は『日の丸・君が代』を強制していく時世はおかしいですね」とおつしやいました。私も非常に首をかしげるような具合です。

仲尾 有難うございました。以上で本日皆様方からいただきました質問・ご意見に対する回答、並びにご意見をお二人から改めてうかがいました。

今日、お二人のお話をうかがつていまして、私が痛感したことのまず第一は、お二人とも子どもさん

の教育について日本で生活している、これからも暮らしていくであろう在日の子供たちという視点から二つの民族の、ある意味ではダブルの文化をきちんと大事なことだと認識されて教育されているということですね。ユンさんの場合は伽耶という日朝・日韓の架け橋となる地域の名前を付けられた。あるいは趙さんのお話にもありましたように、日朝・日韓の正しい歴史を知るにつれて安らぎを覚えた。そういうものを正しく子どもに伝えていきたいという思い、これはこれから在日の子どもさんに対する思いですし、これに対しても日本社会、日本人はどうのように答えていくか、ということが課題ではないかと思います。

そういう点でお話の端々にありましたように、小学校のときから言葉の暴力という形で、ひどい差別・偏見が子どもの社会の中にも蔓延している。それを日本人の親や教師がどのように捕まえるのか、あるいは知っているのか。恐らく大多数の親御さんや教師はまだそういう現実を知らない。つまり在日の子どもたちが日本の社会・学校の中でどういう思いで生きているか、十分に思いを満たしていないのではないかという気がします。これを私達日本人がどのようにこれから掘り起こしていくかということを、今日はいろいろな形で問われたように思います。

それから、これからもやはり民族学校の場合も交流が大切だということをおっしゃいました。韓国学園でもそういう機会があつたようですし、朝鮮学校でも今年そういう機会が持たれたと聞いています。さらに本名について申しますと、約三〇〇〇人の子どもたちは殆ど通名、日本名で通っています。そういう中で子供たちが本名で生活していける、学校で暮らしていける社会であるかどうか。これは誠に教師の責任が大きいと思います。私の短大の例で申しますと、在日の方で本名で来ている学生は、一二〇〇人の中でもたつた一名です。ところが同和教育や民族史の中で、在日の歴史、日朝史をやつていくと、「実は私も在日なんだ」という人がボロボロと言つたら大げさですが、あちこちから出てくる。恐らく

二桁います。ところが、肝心の教師が私も含めて知らないままにきてしまっています。最近「私もそうなんだ」と積極的に言つてくれる生徒が増えて、大変心強いし、私達はその学生たちの思いを教師をして真剣に受け止めて、本名でも彼等が生きていけるような学校にしていかなければという思いを深くしています。

今日のお二人のお話は様々な大切な課題を私達に投げかけていただいたと思います。むしろ問題はこれからであります。最後の方のご意見にもありました、京都市では教育方針が出ましたが、京都府ではまだ出ていません。これについては、例えば子どもが京都市から京都府に転校した途端に、在日教育について学校の先生の指導のレベルが違うことが起つてくる恐れがあるわけです。その点で、京都府に対する働きかけは非常に大事だと思います。実は昨年、京都で「全国在日朝鮮人教育研究協議会（全朝教）」が開かれまして、それのお世話役をさせていただいたのですが、その特別決議として、京都府教育委員会に対して「府においてもこの教育方針を速やかに立案・施行するよう」という要望を持つていきました。その時の教育次長の話では、「主旨は分かりました。しかしもう少しお時間をください」ということでした。その「もう少し」という時間が一日でも短いこと、なるべく早く作つて、ただくことを要望して帰つてしまひましたが、まだこれから始まつばかりですから、先ほどの高校の先生もメグズに現場でどんどん発言していただきたいと思います。それが行政を変え、日本の社会を変えていく第一歩となつていくのではないかと思います。



## 第一回 「若者たちの祖国観と日本観」

パネラー

金修堅氏（在日三世・団体職員）

池榮二氏（在日三世・団体職員）

コーディネーター

仲尾宏氏（京都芸術短期大学教授）

一九九三年一月二十一日実施



## 第一回 「若者たちの祖国観と日本觀」

### 第一部

司会 本日はお忙しい中出席くださいましてありがとうございます。開館三周年事業としまして連続フォーラム「在日韓国・朝鮮人は今—その生活と意見」を開催しましたが、それに続きまして今年は「チヨゴリときもの 新しい時代に向かう日本人・韓国・朝鮮人」を開催します。本日はその第二回目として「若者たちの祖国観と日本觀」を開催いたします。

それでは本日のコーディネーターの方とパネラーの皆様を紹介させて頂きます。コーディネーターの仲尾宏様です。仲尾様は前回の連続フォーラムに続きまして、今年もコーディネーターをお願いしています。パネラーの金修堅様と池築二様です。お一人とも在日三世の方で、今現在、団体の職員です。

なお、お話を聞こうということになりました。二人の若い在日の方を迎えるました。お一人は金修堅さん、もう一人は池築二さんです。

仲尾 皆さん今日は。お寒い中をよくお越しいただきました。前回、ちょうどクリスマスイブの日でした。二人の若いオモニをお招き致しましてお話を伺いました。その後を受けて、今日は活きのいい、青年のお話を聞こうということになりました。二人の若い在日の方を迎えるました。お一人は金修堅さん、もう一人は池築二さんです。

金修堅さんは朝鮮民主主義人民共和国の国籍をもっておられ、その在外公民ということであります。

池榮一さんは大韓民国の国籍をもつておられます。最初にそういう紹介を申し上げたのは、言うまでもなく今、朝鮮半島に國家が二つある、一つの民族が二つに分断されている、そういう歴史的な事実と現状を踏まえてのことであります。今日のタイトルが「若者たちの祖国観と日本観」ということですので、お二人の国籍の違う方をお一人ずつお招きいたしました。

しかしながらお二人はいずれも在日の方です。ましてや祖国の国家や政府を代弁される立場ではございませんので、そういうお話にはならないと思いますので、後ほどのご意見・ご質問にも、それぞれの政府がどうか、政策がどうかということはちょっととの外れなことになりますので、お二人の祖国への思い、い、在日としての日本社会への思いを、縦横に語っていただこうというのが今日の主旨ですから、一つ宜しくお願ひします。

それでは長幼の順をとりまして金修堅さんからお話をいただきます。

### 日本教育の中で育つ

金 始めまして。長幼の順ということで、私が池榮一さんより少し年上ということで私のほうから始めさせていただきます。

まず自己紹介をかねて、自分のこれまで育つてきた経緯を述べておきたいと思います。その理由といふのは、急に祖国をどう思うとか、日本の社会についてどう思うと聞かれましても、私の生まれた家庭なり、自分が民族意識をもつた過程を理解していただいた方が、どういった思いを持つようになつたか理由をよりよく分かつていただけるのではないかと思います。与えられた時間だけで、到底自分の思いを述べることは不可能なんですが、とりあえず自分が言いたいことはまとめてきましたので、何分足らない部分がたくさんあると思いますが、ご質問のときにいろいろ聞いていただければありがたいと思ひ

ます。

私は在日二世という形で紹介されたのですが、算数計算をすると、一一・五世ということになります。私の父親が一世、向こうで生まれ七つぐらいでこちらに渡つて来ました。私の母親、オモニはこちらで生まれた二世なので、二世と一世の間ということです。生まれたのは一九六四年です。ちょうど今年満三〇歳になるので、二〇代の若者ではありませんが、去年お話をあつたのはちょうど一九歳の時でぎりぎりかかつてました。年配の方々がたくさんおられる前で、自分が若者でないと言うとお叱りを受けそうな気がしますが。

私が生まれたのは大阪です。大阪で生まれて転々と家を変わりましたが、最終的に小学校の四年生のとき、朝鮮人が一番多い生野区というところで育ちました。生野区という町は約四分の一が在日同胞の方が占めていまして、小さな時から育つていく中で差別を受けた経験は皆無に等しいんです。逆に言えば、同胞の方たちがいじめをしたという部分も若干あつたりもするんですが、そういう中で育つてきましたわけです。

今、朝鮮籍ですが、自分の意思で選択したというよりも、たまたま親が朝鮮籍だったので、韓国籍に変えようと思わず、自分も別に変えたいと思わなかつたので、今現在も朝鮮籍です。今では朝鮮籍であるトイコール北朝鮮の国籍というふうに理解されています。

私は、幼稚園から大学まで体系的な民族教育ではなくて、日本の教育を受けてきたわけです。日本の教育を体系的に受けてきたのですが、その中で自分が朝鮮人であると、朝鮮人として立派に生きていかなければ駄目だという教育は自分自身受けた記憶がないわけです。どちらかというと、日本の社会にいかに貢献していくのか、日本社会にいかに若者としてかかわっていくのか、という教育は受けたのですが、そういう意味でいくと後でも触ますが、自分がなぜ在日朝鮮人、特に朝鮮人としての自覚を持つ

ようになつたのかは違うきつかけがあつたわけです。

### 本名と通名のはざまで

今は一つの家庭に一人、三人目を生むかどうかということで最近新聞に出でたり、テレビでフオーラムをやつっていましたが、私は六人兄弟の長男で下に弟が四人、上に姉が一人いるという構成です。

中学校のときに生野区のど真ん中の学校だったので、本名で通えと言われましたが、私は本名に対する抵抗があつて、ずっと拒否し続けたのです。ところが、一つ上の姉は素直に本名宣言をするといふことで、片や金<sup>まき</sup>で行くし、片や金本という通名で通つていて、その時から少し自分が朝鮮人であること、民族的な意識は持つてたわけです。それ以外でも、法事や冠婚葬祭で自分が朝鮮人であることは、小学校の時分から気が付いていて、ただ名前に関しては抵抗というか、考えさせられるものがあつたわけです。そのまま高校に進学するのですが、高校に進学しても一切本名も名乗らず、自分の通名で生活していました。

ところが、周りは在日の方がたくさんいますので、別に名前なんて関係ない、自分は朝鮮人であるという意識は持つているし、誇りも持つていてるんだ、今更名前を変えても……という意識があつたんですね。

今考へると、名前ということが、例えば本名を名乗ることによって自分は差別されるのではないかとか、本名を名乗ることによって今までの親友が親友でなくなつてしまふのではないかとか、その当時、好きな女の子がいたので女の子に嫌われるのではないかとか、そんないろんな危惧をもつていたんだと思います。逆に言えば、自分が本当の朝鮮人であることを全面に出して生きていかなくては駄目だとうところまでは覚醒されていなかつたと思ひます。

そういう過程の中で、自分が朝鮮人として生きていかなくては駄目だと思い出したのが、大学に入る前後です。というのは、中学生のときに自分の一つ上の姉と同じ学校で、片や金で、片や弟が金本という生活をしていましたので、どこかで自分の名前に関するプレッシャー、矛盾を何とか自分で解決しないと駄目だと思つていました。

### 民族意識が自覚める

大学は京都のほうに行きましたので、自分の住んでいた地域と離れるので、それだつたら新しい自分の出発をしよう、金でいつても自分の友達は全て僕の金本という過去を知らない、それだつたら何とか勇気を出していけるのではないかという、ある意味では単純なきつかけですが、その時は勇気が必要でした。それで金修堅という本名で大学生活を送ろうということで始まったわけです。その当時は民族的な自覚や自負心というところまではいっていませんでした。

ところが、大学に入つてから私が朝文研、朝鮮文化研究会という場所に自分が参加するようになって、いろんな先輩方と接することによって、僕の人生が今までと一八〇度変わったというか、ものの見方、考え方がすべて根本的に変化してきたわけです。どういうことが変化してきたかというと、まず一つは言葉について勉強し始めたのですが、それまで言葉を喋れもしなかつたし、読むことは若干はできたのです、ト・ト・ト・オという基本的なあいうえおは読めても、英語よりも難しい感覚でした。とりあえず言葉を覚えないといふ駄目だということで言葉を覚え出して、民族的な歴史や朝鮮の民謡などの文化に触ることによつて、一体自分は何人であつたのかということに気が付くきつかけがあつたのです。今までのマイナスの自分というものを何とかゼロに戻して、プラスにもつていかなくては駄目だ、いわば朝鮮人としての素養、自負心を養つていかなくては駄目だという気持ちに駆られて、朝鮮語も一生懸命勉強し

始めて、間違えても覚えたならすぐ使って、間違つていれば民族学校、朝鮮高校の卒業生に教えてもらつたり、過去に朝鮮語を勉強していた先輩や友達に指摘してもらって何とか克服しながら言葉を覚えていったわけです。

### 朝鮮人としての誇りをもつ

それからいつの間にか自分が朝鮮人であるという誇りというか、喜び、今までにはいろんな人が朝鮮語を喋つても理解できなかつたのですが、先輩たちが笑いながら喋つてゐる朝鮮語を、自分が理解でききたときにすごく嬉しかつたのです。自分も仲間に入れたんだ、同じ民族としての喜びを共有できる、一構成員になれたのかなという気持ちですごく喜んだことを今でも覚えています。大学生活の四年間で自分自身が満足して、朝鮮人として胸を張つて生きていける土台ができたことは全て大学の朝文研活動の賜物だと今でも思つています。

そういうつた前置きをしておいて、本題の自分の祖国観ということですが、自分が祖国を意識したのは大学に入つてからなんです。それまでは祖国をテレビやいろんな雑誌で目にはしてはいたのですが、全然頭の中に留まらなかつたのです。

大学一年生の時に朝文研活動にかかわるようになつて、先輩に「京都会館第一ホールで催し物があるから見に行かないか」という誘いを受けて行つたのです。その時に、北朝鮮のピヨンヤンの学生少年芸術団が来ていて、ちょうど一九八三年だったので今から一一年前ですが、ピヨンヤンの素晴らしい芸術性を備えた子供たちの公演だつたのです。口で言うのは難しいのですが、僕はそれを見て驚いたのです。こんな小さな子供たちに何故こんなに素晴らしい表現ができるのか。歌にしてもそうだし、カヤグムにしてもそうだし、アコーディオンにしてもそうだし、舞踊体操もそうだし、全て自分にとって新鮮であ

つて、それがある意味で刺激になつたのです。

今も言いながら鳥膚が立つような興奮を覚えるのですが。それを見ながら最後に嬉し泣きとか、勝手に涙が出てきたのです。悲しくもナントもないのですが、嬉しそぎて変な感動を覚えました。それは一体何なのかと思ったときに、これが自分の民族の血なのかな、こういう言い方は極端かもしれないが、民族としての共通の意識をもつてゐるのかなと、同じ喜びを味わえるのかなということを感じたのです。それが私が祖国を意識した最初でした。

### 祖国で感じた南北の壁

そうしたきっかけをもつて、大学時代、私が三回生になつた時に祖国を訪問する機会に恵まれて北朝鮮に行つたのです。行つていろんなところを見て回つていろんな現実を感じて帰つてきたわけですが、その中で自分にとって祖国を近く感じさせたものは何だつたのかというと、当然いろんなところで歓迎を受けましたし、自分の親戚とも会いましたが、板門店（パンムンヂョム）、軍事境界線のあるところに行つたのですが、そこにいつた時に、ある意味でショックを受けたというか、自分がどういう存在なのかということを考えさせられました。

板門店に行くと、悲しい現実ですが、我々の祖国・朝鮮半島が分断されているというのは紛れもない事実です。その地点に自分が立つた時に、自分は在日ですが、なぜこういう現実が目の前にあるのか。どういう現実かというと、板門店の南と北の休戦境界線はほんの何センチかの高さで、それも一歩で越えられそうな幅しかないコンクリートだつたのです。それが自由に行き来できない。片や北朝鮮の人民軍の兵士が立つている、片や向こうには我々の同胞もいましたが、ほとんどが、国連軍の名の下で在韓米軍がいたわけです。それを見たときに自分は絶対にこれはおかしい、分断されているというのは思想

云々とかそういうものではなくて、なぜここにこういう現実があるのかということをすごく感じたのです。

そういういた矛盾を感じて日本に帰ってきて、自分の意識の中に常に引っ掛かっていて、いろんな学習会などを重ねていくうちに、こここの年表にありますが、祖国が分断されている状況を感情的にではなく、ある意味では理論的な部分で頭の中でそれがサポートされていくわけです。これはおかしいんだということをますます自分で感じていくようになつたわけです。

もつと私がこれが駄目だと思ったのは何かというと、オモニの親の兄弟、私からするとおばあさんの兄弟ですが、南北両方に別れて住んでいるわけです。会えないわけですね。会おうと思つたらどこが中継基地になるかというと、在日なんです。南にいく人もいれば、北にいく人もいるので、その媒体を通してしか連絡することができない。おかしいじやないか。それぞれ好んでこういうことになつたわけではなくて、分断という悲劇がもたらした産物なんです。それが在日同胞の社会にも色濃く反映されているのは、紛れもない事実です。これを一体誰が克服するのか。

### 祖国統一の実現のために

最近、よく僕はいろんな人と喋る機会があるのですが、「それは在日には関係ないんだ。在日には在日の生きていく道を探すべきだ」という人もあります、「いや、そうじゃない。在日だからできること、北と南の情報を得る、南と北の人と接触できる。また日本人達にも世論に訴えることができる」という人もいます。お互いが最初から相反する、南と北がいがみ合つて分断されたならば問題は別ですが、民族というのはとても暖かい、日本の方もそうですが、特に同胞愛は強くて南も北も関係ないわけです。何年か前に世界卓球選手権が千葉がありました。あの時にコリアチームがありましたし、つい最近も、

京都の地で去年の一月三日に、平安建都二一〇〇年のイベントという形で、四条広場と言つていのなか、ワンコリア広場と言つていいのか分かりませんが、そこでワンコリアパレードを行つた。初めて総連と民団という相反する二つの団体が手を取り合つて各責任者が四条通りの烏丸と河原町の間の富小路で抱き合つて抱擁したのです。そういうのは元々予定にはなかつたのです。ところがお互いが会つたときに、感情が高まつたというか、早く統一しなければというか、願望があつたんでしようね。その瞬間、周りも口では言えない、興奮のるつぼに化したわけです。その時に我々同胞がどれだけたくさん涙を流したかということです。それを見ても分かるように、統一というものは在日だからできることがあるのではないかという気持ちに駆られたわけです。

ですから私にとって祖国というものは今、分断されているわけですが、分断されている祖国ではなくて、統一された祖国をかち取る、そういう言い方は極端かもしませんが、それを何とか実現するためには自分はどういう役割ができるのか。例えば、いろんな仕事もあります。いろんな生き方もあるのですが、どういう人生を歩んでも、どういう仕事に携わつても、祖国の統一を実現するために自分はどう依拠していくのか。俗に言うアイデンティティの問題になつてくるのですが、そういう中で自分は生きていきたい。それが自分が生活している、仕事をしている根底に流れている気持ちです。私にとっての祖国はなくてはならないし、祖国を離れての自分の人生は考えられない。それが私にとっての祖国観であり、統一された祖国を実現するために自分は何をするのか。それが直接的であるのか、間接的であるのかは二の次という言い方はおかしいのですが横においても、自分はそういう意識をもつて生きていきたいというのが私の祖国観です。

分断されて半世紀近くになりますが、当然社会体制も違うし経済状況も違う。いろんな矛盾を抱えているのです。抱えているのですが、あそこには素晴らしい資源があつて、労働力があつて、知恵があつ

て、そして人々の暖かい民族愛がある。それを実現させるというのは、我々の永遠の課題というか、早く成し遂げなければならぬ課題ではないかなと思います。

それがいわば我々在日における、例えば総連とか民団とかの一つの重根を取り壊して、我々の権利の問題もそうですし、統一の問題も一緒にやつていけるのではないかと僕は強く感じています。

### 日本の同化社会を見直す

二つめの日本観ですが、先ほども言いましたように私は在日一・五世というか三世ですが僕は日本という地に生まれて、日本の環境で育つたことに愛着をもっています。自分の生まれた故郷であるという気持ちは強いです。ただ、自分が朝鮮人であると気が付いたときに、過去、体系的に日本の教育を受けてきて、「金修堅、君は朝鮮人なんだから朝鮮人としての自覚なり、自負心を持つためにこういった勉強をしなさい、こういったものを一回見てみなさい」とか、そういうふたエデュケーションをしてもらつたことがあるかといふうとないわけです。ただ、個人的に情熱的な先生がおられて、本名を使つたらどうかとか、朝文研にはきたらどうかといった働きかけしかできないわけです。

行政的に何もなかつたというと極端ですが、非常に取り組みが弱かつたと思います。そんなことを考えたときに、自分が日本にどういう気持ちをもつてゐるかというと、今の日本の社会は自分が朝鮮人であることを隠さないと生きていけないという状況は残つてゐると思います。それでも芸能人やいろんな分野で本名を使つて活躍されてゐる方は、一〇年前に比べると増えてきたと思います。それだけ日本社会が段々と変化してきた兆しであると僕は思つています。

ここで一つの本を紹介します。読まれた方が多いと思いますが、中公新書で福岡安則さんという方が『在日韓国朝鮮人 若い世代のアイデンティティ』という本をつい最近出されました。僕はこの場で話

をすることが決まったときに、たまたまこれを見つけたので、これを読んで参加しようと思ったのです。二回ほど読んでしまったのですが、我々在日同胞たちがどういったアイデンティティ、志向性をもつて生きているかが、福岡さんは埼玉大学の先生をされているのですが、自分なりの聞き取り調査、一五〇人の同胞たちに約五、六年かけておこなつたものが集大成にされているものです。そこに僕も当てはまることがあります。俗に言う「祖国志向型」というものになるのです。これを読んで私が何を言いたいのかと申しますと、最後の章にこの先生の思いが書いてあるのです。「共生社会の実現のために」を読んで僕は、日本観を話すときにこれを引用すれば、僕の気持ちも、同感だったでご紹介させてもらいます。

「我々日本人に今求められているものは何か。共に生きる社会を実現すること、それが求められるのだと私は思う。」このように述べながら、自分が大学の授業で必ず在日韓国・朝鮮人問題で、「身近などころに韓国・朝鮮人の人がいたら、どのように接しますか」という課題でレポートを出すのです。その答えがいくつか、いわば日本人の志向性が現れるわけです。それをまとめるとどういうことかといふと、よく言うのが、日本の学校の先生もそうですが、例えば在日の父兄から明かされても、「関係ありません。日本人と一緒にですから、同じように扱います。意識していません」ということをよく使います。ところが、「同じように扱う」「意識していません」というのは本当の意味での朝鮮人に対する対処の仕方なのかなと問題提起されているのです。

「一緒にいる」、世界人類平等というのは当然です。一緒にいるために、朝鮮人であるという異質なものに対して、何とか自分たちと同じ日本人に同一化しようという意識。それゆえに変に「一緒に接しないあかん」というのが、逆に変な感覚になつて接してしまう。心を解いて接することができない。そういったことが書いてあるのです。

### 違いを尊重する素晴らしい

最後になるのですが、この先生の「違いを認め合う」というところがあるのですが、まさに僕が言いたいのは、日本の社会に望むものというものは、弱冠三〇歳になるかならないかの者が、年配の方々を目の前において非常に傲慢な言い方かもしれません、これから日本の社会はお互いの違いを認め合う、お互いの違いを認めて区別すること、差別と区別は違うと思います、彼は朝鮮人である、彼は韓国人である、彼はアイヌ人である、いろいろあると思いますが、その違いを認めて付き合う、心を開いてお互いに手を取り合っていくことが大事だと思います。最後にこれを引用しようと思います。

「違いを意識しないようにすることは、在日の若者たちが抱え込まされている葛藤への理解、共感の可能性を閉ざすことになる。先に示した学生のレポートにみられるように、表面的な付き合いが、冷たい態度にしか帰結しないであろう。むしろお互いの違いをきちんと認め合うことが、出会い・ふれあいの出発点だと、私はそう考えている。」

私の日本観という言葉よりも、日本社会にこうあって欲しいと思うのは、お互いがお互いといいうものをしつかり尊重した上で認め合い、そして付き合っていく、そんな社会が早く実現できれば僕はいいんじゃないかなと思っています。

はなはだ僭越ではありましたが、どうもありがとうございました。

仲尾　ありがとうございます。大変論理的に明解にご自分の考え方を述べていただきました。では統いて、池築一さんにお願いします。

## 韓国人としての自覚

池 皆さん、こんにちは。今紹介を受けました池榮一と申します。

僕もこういう場で話すのは話したといつて、自分の言いたいことはたくさんあるのですが、どこまでこの気持ちが伝わるか分かりませんが、少しでも僕ら在日の若者の考え方の理解の一つになればいいなと思って、今日はお話をしたいと思います。

僕は、先生からの紹介にもありましたように、在日の三世です。今年の七月で二七歳になります。祖父は今から六七年前に半島から日本に来ました。父は日本の京都生まれで、僕もこの京都で生まれ育ちました。

僕が育った環境は、京都で太秦というところがありますが、そこも在日の方が多く居住しているところで、密集地ではないにしても同胞の方がたくさんおられたところで生まれ育ちました。小さいときから韓国の習慣が日常的に行われるところで、極端な例を言うと、洗濯するときも日本の方でしたら洗濯機、たらいでちょっと洗ったりしますが、僕らの場合は昔式のやり方で、白いものはお湯で煮て洗ってノリをかけるという様な典型的な韓国人の家に生まれまして、祖父や祖母たちは日本語混じりの韓国語を喋っていました。その中で育つたものですから、民族性が自然に、意識しないうちにどんどん身についていくというか、他の同世代の親たちがしないこと、例えば民族に関してなかなか関心を持たない家が多い中で、うちには結構教えられてきて、儒教的な躰もきつく受けながら、普通に過ごしてきましたが、小学校や中学校に上がっていくと、日本の子たちとは微妙に生活感が違うなと思い、自分が韓国人だとことを意識し始めました。

小学生のある時、うちの祖母に「僕らは日本人か」と聞いた事がありました。その時に「うちらは韓国人や」と言われて、「韓国人で何」と聞くと「外国人だ」ということになつて、子供心ですから「外

国人はかつこええ」とか「友達らとちょっと違うな」という、自慢というか、「かつこええやろ」と近くの子に言い回ったのですが、最終的には近所の子もほとんど韓国人だったのでなんのことはなかったのですが。

そういう環境の中でだんだん韓国というものを意識しだして、関心を持ち始めたのです。例えば、「一体自分の祖国でなんやろ、どこなんやろ」「自分の故郷でどんなところやろ」と。話には聞かされていましたが、行つてみたくて仕方がない。そういうしていいるうち、何でも韓国のこと、半島のことに関心を持ち始めて、小学校のときの社会の時間に、世界の国旗を習おうという時間があって、当然韓国の国旗もあつたのですが、自分の家に国旗があつたのでそれを見て書いたのです。結構それは先生にも「すごいね」と言われて、どんどん書くようになつて、「韓国の国旗を覚えるよりもたまには世界の国旗も覚えなあかんで」と注意を受けたこともあります。そして自分で、「もつともつと知りたい」という欲求、言葉も知りたい、歴史も知りたいとなつてきました。

その中で実際に周りの僕のクラスメイトたちはどういう目を持つたかというと、差別は本当になかつたです。逆に面白がつて、例えば「おじさんて何て言うの」「御飯のことは何て言うの」「挨拶は何て言うの」と関心を持ちました。——言い遅れたのですが、僕は小学校・中学校までは日本の学校に通つていたものですから。中学の時には、キムチが日本の社会の中でも確固たる地位を築き始めた頃に、クラスメイトの中で「食べてみたい」という声があつたのです。じゃあ、持つてきてあげようと、弁当の中にどつさりキムチを持つてきて、みんなでお昼時間に食べたこともありました。後で女の子が「ちょっときついなー、ニンニクの匂いが」といました。そういう中で育つてきて、通名も池の下に永とつけていたのですが、池永という名前だけど韓国人という形で自然に受け入れてくれた環境で、そういう意味では幸せやつたなと思います。

そうして、いのちに進学を迎える時期になつて、進路をどうするかという時に、昔中学校に入る前に一回民族学校からの勧誘があつたので、僕は民族学校の高校に行きますと言つたのです。そういう決心をして、それまでにも自分の本名、韓国読みではないのですが、友達にも僕の本名はこうやでと言つていたので、卒業式の前に先生から呼び出されて、「卒業証書を何にする、日本名にするか、本名にするか」と言われたのです。その時に先生に「僕は民族学校に行きますし、クラスメイトもちよつと知っているから本名で書いてください」と言つたのです。先生も「分かった。本名で書いてあげよう」という事で、実際に卒業式の当日を迎えてました。名前を呼ばれて、名前を呼ぶときは日本名でしたが、それで上つて、校長先生からいただいたときに日本名だったのです。「エツ、なんでやろ、おかしいな」と思つて、でも、とりあえずそれをもらつて式を終えて、その後に先生に「ちょっとおいで」と言われて行くと、「ハイ、これおまえにやる」と言われて渡されたのが本名の卒業証書でした。なぜこんなことをしたんだろう、先生には直接聞かなかつたのですが、周りに僕以外にもたくさんの同胞の子がいたので、卒業式の当日になつて「えつ、この子も」という子が職員室にたくさんいたので、ああ、こういう事だつたのかと理解しました。

### 祖国で感じる疎外感

そういう形で卒業して韓国の民族学校に行つたわけですが、朝鮮学校と違つて授業は日本語で進行していましたし、日本学校と同じカリキュラムの中で別に韓国の地理・歴史・韓国語の授業をしました。そこは僕の民族的欲求を満たしていく最適な地だつたのです。それから拍車を掛け、図書室に通つて、言葉なり歴史なり地理なり、自分で吸収できるものはどんどん吸収してしまおう、知識だけではなくて礼儀作法も、本国人以上の本国人を目指したわけです。その中で、在日韓国人がチラチラ意識している

ことでもあつて、「自分は何人やろ」というのが、民族的な欲求の中で同時に起つてきました。「韓国人といつても言葉も喋れないし、歴史もここに来るまで満足に勉強できなかつたし、一体僕は何者なんやろ、将来このまま日本で暮らすのかな、それとも永住帰国するんやろか」などいろいろ考えていました。考えている中で、祖国への思いがあるので「俺は一〇〇%純粹な韓国人として生きていくんだ。韓国に早く行きたい」という気持ちもありました。

高校の修学旅行で初めて祖国を訪問しました。空港に降り立つたときに「ここが韓国なのか」という気持ちがあつて、見たところ日本と差異はないのですが、ソウルに行けばハングル文字の看板があつて、飛行機でわずか一時間か一時間半ぐらい、小さい海峡を隔てたら、そこは別世界で風土も環境も言葉も違う。ある意味ではカルチャーショックがたくさんありましたし、自分で「やつとここに来たんだな」という思いがありました。

その祖国に行つたときに「僕らは在日なんや」と思い知らされる出来事がありました。それはソウルで過ごして三日目で、各地方に行くときに観光バスに乗つていたんです。バスは出発の時間を待つていたのですが、その時に本国の人達が来られてバスに近よつてきたのです。その時に四十歳くらいのおじさんが流暢な日本語で、「あなたは韓国人ですか、それでも大韓民国の国民ですか」と指をさされて言われたのです。この人は一体何を言い出すんやろと思ったのですが、実は修学旅行に行く前、高校一年、二年のときに先輩から聞かされていた話があつて、「本国に行つたら在日に對して余りいいイメージを持つていなさいよ」と言われたのです。ひどい時は乗つているバスに石をほられて「パンチヨツパリ、帰れ」と言われたそうです。「パンチヨツパリ」というのは「チヨツパリ」、日本の方に大変失礼ですが日本の方をさげすむ言い方なのです。その日本人でもない、韓国人でもない、中途半端なもので、「パン」は半分という意味がありますから、それで泣いた女の子もいたという話でした。それを聞かされていました

ので、ある程度は覚悟していましたが、韓国人なのに韓国語を喋らない、日本語で喋っている、その時は反日意識もきつい頃だったので「嫌いな日本におまえたちは住んで、本国よりいい生活をしていく」といった意味で捉えられていました。

それで悔しい思いをして、「この人達は、在日のことを知らない、なぜ僕らが日本に住んでいるのか知らないのではないか」と思うようになつたのです。そのおじさんとは二度と会うことはないでしょうが、何が何でも韓国語をマスターして本国の人達に「なぜ僕たちが日本で生まれ育っているか」を逆に韓国語で訴えたい、在日としての経緯を自分の口からいろんな人に話したいという思いがあつて、その時から韓国語の勉強をし、未だに続けています。

### 在日韓国人としての役割と生き方

韓国語を勉強していく中で「在日韓国人とは何か」というのがあつて、授業の中では在日同胞史という歴史を習う勉強がありまして、知らないことがたくさん出てくるのです。在日のことを勉強していく前に、まず在日の根本は韓国にあるので祖国のことも並行して勉強していかなくてはいけないので、自分の中でもまず祖国を理解して在日を理解する。その上で在日を語つていて思つています。

在日として、韓国へ修学旅行も含めて一〇回程行つたり来たりしていますが、行く度に「在日ってなんだろう」「祖国ってなんだろう」ということをずっと考えさせられることばかりです。他の人ともよく話をしますが、決まって二通りの答えが返ってきます。

一つは在日や祖国に対して好意的な考え方、ある人は徹底的に否定した考え方の二つなんですね。自分自身はどうなのか。未だに在日や祖国に対して答えを見出していない。これから生きていく上で徐々に考えていくかなどという思いがあります。

でも最近では在日を意識して、祖国に帰つても難しいのではないか、日本の地で生まれ育つたために文化も風習も違うし、言葉も不得手やし、これは困ったなどということもありましたが、逆に在日の立場を最大にこの日本の地で生かしていくべきないかという考えが出てきました。在日韓国人に対してもマイナス的なイメージをもっている人もたくさんいるのですが、僕は肯定的な考え方をもっています。例えば、在日は「浮き草」と言われます。それを僕は肯定的に認めていた。浮き草だからこそ自由な発想ができるのではないか。日本人かと言えば日本人ではないし、純粹な韓国人でもないというのは、再三申し上げていますが、両方で培つた考え方・価値観が自然に在日の中に備わつてゐるのではないかと言えると思います。

例えば、僕は家庭の中で韓国人的なものの見方や考え方があるし、日本社会で生きてきたので日本の価値観がある。韓国的なものの見方、日本的なものの見方、複眼思考というのか、二つの目をもつてものが見られるのではないか。在日の立場を利用して、この日本で祖国に貢献していくたいし、日本社会にも貢献していくたいと思います。日本の地で在日韓国人として生きていく上で、わかりやすく言えば、日本社会を構築している住民として共に生きていきたいという気持ちがあります。その中で日本と韓國のお互いが理解できるよう、橋渡し的な存在になつていきたいと思います。僕は団体職員、民族組織に携わつてゐるものですから、その立場を生かして日本と韓国との、生活に密着した交流をしていきたいというのを僕のこれから生き方、人生の指針にしていきたいと思います。

### 歴史を直視して未来を語る

日本觀というテーマをいただいたのですが、漠然としていて、二六年の短い人生の中いろいろ経験をしていくと価値観がコロコロ変わるので、その度に日本に対する考えが違うのです。一時は民族教育

を受けたこともあって、短い期間でしたが、日本人に対して不信感がありました。歴史を習っていく上で、小学校や中学校で聞かされなかつた歴史を聞きましたから、それが余りにも生々しい。一〇〇年二〇〇年前の出来事ではなくて、自分の祖父や父親が受けたこと、父たちが堅く口を閉ざしてきたことを学校の授業を通して知ったので、「なんなんや、日本人の人達は」とすごくショックで辛かつたという思いもありました。でも、過去は過去でいつまでも過去にこだわるのではなく、過去を踏まえた上で新しい世の中、新しい関係を作つていけばいいというのが今の僕の考え方です。

そこで、日本観というよりも、僕、在日の青年からの日本社会に対する願いがあつて、ここにいる皆さんたちにも理解していただきたいと思います。

これから在日の社会、特に僕らの若い世代は國へ帰ることは不可能です。先ほど話にも出できましたが、文化も違うし、言葉もなかなかできない。経済基盤がここにある、ここで就職もしているし、結婚して子供も産まれている。かといって祖國を切り離すかなどではなく、祖國は自分のルーツとしてしつかりと胸に刻んで生きていきたい。そういう気持ちを持ちながら、日本の中で地域の住民として定住していく。定住していく中で帰化をしていくのかというと、帰化はしません。あくまでも民族性をもつたまま、この地を第二の故郷だと思つて生きていきたいという思いがあります。生きていく上で僕らの努力も大切ですが、皆さんの理解も必要になつてくるのです。僕ら在日韓国人をはじめとする様々な外国人に対する排他的な考え方を改めていって欲しい。

確かに地域的に島国で、いろんな歴史背景があつて、外のものを受け入れない土壌があるのは重々承知ですが、それぞれ世界の何百という国に固有の文化や歴史があつて、当然民族性も違つ。ただ、民族性、文化と歴史に對して日本の価値観で全て押しつけるのは止めていただきたい。例えば、住居も「韓国人なんですが」というとよく断られます。なぜかと言うと、「外国人だから」という一言で終わ

つてしまふ。なぜそんなことを思うのかというと外国人に対するイメージが悪い。なぜそんなイメージを持つのかというと、文化などの違い、差異を認めていないからだと思います。

一つのエピソードがあつて、用事で東京にいくことがあるのですが、マンションの広告の中の専用書きのところに、「ペットと外国人はご相談に乗ります」と書いてあつたのです。東京の、それも大使館が集中している町のど真ん中。これが本音なのかな、一抹の寂しさと腹立しさがありました。相手の違いを認めて違いを受け入れるだけの度量を持つていただきたい。これは一人の人間として必要だと思います。

### 日本社会に望むこと

ある人と話をしたときに、「人と接するときの態度は三つある」と。「まず相手の目を見る」「二つ目に相手を受け入れるという姿勢」、私はあなたのことを理解しますよという姿勢が大切。「三つ目に相手に対する微笑みを忘れてはいけない」と言されました。「ぐ当り前のことですがなかなかできない。單純なことができない。外国人だから、日本人だからという認識もある程度は必要ですが、それを乗り越えて一人の人間として、お互の違いを認めて生きていかなければならぬ」と、最近よく考えます。皆さんの周りに外国人の方がおられたら、うわべだけの付き合いではなくて、腹を割る付き合いをしていただきたいと思います。それが国が違うということだけではなくて、一人の人間としてです。僕の友達から言わせると、「在日の子と付き合うのはちょっと難しいものがある」と言います。知識は持つているのですが、つい「国籍が違う」「民族性が違う」「難しい」と言うのです。そこで「難しくないで」と言うのです、人間として付き合って欲しいと。変に外国人を意識され過ぎるのも嫌だ。一人の人間として付き合って欲しい。その付き合っている人間が日本人の友達ではなく、たまたま韓国にルーツを持

つた、在日三世の池築二だという意識をもつて付き合つてくれと友達に言うのです。そういう関係を作ればベターだと思います。

仲尾 ありがとうございました。謙遜なさいましたが、大変明解、率直にお話いただいたので私がお二人の要旨を繰り返す必要もないと思います。ただ、お二人のお話を聞いていますと、お二人に共通した生い立ち、環境があつたと思います。それは比較的在日の方が集住されている地域、生野なり、太秦なりにお育ちになつたということです。そういう地域でつまり同胞が身近にいる地域で、「実は私もそうだつたんだ」ということが違和感なく存在する地域であつたということです。そういう地域とそうでない地域、在日の方が一つの学校に二、三人しかいないというところの方とは、また少し違うものもあるのではないかという気がしました。お二人とも日本の学校で勉強されました。中等教育、あるいはそれ以降の段階になつてから、民族というものに触れられた。その出会いを自分で意識されたということがあると思います。その中で、民族との出会い、祖国との出会いがこれまでの生き方の中でプラスになって生きているという印象を受けました。そういうところから、これから自分たちは日本の社会で何ができるか、あるいは祖国に対しても何ができるかという思いをもつて生きておられるということが、よく分かつたと思います。

そういうお二人のご経験を受けて、これから皆さん方に意見、あるいは質問を書いていただきたいのですが、今日、会場では年表をお配りしております。この年表は私が作成したものではございませんで、下の方に手書きで書いておきましたが、私の友人である札幌大学の李景珉イ・ヨンミン先生が作られた年表です。（表6）最初に分断の話を申し上げましたが、今、朝鮮半島に二つの国家、ないしは政府がある。それは冷戦構造の中で生み出されたものですが、学会では一九四五年の八月一五日から、一九四八年までを

解放朝鮮という時期設定が根付いているとのことです。その時期どういう動きがあつたのかということを克明に年表にしてありましたので、私の判断で、今日、皆さんに紹介の意味でプリントさせていたしました。この年表はもう少し状況、冷戦がどのように具体化してくるか、アメリカ、ソ連、日本の動きが比較的に省略されていますが、逆に朝鮮半島内部での動きが克明に解ります。このことから浮かび上がってくるのは、分断が偶然できたわけではなく、国際政治のはざまの中での、植民地として三六年間日本に支配されていた空白のところに、国際的な緊張がどつと押し寄せてきて分断という大変厳しい現実が生まれた。それが現在も続いているということが浮かび上がってくるかと思います。この辺の時期の問題、あるいはその後の朝鮮動乱のことについては資料の発掘も十分ではなく、研究もこれからといふところですが、こういう事実もあることを知りながら、お二人の若い方々がそれぞれ祖国への思い、統一への思いをもつていらっしゃることを知つていただくために、これをお持ちいたしました。

こういう政治問題、国際問題についてお二人に質問するのはいささか的外れになるかと思いますので、この辺のことはそれぞれ勉強していただきて、より正確に戦後の東アジアの歴史を日本人も知つておかなくてはならないと思います。

表6 解放朝鮮の主要事項

1945年 8月15日	日本の植民地支配からの解放、遠藤政務総監 VS 呂運亨 朝鮮建国準備委員会（建準）の発足
8月20日	朝鮮共産党再建準備委員会の発足
8月25日	ソ連軍平壤に進駐
9月 6 日	米軍の進駐を目前にして、建準→朝鮮人民共和国の樹立を宣言
9月 8 日	米軍の仁川上陸
9月 9 日	米軍 VS 日本軍、降伏文書の調印→南朝鮮に米軍の軍政を実施すると布告
9月11日	朝鮮共産党の誕生（朴憲永総秘書）
10月10日	米軍当局は「朝鮮人民共和国」の存在を認めないと宣言
10月13日	朝鮮共産党北部朝鮮分局の設置が決定される（平壤にて）
11月28日	北部朝鮮 5道行政局の設置
12月27日	米、英、ソ 3国外相会議、朝鮮の独立に関するモスクワ協定を発表
12月30日	宋鎮禹暗殺される
1946年 1月 2日	朝鮮共産党モスクワ協定を支持すると発表
2月 8 日	北朝鮮臨時人民委員会（金日成委員長）の樹立
2月14日	右派は、「反託運動」の過程で非常国民会議を大韓國民民主議院に発展させる。同組織は米軍当局の一一種の諮問機関の位置を占める。
2月15日	左派は勢力を再結集し、民主主義民族戦線を結成
3月20日	ソウルで米ソ共同委員会が始まる（5月7日同委員会は無期休会に入る）
5月18日	警察当局朝鮮共産党本部を急襲し、「精版社事件」を発表。解放日報は停刊
6月 3 日	地方を訪問中の李承晩、全羅北道の井邑で単独政府の樹立の可能性を示唆する発言を行う
8月29日	北朝鮮労働党（金科泰委員長、金日成・朱寧河副委員長）誕生（北朝鮮共産党+朝鮮新民党）
9月 6 日	朝鮮共産党の朴憲永など主要幹部らに逮捕令
10月 7 日	左右合作委員会“合作”的基本方針を発表
11月23日	南朝鮮労働党（許憲委員長、朴憲永副委員長）の誕生（朝鮮共産党+朝鮮人民党+朝鮮新民党）
1947年 5月21日	第二次米ソ共同委員会が始まる
7月19日	呂運亨暗殺される
9月21日	米国により朝鮮問題が国連総会に上程される
11月14日	国連総会朝鮮の独立問題に関する決議案を採択→総選挙の実施案
1948年 2月26日	国連小組会朝鮮の選挙可能地域内における総選挙実施とその監視を決議
3月 8 日	金九・金奎植南北政界要人の合同会議を提案
4月 3 日	済州島で民衆蜂起（4・3事件）
4月20日	平壤で全朝鮮政党社会団体代表者連席会議が開かれる（4月28日まで）
5月10日	南朝鮮における総選挙の実施
8月15日	大韓民国政府の樹立
9月 9 日	朝鮮民主主義人民共和国の樹立

札幌大学教授 李景珉氏作成

## 第一部

仲尾 大変お待たせいたしました。今、皆さん方から九人の方のご意見・ご質問票をいただきました。これだけの人数で九人の方ですから、大変比率が高い。非常に熱心にお聞きいただき、また、ご意見・ご質問をいただいたことを嬉しく思います。様々な問い合わせ・ご意見・ご質問がありましたが、まずは具体的なところから少しづつ大きな問題のほうに展開していきたいと思います。

最初に、お三方の質問を読み上げまして、そのお三方の質問についてまとめてお二人からそれぞれお聞きしたいと思います。

まず最初に、「ワールドカップのサッカーがありましたら、日本対韓国、日本対北朝鮮の試合の時、日本、または祖国のどちらを応援しますか。また、そういう自分をどう思われますか。同胞の中の話題はどうですか。」

大変具体的な質問です。これが第一。その次に、「お一人のお話は大変わかりやすく、こんな機会が持たれたことを嬉しく思います。金さんはもう結婚なさっていますが、池さんの結婚觀についてお聞かせ願いますか。国際結婚が同胞の七割を占めるそうですが。」もう一つ、「池さんが何事にも前向きでどんどん勉強なさっていますが、ご両親からの影響はどのように受けられましたか。金さんもお願いします。」

これは「両親からの影響」ということでの金さんへの問い合わせです。もう一人は、「在日の皆さんのお求を知りたい。例えば人権問題——。選挙権・就職・入学・結婚など。」

結婚は先ほどのとこどとだぶりますが、このことを合わせてお二人からお聞きしたいと思います。」

の方は後半に「マイノリティ・グループ扱いの差別の実感を知りたい」という問い合わせもありますが、これは後の質問とからめてお二人からお答えいただこうと思いますので、とりあえず人権問題・選挙権・就職・入学・結婚などというところまでにして三つの質問についてそれでお聞きしたいと思います。まず、金修堅さんからお願ひします。

金 実は、私は中学からずっとサッカーをやっています。また、仕事柄サッカーを指導していたこともあり、非常に関心があつたことなんです。率直なことを言うと、私は去年の三月の終わりに結婚したのですが、その時にBS（衛星放送受信装置）を付けなかつたのです、お金がなかつたので。ところが、ワールドカップの予選が始まると同時に、BSを付けたいと自分の奥さんに言つたら、「なぜやるの」という話になつて、とりあえずいろんなものが見られると言つたのですが、本音はワールドカップが見たかったのです。日本の試合は全部NHKがするのですが、北朝鮮、韓国関係無しに自分の民族を応援したかったので見たいと思って付けたのです。

どちらを応援したかといふと、極端な話をすると、やはり自分の民族を応援しました。

特に私が言いたいことは、皆さんご存じだと思いますが、北朝鮮の応援団はなかなか行けないわけですね。入国や出国などの問題があつて、どちらかといふと在日同胞の応援団が行つていたのですが、それだけではなく韓国の応援団、チヤンゴを叩いたりして北朝鮮を一生懸命応援していたのです。僕はそれを見てすごく感動しました、これが民族だと。韓国の旗をもちながら北朝鮮を応援するわけです。北朝鮮のほうも韓国の試合を応援するわけです。あれを見て、BSを買って良かったなと思いました。ただ、日本と違う国がやるとときは、日本が最後に「魔の何秒」というときなんかは、日本、おしかつたなと思いました。でも韓国が選ばれてよかつたなというのがありましたけど。日本の試合も応援したのですが、

ここで北朝鮮がうまいこと三対〇で負けてくれへんかなという本音があつたのです。うまいこと三対〇で負けてくれて、談合があつたのか知りませんが、韓国がうまいことワールドカップいつてくれたなど言うのが本音です。

同胞の中での話題ですが、やはり皆さん、毎朝、「昨日の試合はどうだったか」と。特に北朝鮮と韓国の成績よりも日本の成績を気にしたわけです、「Jリーグ効果」というのがあつて。そんな感じで、ある意味ではワールドカップのことに関してはとても喜んでいました。風景とか。ただ、一つ苦言を言わせていただくと、日本のサポーター（応援団）の後ろに旗が付けてあるのですが、JAPANニッポン対相手の国の旗がありました。その時にコリアーという文字が「コエラ」（KOE RA）と書いてあったのです。スペルが間違っていたのです。間違ついたら直せばいいものを、それをただ矢印で直してあるだけなのです。それを僕は、なぜこんな常識のない応援をするのか、国を応援するのであればお互いの国を尊重して、きちんと配慮をして欲しかった。それは悲しいなと思いました。同胞の中でも問題になつたのです。特にまだ一世の方で反日感情をもつてている方も少なくなかつたのでね。「あれは許せん」と。いやいや、それは違いますからと我々が興奮するのを押さえていたのですが。そういうことがあつたことも一つ知つていただきてもいいと思います。

去年何とか結婚することができたのですが、私が両親から影響を受けたことというのは儒家思想、僕は儒家思想が全て駄目だとは思つていませんで、特に目上の人に対する対し方、言葉の喋り方、挨拶の仕方、そういったことを細かく教えられたことがあつて、また、民族的に生きることは親の姿を見て、非常に影響を受けたことは事実です。

補足して言うと、僕は六人兄弟で、親が昔フィンガーライドに憧れて、どうしてかというと自分の子供達と当時の人数が一緒でレコードを買つたりしたのです。こういう年齢、俗にいう結婚適齢期ですね――

女性には適齢期なんてないんやと怒られますが——、僕の姉も結婚しています。日本の方と。これもいろいろな過程があつて、僕の下も二七歳でそろそろ結婚で、一体どうなるのかと考えることはあります。それは現実かなと思つています。

続けて三つ目の人権の問題ですが、選挙権・就職・入学・結婚と書いてありますが、特に最近問題になつてゐる、最近も毎日新聞の一面で地方参政権の問題、各都道府県の議長や政令指定都市の議長のアンケートが出ていましたが、約三割が認めるべきだという形でありました。僕自身の個人的な見解として言いたいのは、特に選挙権・地方参政権を問題にすれば当然僕らは税金を支払つて、納税義務はあるのです。ところが、見返り義務がないのです。

在日が一番多い生野区は、一六万人のうち四万人が我々同胞ですが、当然高額な税金を出していれば、僕のように税金を出しているか分からぬ人間もいますが、自分たちの民意が反映されないと部分では、当然認められるべきだと思います。ただ、大前提として知つて欲しいことは、例えば、朝鮮（韓国）学校の問題。民族教育に対する教育的な助成金の問題なり、一条校に準じた扱いをしてこなかつた。特に顕著な問題としてJ.Rの定期券の問題、高体連の問題、やつと今年からインターネットハイに出ることができたのですが、これも一条校に準じた扱いではなく、結局、文部省の顔色を伺つて、「朝鮮学校とは表現できないので、各種学校の参加を認める。その附隨に、俗に言う高等学校なりに準ずるようなクラブ活動の形態や学校教育でなければ駄目だ」ということがあるのですが、こうした問題 자체が解決されずに、ただ単に税金を払つているから地方参政権も要るんだとかいうのはどうかと思うんです。

もっと抜本的な問題があると思います。例えば外国人登録法の問題。我々は持つていなかつたら捕まるわけです。こんな経験がありました。僕が高校一年生のときに免許を取つてバイクに乗つていたのですが、警察官に止められたのです。免許証を見せると。当然、朝鮮と載つていますから、登録証を見せ

ろと言われました。僕は何のことか意味が分からなかつたのです。ちょうど一六歳で、一四歳で登録をやつっていますが、若い子供たちの親は登録を紛失してはいけないということで、家に置いておくのです。それで私は警官にないと言うと「なかつたら、君、捕まるで」というのです。何を言うてるのかなど、それで僕は、お巡りさんと喧嘩したのです。なぜ捕まるのですかと。「君知らんのか。一回帰つて登録証書を見てみろ」と言うわけです。見ると當時携帯義務があるわけです。そんなこともまだ解決されていないわけです。そういうことをないがしろにして、地方参政権を認めたら、いかにも民主主義の反映された、国際人権規約を批准している国のあるべき姿だと。僕はそれは虚像だと思います。義務として税金を出しているなら、もつと民族教育の問題、JRの定期券の問題、外国人登録の問題、もつと言えば、高齢者の年金の問題も差別があるわけです。そんなことをもつとクローズアップして、皆さんに考えて欲しい。それと並行して、そういうものが解決されて、お互いの違いを認めあって生きていけるような風潮ができた上で、認められるべきだと僕は思います。本末転倒の部分があるのではないかと僕は主観的に思います。

池 ワールドカップがあつたときは仕事が忙しくて、テレビはまともに見ていませんし、衛星放送もありませんので、ニュースぐらいしか見る機会がなかつたのです。僕の場合は二つ応援しました。一つは自分の祖国を応援していました。もう一つは日本でした。

試合の進行のご都合主義で、日本が勝つて欲しいなというときもありましたが。韓国が出ることは大変喜ばしいことですが、知つている選手が少ないのです。韓国の選手で知つてているというと、ノ・ジュンユンという選手くらいです。逆に日本だと、カズとか、ラモスとか、日本に住んでいることもあつて身近に感じます。ちょっとミーハー的ですが、「おつ、今日やつてるな、この二人」みたいな感じで見

ていました。韓国と日本のときは複雑なものがありましたが、勝つたら勝つたで嬉しいですし、よかったです。同胞の中での話題はやはり僕と似たりよつたりで、今日はどつちが勝つんやろというのもありました。仕事で電話をしているときに、先輩から「今日の一〇時のこのニュース、絶対見いや」とか「絶対試合を見ろ」とか言われて、なんですかと言うと「今日は絶対日本を応援しなあかんで」という感じで、その人と話すときはそんな感じでした。その他の仲間との話題も寄ると触るとJリーグの話題ばかりでした。

僕の結婚観ですが、自分自身としては結婚に対しても余りピンとこないのです。回りの僕らと同じ年の人々が結婚していく、早い人は子供が産まれていて、そういうのを見ると結婚もいいなと思いますが、なかなか縁がありません。それにお見合いの話もありませんし。

在日社会の中は、日本社会と全く反対で女性余りなんです、日本社会では男性余りと言いますが。あるイベントの企画、ブライダル・パーティーに携わったとき、出席が女性が三五・六に対して、男性が一五だつたのです。ある日、全然知らない母親が仕事先に、「すいません、誰かいい若い人がいませんか」と駆け込んでこられて、「恥も外聞もありませんから、若い人をとりあえず紹介してください。二十六歳の娘とあと下にもひかえるんです」と、よっぽど切実な問題だなど。国際結婚も当初はいいなと思つていましたが、親御さんの中にあるのが同胞同士の結婚です。ただ、子供が反発するのです、なぜ韓国人やないとあかんのかと。一世の親はそれを説明できないのです。なぜかと言うと一世の親からの請け売りで、「あかんで」の一言です。僕の後輩の女の子に「二〇歳になるまではアメリカ人であろうが、フランス人であろうが結婚したらいいやん」と言われて、本人はそのつもりでしたが、「二〇歳になつたときに見合いがきて、それが同胞で「おまえは韓国人と結婚や」と言われて「話が違うやんか」と揉めたらしいです。結局、その人は日本人と結婚したのです。

僕自身の結婚観は、できたら同胞との結婚がいいと思います。本国の人よりも同じ環境の在日の方がいいと思います。風習などの違いがあるし、日常の生活では日本の方たちと変わらないのです。うちの兄が国際結婚で、一番波風が立つ（こう言つたら語弊があるかもしれません）のは、「冠婚葬祭のとき」に違ひが出てくるのです。特に結婚式のときに誰を呼ぶかというときに日本人の人は直系の家族など少ないのです。韓国人は多いです。片方だけで一〇〇人とかが平均的です。僕が日本の友達の結婚式にいつたとき、受付を任せたのです。その時に、たくさん人が来るから「こういうふうに態勢を整えたほうがいい」と言つたときに、「あんた、何人来ると思ってんの」と言われて聞くと、「うちら両家合せて六〇人やで、なんでそんなに少ないの」という話になつて、うちら片方で一〇〇人は来るでと言ふと、「なんでそんなに来るの」と、親御さん・友達含めて一時間にわたつて結婚観を話し合つたことがあります。

普段生活する上で、本人同士の生活ではなく、風潮的に家同士の結婚です。結婚式も本人の意志よりも家族・親戚たちの意向が働いてしまう。国際結婚をすると何が問題かというとそういう「冠婚葬祭」が問題になります。法事一つにしても、日本の方は三回忌や七回忌ですが、韓国人は毎年ですし、一年のうちに何十回とありますから、長男の嫁などは苦労するのです。お葬式なんかでも揉めてしまうのです。ですから先ほどお話したように、民族性の違いを認識して、回りも受け入れられる態勢を作るのが必要ではないかと思います。

国際結婚に関してはできたら同胞同士の結婚をどんどんして欲しいと思いますが、好き同士になつた本人たちが結婚するのですから。ただ、愛だけではなくて、そういうた環境をしつかりと乗り越えるだけの覚悟と、周りがそれを受け入れていく、認めていくだけの関係が必要だと思います。

選挙権のことですが、国政と地方参政権と二つありますが、国政に関してはまだまだ本国の国政が全て整理していかねばならないのですが、地方参政権に関しては、先ほど金修堅氏がおっしゃったよう

に納税義務があります。地域の一人の住民としてそれだけの義務を負っているのだから、より良い社会を作つていくためには僕らの意見も参考にして欲しいと思いますから、いろいろと問い合わせていきたいし、訴えていきたいと思います。

在日の中でも「在日党」とかいろんな団体が参政権を要求していますが「税金を払つてているから選挙権をくれ」というのではなく、その他に選挙権の問題を通じていろな問題があると思うのです。定住している在日韓国・朝鮮人の問題もありますし、定住外国人ではなく、「ニューカマー」、新しい外国人が増えています。国際結婚などが進んでいく中でいろんな人達が住んでいくと、当然その人達は結婚したらどうするかというと日本に永住していくわけです。そういう方もいすれば、当然選挙権も欲しいだろうし。様々な問題点が選挙権を通じて出てきて、差別や行政の問題を、同じ住民として同じ立場で、ただちよつと日本の方とは違う視点で訴えていきたい。

仲尾 ありがとうございました。今お二人の話題にもありました選挙権の問題は、昨年の暮れに、京都府議会が参政権を定住外国人に認めようという決議をし、京都市会も参政権という言葉は使いませんでしたが、そういう主旨の決議をしました。これは日本人側からの問題提起だと思います。在日の方でも、福井やその他のところで、またイギリス人の方も兵庫県で提訴をされて憲法判断を仰ぐという形に持つていかれているものもあります。これも一つの問題提起だと思います。私自身の考えもお二人の考え方とほぼ近いもので、全体としての外国人の人権が保証される一貫として、参政権の問題も問われるべきではないかと思つています。

いずれにしても、これから日本社会の大きな課題だと思いますのでどう考えるのか、在日の方、あるいは日本人としてそれぞれ考えていくべきだと思います。

次の質問に入ります。先ほど、「マイノリティ・グループの差別の実感を知りたい」というご質問がありました。片やこういうご感想もござります。

「お二人の話を聞いて、在日の若者は思つたより現実的楽観主義だと思いました。歴史や現実はしっかり見た上で、これから環境を良いほうに考え、行動されていることに敬意を払います。」

その後、詳しい感想がありますが、省略させていただきまして、こういうことがあります。

一方で差別の現実・実感をお二人がどう感じておられるか。片やお一人の考えが現実的で楽観主義だと思った。むしろそれは事実を見た上で、良い方向に考え行動しているということですが、この二つの考え方について、そこで共通したものを感じるとおっしゃつておられましたので、二つのことについてお二人に一言ずつご感想をお聞きしたいと思います。

金 マイノリティ・グループ扱いの差別の実感と、樂觀主義的な立場で行動していくことが必要ではないかということですが、何の根拠もないのですが、よく使われる「マイノリティ」だとか、「ニューカマー」「オールドカマー」という言葉はすぐ腹が立ちます。根拠はないのですが、日本に住んでいるのだから、なぜ日本語で表現できないのかな。やたら西洋的な外来語を使うことがいかにもよく知っているかの如くね。ここにあるアイデンティティという言葉も一、三年前にはやつたのです。よく「アイデンティティを持っているか」と尋かれて、その人にアイデンティティって何ですかと尋くと「アイデンティティはアイデンティティや。それ以上説明のしようがあるか」と。ですから言葉の本当の意味をもつと吟味するべきだと感じます。当然質問された方は承知の上で質問されていると思います。僕は分かつていなかもしれませんが「差別の実感を知りたい」とおっしゃるのですが、僕は実感が余りないのです。というか社会をもっと変えていく、在日同胞の住みやすい社会にしていくために、自分たち

がどう生きていくべきなのかという発想をしているので。

ただ僕が高校生のときの登録証の問題で差別を受けたとか。大学でこつちにきて就職するときにアパートを捜したのですが、同じように、ペットとは一緒にされていませんでしたが、話をしていいところまでいくのですが、外国人登録済証明書をもつていくと顔色が変わるわけです、京都でも。特に京都の上のほう、左京区や北区など、どちらかというと南より北のほうが高級住宅街で、住宅関係の人々に言わせると、地主さんが嫌がるんだ、家主さんが貸してくれませんやろと。それで喧嘩したんですね。あなた方は何を考えているんだ。こんな時代にまだそんなことを言つているのですか。よう商売やつてますなど。あんまり腹が立つてボロクソに言つたのです。そういった差別があります。そこは結局断つて違うところを捜していつたらまたまいり家主さんにあたつて、二万円くらいする駐車場も無料で貸していただいたら。

もう一つ、差別の実感で僕の感じることを言わせてもらうと、異質なものに対する、受け入れられない風潮を感じるもののがたくさんあります。それを「これだ」と僕自身分からぬのですが、ただ僕の感じるところはそこです。

「現実的楽観主義で行動が必要ではないか」ということですがおっしゃるとおりです。昔、関東のほうで十何年か前に「壁と呼ばれた少年」という本（映画）があつて、在日の中学生が余りに差別されて、というのは在日であるがゆえにいろんな暴言を吐かれたり、いじめを受けて若くして自殺してしまったのです。そんな現実は現実に対する悲觀、明るい展望というか、自分たちはどう生きていくかということが見えないがゆえに、また、周りがサポートできなかつたがために、僕はそういう悲劇をもたらしたと思います。それはそこだけではなくて違うところでもあつたと聞いています。

我々は二一世紀をあと何年か後に控え、特に国際的な社会を作つていこうというときに、在日同胞も

もつと明るく言いたいことを言い、また、相手方の我々に対する要求も聞き、お互の接点を見出してより良い社会にできればと思つています。

池 マイノリティの差別の実感ということですが、個人的にはないのです。ただ、周りが差別を受けていて、一番身近なものでどんな差別があるかというと、金さんも経験されていますが、入居差別です。僕の一つ上の先輩が結婚されて独立することになって、仕事場が左京区なので離れ過ぎると困ることもあって、左京区のほうに家を見つけようと探したのですが、なんと三五回断られたそうです。「韓国人だから駄目」とかね。入居差別はニュースなどで結構皆さん知つていると思うのですが、なぜこの問題が広がらないのが不思議だと思うでしょう。指紋押捺と違つて切実な問題なのです。転勤や結婚などで明日にでも引っ越しきなくてはいけないという切羽詰まつたものがありますから、なかなか贅沢は言つていられないということで、泣き寝入りとか妥協してしまうのが大半です。

定住外国人である在日韓国人の僕らでもこんなですから、例えば、国費留学生にも係わらず、なかなか入居先が見つからないとか。まだまだ排他的な風潮があるので、どんどん取り除いていかないと駄目じやないかという思いがあります。こういった現状がまだまだあることを、皆さん認識して欲しいと思います。

最近、韓国や北朝鮮、日本の交流云々というのですが、僕から言うとそういつた交流も確かに大切ですが、何か忘れているのではないか。もつと分かり易い言い方をすると、三軒向う側の親戚と仲良くして、隣人である外国人のことは全然知らない。何人いるか、どういつた実感で生活しているのか、一体なぜこの人達はここにいるのかなど知らないことが余りにも多いのです。南も北も関係なく祖国との交流も大切ですが、なぜ僕らがここにいるか、身近にいる外国人の僕らを理解していくのも大切ではない

かと思います。

当然、日本側ばかりに求めるのではなく、僕ら在日の問題として逆に問い合わせられたら聞いかけられたら返せるような、例えば、なぜ韓国語ができないのですかとか、なぜ通名を名乗っているのですかと問われても答えられない在日の若い人が大半です。そういう在日の若い人達も「なぜいるのだ」という形でお互いのルーツを知った上で、お互いが同等の位置に立って話し合っていかなくてはいけないと感じています。ですから、仕事を通じてこういったことを実現ていきたいと思います。

現実的な楽観主義に関してですが、二世のアボジ・オモニは民族的なものに関しては結構きつい意識を持つているのですが表に出さない。やはり、痛烈な差別を受けたからです。最近、若い人達と話す機会があるので尋くのですが、暴力的な差別はないのです。間接的な差別はあるのですが直接的な差別はない。過去のことを知らないこともあるでしょうが、楽観的に構えている人も増えています。逆に、若い人が余りにも過去のことを知らないので、もうちょっと過去のことを勉強して欲しいなと思います。

僕自身はこれからも在日韓国人として前向きに、「なぜこんな中途半端に生まれてきたんやろ」と思うより、「在日という存在は面白いな」と考えて、楽しみながら生きていきたいと思います。

仲尾 今お聞きして、一世のアボジ・オモニが受けた差別について話していない、聞いていないという意味合いのことをおっしゃいました。これは私の推測ですが、自分の受けた差別、つらい思いは、それほどどんどん語って聞かせるものではありませんから、それだけに差別の厳しさが逆にあるような気がしました。それは差別をする側が認識していかなければならぬ問題で、そういう話として受け止めたいと思います。

もう一つ質問がきいています。

「私はエスペランチストです。エスペランチストとは国際共通語・エスペラントを使う人のことです。最近、日本のエスペラント仲間で日韓共通の歴史教科書を作りたいという運動が始まりました。気の遠くなるような話ですが、共通の、あるいは中立の歴史観を持つて書くということは可能でしょうか。それと日韓だけでなく、日朝韓の仲間の協力を得るべきでしょか。在日の方たちの間では、共通の歴史教科書が必要という声はありませんでしょか。」

「ういう具体的な質問があります。それと先ほど言われたことと少し関わりますが、

「これからのはじめに、在日同胞のあり様として望まれるのはどういうようなものか、日本社会にとって在日同胞の存在はどのような意味を持ち得るのか、現在・未来において。」

「ういうお尋ねもあります。この歴史教科書の問題も未来に関わることだと思いますので、そういう意味合いを込めて、少し時間が押していますので、なるべく手短にまとめてお一人から聞かせていただけたらと思います。」

金　　「エスペランチスト」という言葉は僕も何年か前に新聞か雑誌かで見たことがあります。先ほど仲尾先生に改めて聞いて認識を新たにしたのですが、問題の歴史観、教科書共通のものを作り上げるためににはどうするべきかということですが、僕の主觀で言うと日韓、もしくは日朝韓一緒に作らなくてはなりません。日本で独自に、十分我々の歴史背景や認識を伝え得る教科書を作ることができると思います。ただそれをしていないだけです。家永さんの教科書裁判の過程はよく分からぬのですが、例えば、一つの語句、朝鮮の侵略を「進行」という言葉に変えたり、日韓併合を「合併」の意味合いに変えてみたり、そういった言葉の中に、実は日本がたくさん歴史的な資料を持っていいるのです。というのは、朝鮮半島は植民地支配をされて、たくさんの書類が焼却されたり没収されたりして、現在朝鮮半島の由緒ある陶

磁器などの歴史的遺産はたくさん日本にあるわけです。

北区に高麗美術館というのがあるのですが、創立者の鄭詔文氏チヤウモンは自分の私財を投げ打つて、日本にある朝鮮半島の、例えば、李朝時代の白磁や青磁を集めて建てたわけです。僕は日韓共通というのは要らないと思います。日本で十分、韓国でも北朝鮮でも立派な教科書だというものができるはずだと僕は思っています。

これから社会についてですが、どのような意味合いを日本社会において持っているのか。まさに日本という国、社会が本当の国際的な社会・民主主義が実現される社会になつていく試金石だと思っています。というのは、在日同胞の尊厳が普通に守られて、いろんな意味で自由に語り合える社会、それが日本が国際的な開かれた社会になつていく試金石だと思います。これが解決できずに、やれアメリカだ、やれヨーロッパだというのは間違っていると思います。

これから未来において、日本と朝鮮半島の友好関係、または在日同胞との本当の意味での善隣友好がまず先決だと思うし、それをなくしての国際交流は欺瞞だと思います。つい最近も、東南アジアでO.D.Aでダムを作るのに何千人の人の住居がなくなると聞きました。そういうところに何千億円というお金をつぎ込んでいる。そんなことをするのであれば東九条四〇番地の問題、宇治のウトロの問題、桂の自衛隊駐屯地の横にある前泓町の問題などにもつとつぎ込むべきです。足元にやらなくてはいけない問題がたくさんあるわけです。

池 僕自身、エスペラントというのを初めて聞いたので、先ほど仲尾先生に聞いて理解したのですが、共通の歴史教科書を作りたいという部分では僕はいいことだと思います。確かに日本は半島に比べてたくさん資料を持つています。特に、日本の人の特徴で記録をこまめに残すということが見受けられる

ので、いろんな公文書、戦中戦後の資料が各省庁にきちんと整理されているので日本独自でできるのを  
しようが、作っていく過程が大事だと思います。というのは、お互いに歴史認識が当然違うし、受けて  
きた側・した側ということがあるので、その中でお互いの理解を深める作業が大切だと思います。いろ  
いろ調整していく作業は並大抵のことではありませんが、作業を通してお互いの歴史観を理解していく  
ことが、日本が韓国や北朝鮮について知らないこと、韓国や北朝鮮が知らない日本のことを作業の中で  
やつていく必要があると思います。

これから在日同胞のあり方として望まれるものはどのようなものかですが、これから在日の社会  
は民族性を保持しながら本名を名乗って、日本人の人と同じように同じ義務、同じ権利を指向して、一緒  
に住みよい社会・より良い社会を作っていく。その中で必要なのは、在日同胞を生かすも殺すも皆様の  
考え方次第だと思います。

今、盛んに国際化が言われ続けていますが、きつい言い方ですが、在日同胞の待遇一つにしてもな  
か満足にできないのに、アメリカや他の国々と友好が保つていけるのか。ましてやこれから政府が先  
頭に立つて「日本の皆さん、どんどん国際化していく、もつともと日本に受け入れていく」と言  
う割には、首都のど真ん中の大使館があるところで、「外国人とペットは相談にのります」という看板  
が平然と出ているという問題があるわけです。掛け声だけで終わってしまって、うわべだけの、中身の  
伴わない国際交流ではないかと思います。だから、本当の意味でこれからやつていくと思うなら、お  
互いを尊重し合える、お互いの差異を認めて、人間として尊重し合える社会を作らないと駄目だと思  
います。当然、僕ら在日は日本社会に要求していくだけでは駄目だと思います。僕ら自身もそれに応える  
ように努力していかないといけないと思いますし、皆さんも、お互い努力して良いものを作つて楽しい、  
明るい未来を、二一世紀も五、六年先です。過去一〇〇年は不幸な一〇〇年でしたが、六年後の一〇〇

年は新しい、楽しい一〇〇年にしたいと思います。そのためにもお互に頑張っていこうと思います。

仲尾 ありがとうございました。もう一つ感想兼質問がきてます。ご紹介します。

「米ソの対立が解消し、東西ドイツの統一がなされた客観状況であるが、金さん、池さんお二人は私の前ではそのような素振りを微塵にも感じさせない。南北に分断されたのも米ソの対立が原因であり、本来朝鮮民族には対立は全然ないと私は推察しています。ですからこの会場の雰囲気を拡大していけば、南北の違いはもちろん、東西の差別は解消できると私は信じています。そういう点で、お二人並びにコーディネーターである私に感想をお聞かせいただきたい。」

ということがあります、今お二人の最後のお話を伺つてみると、この質問・感想に対する答えは十分に出てると思いますので、この方には今のお二人の感想をもつて答えに変えさせていただきたいと思います。

あと感想が二点ありますので紹介しておきます。

「先日龍谷大学にまいりましたら、偶然学生の成人式に巡り会いました。大勢の振り袖姿の中にチヨゴリの女性がお二人おられました。思い思いに記念撮影をされているところでしたので、そのチヨゴリの美しさに引かれてそばに行つて「おめでとう」と言いました。「有難う」と言ってくださいました。あの日、立派な民族衣装をあの会場で拝見したときの新鮮な感動は、今日のお二人のパネラーの方の祖国觀と民族意識を拝聴して全てを肯定することができました。私はコリア文化を敬愛する日本人です。」「僕自身は日本人なのですが、池さんのように浮き草みたいに自由に生きていきたいと思つています。二つの文化を持っている在日の人達に、今までこそ積極的なイメージを持つていますが、以前はそうでは

ありませんでした。差別されているとか、強制連行されたとか聞いたり読んだりしているうちに、「在日イコールかわいそう」が固まってしまいました。日本人として罪の意識もあつたせいでしが、在日本関係の本は読んでもしんどさを感じるだけだったので、読みたくもないという状態でした。カナダに留学していろんな民族が共生しているのを見て、もう一度在日関係の本を読もうという気になつたのですが、そうでなければ今でもこのテーマは避けていたことでしょう。というわけで「在日ってかつこいい」「面白い」というイメージをもつと広げていくことが今必要なことだと思います。」

「こういう感想がございました。お一人から様々な形で語られましたので、在日の若者が、どういうイメージを持つて日本社会に生きておられるか、私から繰り返すまでもないと思います。私が非常に印象に残りましたのは、お二人が様々に語られた中で、「在日とは何だろうか」ということを自分で毎日問い合わせながら生きていらっしゃるのではないかということを思いました。そしてお二人が日本社会に生きていらっしゃることから、二つの目、「複眼思考」とおっしゃいましたが、そういう思考を身につけてこられた。そういう意味で貴重な、時には苦しい思いの中から、あるいは差別にぶつかってそれと闘う中で「複眼思考」を身につけてこられたということが特徴的に浮かび上がる気がします。

さて、日本人社会はどうか。まだまだ「単眼思考」が支配的だと思います。そういう意味では私達日本人が、日本社会の一員でありながら、同時に日本の社会の中で朝鮮民族・韓民族の方がおられることが自体が、私達が「複眼思考」を日本社会の中にいながら持つことの大きなきつかけになっていくと思います。そういう意味で、私達は日本の中における在日の方々の今のあり様に思いを日々いたしながら、日本人でありながら日本人を外から見る目、あるいは他の民族との共存は、日本社会の中、日常茶飯事の中はどうしたらできるかを考えるべき時点にきていると思います。お一人から貴重な示唆を得たと思うので、これを我々の心の糧として生きていきたいと、私は思いました。

## 第三回 「朝鮮文化と共に生きる」

パネラー

金巴望氏（在日二世・財高麗美術館事務局長）

裴孝子氏（在日二世・舞踊研究所アリラン代表理事）  
コーディネーター 仲尾宏氏（京都芸術短期大学教授）

一九九四年二月十七日実施



## 第三回 「朝鮮文化と共に生きる」

### 第一部

司会 お忙しい中をご参加いただきまして、ありがとうございます。去年の一月からスタートいたしました「チョゴリときもの」は、本日をもちまして第三回目を迎えます。今日はその三回目として、「朝鮮文化と共に生きる」ということについてお話をいただきますが、ここで、本日のコーディネーターの方とパネラーの皆様をご紹介させて頂きます。

まず、コーディネーターをお願いしています仲尾宏先生です。中尾様は現在京都芸術短期大学の教授でいらっしゃいます。続いてパネラーの方ですが、金巴望さんです。金巴望さんは在日一世の方で、財団法人京都高麗美術館事務局長でいらっしゃいます。

もう一人の方で、妻孝子さんです。妻孝子さんも在日一世の方で、現在舞踊研究所アリランの代表理事でいらっしゃいます。

なお、お話をいただいた後、会場の皆さんとの意見交換を行いますので、ご質問やご意見のおありの方は、お手元の意見用紙に書いていただきまして、別に用意します意見箱にお入れください。それでは仲尾先生、宜しくお願ひします。

仲尾 皆さん今日は。このフォーラムも今年で三回目になりました。今日のテーマは全体のテーマであります「チョゴリときもの」にふさわしいテーマです。「朝鮮文化と共に生きる」。やはり民族性というものは文化を通じて現れる、と一般に言われていますが、在日の方々がどのような民族と文化への思い

をお持ちであるか、そして今日のお二人は特に自分たちの祖国の文化を在日の立場で、日本の京都という町の中でお仕事として活躍されている方です。

今までいろんな方のお話を伺いましたが、文化のお仕事をされている方は初めてなんですね。そういう意味で今日は大変楽しいお話、あるいはいろんな出し物もあるかと思います。そういうお話も聞きながら、在日の方々の思いと祖国への思いを聞かせて戴けると思います。

それでは最初に高麗美術館の事務局長であり、もう一つは同じ美術館の主任研究員、研究者の立場であります金巴[望]さんからお願いします。

### 日本初の高麗美術館

金 私の話しさは高麗美術館の紹介から始めたいと思います。高麗美術館ができたのは、一九八八年一〇月二五日です。ちょうど今年でようやく六歳になろうとする、人間で言うとまだ若い、小さな美術館です。

日本には、大から小まで美術館・博物館を合わせると約三〇〇〇軒ほどあるといわれています。その三〇〇〇軒ほどの中の、どこにもない特色を高麗美術館は持っています。

それは二点ありますて、一点は、朝鮮半島の美術品を専門に蒐集・研究している美術館であるという特色です。例えば京都には国立博物館があり、あそこにも朝鮮半島で作られた美術品がありますが、それは膨大なコレクションのごく一部でして、なかなか皆さんに展観していただける機会がなかった。ところが高麗美術館ができてからは、例えば焼き物、絵画、木工品・金工品などを常時見て戴けるようになり、いわば日本で初めての朝鮮半島専門の美術館であるというのが特色の一点です。

もう一つは、蒐集品が約一七〇〇点あるのですが、美術館にこられた日本の方がよくお尋ねになります

す。つまり「韓国で集められたのですか?」というご質問が多いのです。私共の蒐集品は、すべて一点一点日本にあるものを集めてできた美術館なんです。これが二点目の特色です。

### 美術品に見る日朝友好の証

日本と朝鮮半島は近年非常に不幸な時代がありました。もちろん、その時に朝鮮半島から日本にもたらされたものも多くあるのですが、私共は近年、そればかりではないことを特に強調しています。その不幸な関係の時代というのは、長い悠久の歴史から見ればごく僅かな時間なんですね。不幸な歴史の前には、二六〇年間余り友好を培つてきた時代があります。

ご承知のように、「江戸時代の朝鮮通信使」なんですね。この通信使は合計一二回やつてきておりまして、最後の一回目、文化八（一八一）年は対馬まで、三回目は京都までやつてきていますが、残り一〇回は江戸までやつてきております。

何のためかと申しますと、徳川家の將軍が新しく替わるたびにお祝いの使節としてやつてくる。現在の韓国の都はソウルですが、当時もそこが都で、漢陽といいました。国王の命令を受けて、一行が釜山にやつてくるのです。釜山から船に乗り替えて、対馬、対馬から下関を通つて瀬戸内海に出ます。兵庫、大阪、そして淀川から京都に入るのです。さらに京都にきて東海道を上つて江戸まで行くのですが、一行の総数は少ない時で三〇〇名、多い時で五〇〇名余り来ています。その中に画家が必ず一名ないし二名同行しています。

あるときには、金明國（キンメイコク）という画家が日本の求めに応じて水墨画を即興で描いたことがあります。その即興画に、当時の日本の大学頭であつた林羅山という学者が、今で言う文部大臣の位に当るのでしょうか、その人が絵に賛を書く。そのようにして日朝友好の証になつたものが、現在、高麗美術館

の一七〇〇点の一つになっています。

美術品を見る場合、私共では焼き物でもラインが美しいとか、色が美しいという即物的なところに留まらず、その美術品ができた背景には必ず歴史が、時代があると考えております。その通信使ゆかりの絵のように、美術品の背景に広がっている世界・歴史を勉強することも私共の仕事だと受けとめています。

### 李朝美術の特色

日本の方々、在日の方々もそうなんですが、李朝の美術というと焼き物、特に白磁を思い浮かべる方が非常に多い。

李朝の美術イコール白・白磁だという思いが強いようです。例えば、白磁の丸壺（写真1）などは高麗美術館で常時飾っているもので、私共にとっては象徴的な作の一つです。李朝の白というものは当時の朱子学、単純に言えば余分なものを取つて取つて……行き着いた先にこの白がある。いわゆるシンブル・イズ・ベストの象徴として大事にしたものでした。

その象徴である白磁は、国王専用の、国王だけしか使えなかつたものということで、当時の人々はそこに権力と富貴、尊い意味で大切にしてきました。

ところが、白磁の白・尊い色の白はあくまでも当時の文人であつた男性社会の価値観のものなのです。では、女性の社会ではどうだったのか。ここに女性の文箱、小物入れの箱があります（写真2）。これは華角張の箱といって、素材に子牛の角を使つた、非常にカラフルなものです。当時の女性はこういう

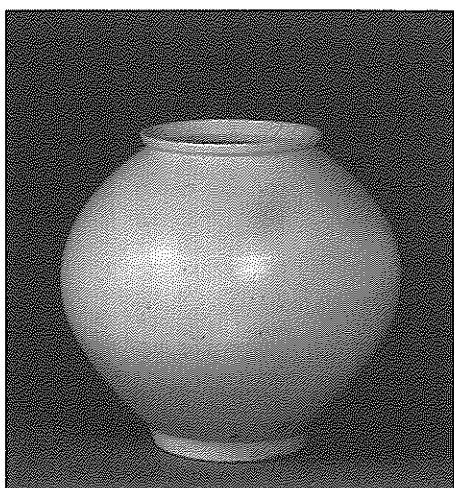


写真1 「白磁」高麗美術館蔵

カラフルなものを使つていました。これは李朝工芸の代表的なものですが、さらに女性の部屋には刺繡で作った、鮮やかな色のものを実際使っています。私共の李朝のイメージ、李朝の美術品のイメージは実は白だけではなく、こうした女性が日常使つたものの中にも非常に素晴らしい工芸品がありまして、白からカラフルなものまで非常に幅が広いのが李朝美術の特色ではないかと思います。

### 気候・風土により異なる色彩感覚

私はかつて朝鮮半島と日本は非常によく似ていると思っていました。ところが、こういう朝鮮の文化・美術品に触れていると、最近日本と朝鮮は全く違うと感じるようになりました例えば、最も違うと思っているのが「色彩感覚」です。

私は朝鮮半島と日本は風土が全く違うと思います。まず気候・風土が違う。朝鮮は大陸的な気候ですから、暑い時は暑い、寒い時は寒い。この前も冬のソウルに行つてきたのですが、マイナス一〇度なんですね。全然日本と違います。ところがある真夏に行つた時のことでした。王陵には石人という大きな石で作つた像があるのですが、その調査をしていたとき、ついに日射病で倒れました。それだけ夏冬の寒暖の差が激しい。そして空気が非常に乾いています。そういう気候・風土の中では鮮やかな赤い色、青色、黄色でないと、気候に負けてしまう。映えないと。

ところが日本はいかがでしようか。うつうつとする気候の中で、真っ赤な着物で真っ赤なパラソル、

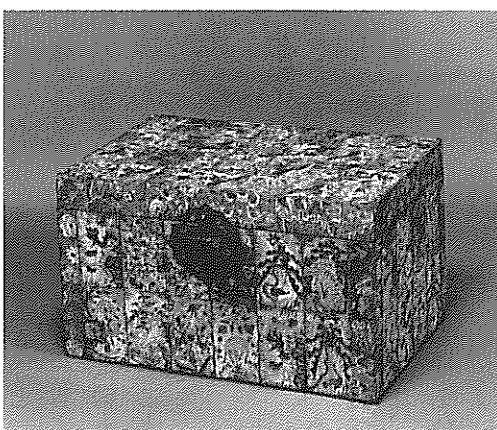


写真2 「華角張箱」高麗美術館蔵

真つ赤な履もの、真つ赤なハンドバツクを持つて、梅雨のときに歩かれますと恐らく後ろ指を差されると思います。

朝鮮半島でも一ヶ月ほど遅れて梅雨があります。梅雨時と言えどもああいう色が似合うのです。メリハリのきいた色彩でないと、朝鮮半島ではなかなか色として受け入れられなかつたのだと思います。それほど色彩感覚は気候によつて違うのです。ですから、チマ・チョゴリには大陸的な気候に育つた色彩感覚が現れていると思います。

私は在日の二世で、私のオモニ・アボジが一世なのですが、ある時、私のオモニが結婚式のためにチヨゴリを作ることになりました。すると鮮やかな色彩の布地を選んだのです。ところが、私の家内や姉、あるいは姪つ子が——二世、三世、四世なんですが——、チヨゴリを作つたのですが、どちらかと云ふと表でない、内にスー<sup>ツ</sup>と入り込んでいくようなシックな色彩、微妙な色合いのチヨゴリを作るようになつてきました。そこで私は思つたのですが、同じ民族、同じ血を引く朝鮮民族と言えども、人間も気候・風土に培われますから、その色彩感覚も一世と二世、三世、四世は全く違つてきたなどということを感じた次第です。

### 日本の文化・習慣の中で

余談になりますが、私がソウルに行つて博物館の先生方と御飯を食べたりすると、「キムさん、あなたはどうみても日本人ですよ。」と率直におっしゃるのです。どうしてかと言いますと、冷麺を食べる機会があり、わたしは「チャルモゴッスマミダ（ぢちそうさま）」と云つて、割り箸を紙の鞘に入れ、きれいに揃えて置いたのです。そうすると韓国の先生は、「割り箸は使つた後捨てるもので、それをわざわざ紙の鞘に入れてきれいに揃えて置くというのは全く労力の無駄。私達はそういう無駄なことはしま

せん」と言われた。ところが、京都に帰ってきて、仮に仲尾先生と御飯を食べ「「」ちそうさま」と言って割り箸をバーッと置くと、恐らく仲尾先生は行儀の悪いやつや、と思われるかもしれません。作法や習慣でも日本と朝鮮は全然違う。

もう一つ、私のどこが日本人なのかと申しますと、言葉も日本語を喋りますし、考えることも日本語、ファッションも日本の、ヘアースタイルも日本の、そしてよくお辞儀をすると言われます。私は京都で生まれて京都で育っていますから、根っからの日本の風習・習慣の下に生まれていますから、身に染みているのです。それを、恐らく韓国の先生はおっしゃったと思うのです。根っから日本人として育っていますから、学校も日本の学校でしたし、色彩もどちらかというと表にバーッとでるものよりも、シックなものが好きな人間です。

### 在日だから貢献できること——新しい発見

ところが、仕事として朝鮮文化に携わっているものですから、朝鮮の歴史を勉強しなくてはいけない。つまり頭だけは一生懸命本国の方へ行くのですが、身体はしつかりと日本に根付いています。この辺の微妙なアンバランスと言いましょうか、それが私の感覚のどこかにある。私には子供がおりますが、恐らく彼らもそれを感じると思います。

昔は、日本人でもない、韓国・朝鮮人でもない、では一体自分は何だろうと思つていたのですが、最近は、こういうアンバランスな状態のほうがいいのではないかと感じるようになりました。「韓国・朝鮮人でもない、日本人でもない」というのではなくて、むしろ韓国・朝鮮人であつてさらに日本人でもある。要するに両方のサイドから物事がみられるのは非常に得ではないかと思うようになった。ごく最近のことです。

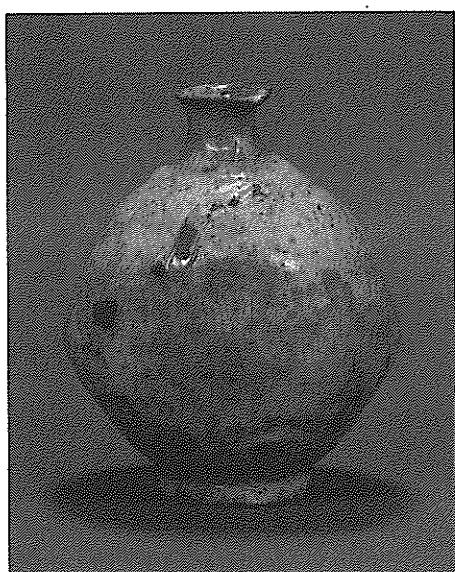


写真3 「粉青沙器粉引瓶」 大阪市立東洋陶磁美術館蔵

それは具体的に申しますと、李朝の美術・焼き物、日本の方は特にこういうものをすばらしいものとして好まれます（写真3）。ところが韓国人々にとつては、それを李朝の焼き物の代表であるとは言えないのです。それは日本人の方、あるいは韓国人の方だと分からぬ程度のズレなんですが、ところが在日である私にはこのズレは分かるのです。もちろん焼き物の中にも共通項はあります。白磁や染め付けとか、いいなと思われる共通部分もあるのです。ところがどうしても韓国の人達には理解できない焼き物がある。「高麗茶碗」には理解できない焼き物がある。

の世界です。日本の場合は国宝に近い、ある研究者も「屈指の名品」とおっしゃる世界が、韓国の人はどうも理解できない。

一方では、日本の方々に分からぬ李朝の焼き物の評価部分もあるのです。日本人が「自分たちのみ」ものが李朝の美術の全てだ」と思い込むことは、誤解を生じやすい。韓国人々の中でも「これが俺たちの美術品だ」というのも、全部が全部そうじやない。ところ変われば品変わるで、同じ李朝の焼き物を見るにしても、住んでいる世界・風土によって、そして伝統によつてその評価が変わる、という現実がある。

また、日本と朝鮮半島は非常に近いですから、日本列島と朝鮮半島の歴史について、関係史について、在日韓国・朝鮮人の先生方が共同で研究して、大きな話題となつたものがあります。それが先ほど申しま

した通信使のことなんです。辛基秀さんが二五年ほど前に映画を作られたことによつて初めて社会的に認められたのですが、これは在日の私達がいなかつたら恐らく日本の教科書にも載らなかつたでしよう。在日であることによつて、非常に大きな役割を果たすことが可能であるといふことも気付いたわけです。

### 朝鮮文化とともに生きる

最後になりますが、かつて一世の作家で金達寿さん、あるいは一世の作家で李恢成さんイフエンがいらっしゃつて、私は二〇年ほど前でしようか、金達寿先生とお話した中で、カボチャの話を初めて耳にしました。それは、カボチャの種を朝鮮から持つてきて日本に植えると、最初だけ朝鮮のカボチャができる。ところが一年目、三年目、四年目になると、それは朝鮮のカボチャではなくて、日本のカボチャに変わつていくんだ、というお話でして、笑つた記憶があります。そして李恢成さんもその話をある作品の中に書いていらっしゃる。李恢成さんもそのことについて、在日として寂しいようなことを、どうあるべきかということを書かれていたように思うのですが、今から思えば、お二人の在日の生き様の例え方は間違つていると思います。人間の営みは、実は土の問題でもない、種の問題でもないのです。もちろん、土の中に種を入れて育つていくカボチャが、日本のカボチャであれ朝鮮のカボチャであれ、それはいいのですが、一番肝心なのは土に埋めただけではカボチャは育たないことです。育てるためには肥やしが要ります。日本の土であれ、朝鮮の種であれ、それを育てて実際の実とするには肥やしが要ります。その肥やしを金先生、李先生は忘れていらっしゃると思ひざるを得ないので。例えば、私も朝鮮の種だつたのです。今は日本の土の中にできたカボチャなのです。ところが、私が育つたのは肥やしがあったからこそで、それがあるからこそ日本の土の中で朝鮮の種の私が育つたと思うようになりました。その肥やしは一体なんであるかと申しますと、私の場合は朝鮮文化なんです。人間

は種の問題ではない、土の問題じゃない、どういう肥やしをその種に与えてやるかというのが本当の人間の営みであつて、人間がどこの場所に生きようと、一番肝心なのは自分がどういう肥やしを選んで、どういう肥やしを自分の種に与えてやるかというのが、生き様、自分の人生ではないかと感じます。そう感じたからこそ、私にとって朝鮮文化は切つても切れないのです。これがなかつたら日本に生きる私としては生きられないということを、最後にお話して私の時間を終わります。

仲尾 どうもありがとうございました。たいへん具体的な例を挙げて、日朝の文化の違い、在日としての文化の共有者であることを自らお話しただきました。

それでは続いて、アリラン舞踊研究所の妻孝子さんからお話していただきます。

孝子さんはアリラン舞踊研究所の主催者で、もちろん先生でもあります。今日はビデオ、あるいは小道具、その他持ってきていただいておりますので、同じく楽しく聞かせていただけると思います。よろしくお願ひします。

### 踊りを通じて「民族の魂を……」

襄 はじめまして。私が舞踊研究所アリランの代表理事の襄孝子です。まず、最初にビデオをご覧ください。

(ビデオ、音楽流れる。ソロの踊りの場面。)

引き続きアリランの舞踊研究所の会員の踊りです。

(ホールの真ん中でチマ・チョゴリの女性の踊りの輪が広がる。)

最初の場面の方は、金剛山歌劇団の舞踊家でもあり、文芸局長、演出家、創作指導者の第一人者であ

る李美南先生です。昨年七月一七日に宝ヶ池プリンスホテルで催したアリラン舞踊会に出演していました。

私は日本で生まれ育った在日二世であります。幼い頃、結婚式やおめでたいことがあると、チマ・チヨゴリに身を包んだオモニ達が長鼓（チャンゴ）をたたき、一晩中チャンドン（リズム）に合わせて踊る姿をよく見たものでした。しかし最近は結婚式を自宅で行うのではなく、ホテルの式場であげることが多くなつたせいか、あまり昔のように一世のオモニ達の踊る場面を見かけなくなりました。日本は段々住みやすくなり、生活も豊かになつてきましたが、在日一世としての生活の中でもつとも大きな楽しみの一つであるオッケチヨン（チャンドンに合わせて踊る）を大勢の人と踊れたらと、いつも思つていたわけです。

舞踊研究所アリランを開設しようと思ったのも、やはり踊りで交流を広げ、民族の魂を少しでも深めていけたらどんなにいいだろう、いろんな意味で踊る場がほしいと思つたからです。

そして、たまたまクラシックバレエを専攻している代表講師の金和江との出会いがありました。これも私に取つて研究所開設の大きなきっかけの一つでした。クラシックバレエと民族舞踊、同じ踊りを踊るという共通点がありましたし、踊りを通じて民族意識を高めたいという目的が一緒だったのです。

これが第一段階として、一番最初の大きな仕事となつたアリラン舞踏会の映像です。

朝鮮の音楽やリズムに合わせて皆で楽しく踊ろう。そんな思いの込められた舞踏会に二八〇人の方々が参加されました。この三八〇人が踊る輪の中には、在日同胞は勿論、日本の皆様や韓国からの留学生も多数集まつてこられました。第一目的がチマ・チヨゴリで踊るということでしたので、本当に楽しそ

うに踊っているオモニ達を見ることができました。

### チマ・チョゴリ

先ほど、金田一先生から艶やかな衣装だとお誉めの言葉をいただいて、ちょっと恐縮しております。私達在日がチマ・チョゴリを着るとすれば、やはり結婚式や何かの行事に着るくらいで、日常生活では洋服を着ることの方が多いですね。

チマ・チョゴリを何度かご覧になつた方もおられると思いますが、着られた方はいらっしゃいますか？よく、どうなつてているのですかと質問を受けることがあるのです。上にはおつているのがチョゴリで、下はジャンパースカートのように一枚になつておりますが、この部分をチマといいます。

世界の民族衣装の中でもっとも美しいのがチマ・チョゴリだとも言われています。大勢の人がチョゴリを着て踊る様子は、まるで色とりどりの美しい花が咲くお花畠のようでした。

### 民族楽器チャンゴ

先ほど、最初の場面で李美南先生が踊りで脚につけている打楽器はブツクといいます。そしてここにあるのがチャンゴ（長鼓）です。日本の鼓に似ていますね。太鼓とは少し違いますが、これもブツクと同じく朝鮮打楽器の代表といえるでしょう。チャンゴは打楽器の中でも音色がとても豊かです。チャンゴをたたくりズムはなんとも言えぬ味があるのです。チャンダン（リズム）がとても豊富なので、楽しさ、悲しさなどを音で表現できるのです。どうやってたたくのか、簡単に説明させていただきます。

まず、右手でたたく時はチエ（ぱちのようなもの）を持ちます。右側は、手のひらでたたいたりしますが、クングルチエというものを使つてたたくときもあります。

## 母から学んだチャンダンの奥深さ

今回、パネラーとして依頼を請けたとき、正直言って、皆様の前で何をお話すればいいのか、これといつて特別に自慢できることがあるわけではなく、困惑してしまいました。そして、やはり私がお話をすることは、私の母のこと、そしてその母を慕う気持ちから私が今日、民族舞踊を愛するようになったことだと思いました。

私は幼い頃によく、なぜ？なぜ？と質問して母を困らせたのです。

「オモニのオモニは？」

「日本にいないよ」

「どうして？」

「事情があつて日本にいないの」

「じや、アボジは？」

「アボジもオモニも朝鮮だよ」

「どうして？」

そのときは、なぜ？どうして？の世界でした。私の父は強制連行という悲しい時代背景の中で日本に渡つてきました。その父を追いかけ、朝鮮で生まれた姉を連れて、母は日本に住むようになつたのです。私は兄弟が多く、八人兄弟の末っ子です。母は子育てに追われる毎日でした。言葉も話せないし、身内もいない日本での楽しみは、チャンゴをたたいて踊ることだったそうです。特に兄弟の結婚式のときなどは、一晩中踊るのです。いえ、二日も三日も延々と踊り続けることもあります。お客様が帰り、家族だけが残つてもまた踊るのです。兄はチャンゴをたたき、母はオッケチエムを踊ります。私は母が楽しいから、嬉しいから踊るのだと、ずっとそう思つていました。でも夜が更けたとき、ふと母の顔を

見ると、目から大粒の涙がいっぱいあふれていきました。母は身内もいない淋しい日本で必死に生きてきました。娘が嫁ぐ喜びの裏に、親から遠く離れてきた悲しい昔を思い出しているのではないかと……。踊りは心をなごませてくれるのです。チャンダンも心やさしく響きます。私はそんな母の踊る姿を見て、兄のたたくチャンダンを聞きながら育ちました。私自身才能があつて、舞踊を始めたわけではありません。でもそんな母の踊りに魂を見たような気がするのです。

### 朝鮮歌舞団との出会い

私は中学校で民族教育を受けましたので、一応、日常会話くらいは話せます。民族教育高等科を経て、愛知県の朝鮮歌舞団に入団しました。特別な才能をかわされたわけではなく、ひょうきんさがウケたといふか、歌舞団の副団長に「いやー、君はなかなかいい味を出しているね」と讃められ、讃められたまた調子にのつて、ミュージカルを一人八役でやつたりするわけです。松の木になつたり雪になつたり、それを二、三〇分演じたりしました。そしたら「君、歌舞団に入りなさい！」という運びになつたわけですが、今思えば踊りや歌をかわされたわけではなかつたみたいですね……（笑）。

歌舞団に入団してからは、毎日踊りと楽器、歌などの練習です。そして同胞の住む地域に出かけて、そこで踊りや歌を公演しました。私がアリラン舞踊研究所を開設するきっかけの一つに、この歌舞団の副団長との出会いがあつたのです。

### 民族舞踊は文化交流を深める手段

今日は皆様にお会いできたことをとても喜んでおります。異国でありながら、自分の国の民族衣装に身を包み、踊りやチャンダンのお話をさせていただけたこと、在日朝鮮人として誇りをもつて、こう

してパネラーとして皆様の前でお話できること、これは萎縮して生きる人生ではなく、堂々と生きる民族の魂を私のオモニ、アボジが授けてくれたおかげだと思っております。オモニから受け継いだ、言葉では言い表せない感性、母の体内をすっと流れてきたものを今度は私の子供達に伝えていかなければいけないという使命感にあふれています。私は踊りを通して 金巴望先生は高麗美術を通して、朝鮮の歴史や文化を伝えています。少しでも多くの人に、特に二世、三世の子供達に民族舞踊を知つてもらうためにも、私はいろんな場所で踊り続けていきたいと思っております。そして、踊りやチヤンダンを知つていく中で、私達朝鮮人の文化、歴史をもつともうと深く学んでほしいと願つております。

### 祖国統一を願う

建都一一〇〇年を記念して、京都市主催のワンコリアパレードが四条河原町で大々的に行われました。私はさまざまな政治的理念の違いはあれど、在日韓国・朝鮮人がチマ・チョゴリに身を包んで、同じチヤンダンでパレードできたことを誇りに思っています。いろいろな形態があるかもしれません。しかし、民族の魂を一世から二世、二世から三世へと代々伝えていきたい、そんな願いや想いを後世に託したいのです。そのための努力は惜しまないつもりです。また、どこかでチヨゴリや民族舞踊を見かけたりされる機会がありましたら、こうして在日はがんばってるんだなあ……と応援してください。

「静聴ありがとうございました。」

仲尾　お二人からたいへん素晴らしいお話をいただきました。金巴望さんが朝鮮文化は私にとつて肥やしである、とおっしゃいましたし、襄孝子さんはお母さんの何氣無い踊りの中に流れる涙の中に、民族の生きる証を見られたと思います。それは同時にまた近代の日本と朝鮮の非常に不幸な、と言うより

は余りにも悲惨な歴史が写し出されているわけです。そういうことを念頭におきながら、私達は在日の方々、今日本全国で七〇〇万の方が住んでおられます。すでに日本国籍を取つてしまわれた方を含めますと、一〇〇万を越えるのではないかと思いますが、一〇〇万近い方々の日本に生きられる思いを、日本人としてはいろんな側面から知る必要があるし、そしてまた、文化に託される思いをよりよく知る、より正確に知る努力が必要ではないかと思いました。

後半は、休憩の後皆様方からのご意見・ご質問を受けてさらにお二人に展開していただきますので、どうということでも結構ですのでお書きください。ただ、今日は文化講座ではございませんので、余りにも専門的なことについて時間を費やすと時間がもつたないので、お二人の生きてこられた生き方、それからこれからの方々と文化といったところを中心にはた展開していただきたいと思いますので、一つよろしくお願ひします。

## 第一部

仲尾　お待たせいたしました。毎回のようにたくさんの質問をいただきまして、少し整理に戸惑つて遅れました。お二人への共通の質問、それから内容によつて、あるいはご指名によつてどちらかにといふことがござりますので、まず金巴望さんへの質問、あるいは金巴望さんにお答えいただいたほうがいいような質問を取り上げます。三種類ありますので、三度お答えいただくことになります。一応全部読み上げますが、これは一問一答の国会答弁ではありませんので、ご質問の主旨を含んでお話をいただけると思いますのでその点をご了承をお願いします。まずご質問の第一、お二人から出ていまして、共通したことがあるのでまずこれから。

「朝鮮民族衣装について、白色を愛し、白色が一般化して、葬儀のみならず日常生活・衣裳にも白色が常用されています。これは一説によると貧困からきたもので、染める」ともできない布をそのまま使用して、それが庶民が愛着を持つようになり、一般化したと聞いています。ところが、またの説は経済的なものではなく、染色技術的なものでもなく、白色こそは朝鮮民族の生命体とも言うべき色彩で、愛用されていると聞きます。」教示ください。」

「」ういう色についての質問です。それと同じような色に関する質問です。

「私は戦前平壤<sup>ピョンヤン</sup>にいたことがあります。その際、朝鮮の人達の親族が多く、一親等、二親等、あるいは一〇親等くらいまである由、聞いたことがあります。そのために親族の忌中が次々と残るため白衣を着るようにと、町中の人に白衣が多いように思われました。朝鮮総督府から「色衣着用」との宣伝があつたように思います。洗濯も白衣のため多いとのことでした。現在は韓国ではいかがでしょう。」「いずれも色の問題、白衣が出ていますので、まず」の「」について金巴望さんからお答えいただきます。

金 非常に難しい質問で、朝鮮民族、韓民族が白をよく着るというイメージは確かにあります。が、まことに貧困からきているもの、貧しくて染めることができないから、そのままの白を着ている、といふのは間違いです。貧困ではありません。一例を挙げますと、麻布の場合は、元の原料から白い色を取ろうとする場合、非常に手間がかかります。おそばの場合、田舎そばなら殻のまま粉を引いて作って黒いそばができるります。京都のように更科そばの実だけ取り出して作るそばは白いです。それから想像していただきたいのですが、真っ白な麻糸を取るのは何よりも手間暇がかかることで、はつきり言って色を染めるよりも遥かに高級品だとえます。私は李朝の紙や布を勉強した結果、そのことを申し上

げるのですが、貧困からきたというのははつきり間違つておりますし、そういう経済的なものではなく、白色こそ朝鮮民族の生命体ともいうべき色彩で、愛用されているとも聞きます。

最初私の話の中で申し上げましたように、李朝時代はあくまでも政治理念や生活理念、現在私達が行つてている祭礼（チエサ）でも儒教理念に基づくものですし、あらゆる生活様式、着る物含めて儒教理念のあらわれです。シンプル・イズ・ベストとでも言うのでしょうか、余分なものを取つて取つて行き着いた先に、何が究極かということで、その行き着いた先に白があつたんだと考えます。そういう白の尊さを朝鮮民族は色として愛し、そして何の飾りもない真っ白な器が国王にふさわしいと選んだのです。私はこの方がおっしゃつているように生命体の原初、色彩の原初の“白”だと思つています。

そしてもう一つ平壤に行かれた方。「現在韓国ではいかがでしょうか」ということですが、冠婚葬祭、結婚式は派手なものを見送りましたが、葬式は白色に弔意を付けます。私も京都でハラボジが亡くなつたときにも白の物を見て見送りました。亡くなつた方は尊人ですから、私達は先祖に対して貴い白色をもつて祭礼の場をお迎えしますし、お見送りする。韓国のソウルではどうでしょうか……、鄭さんいかがですか。

鄭　白い色よりベージュみたいな色です。お墓参りとか、チエサの時、かなり少なくなつてきましたが、今でも着る人がたまにいます。

金　恐らくそれは麻なんですね。麻の樹木の根つこの一番真っ白なところを織つて作ったものではなくて、麻そのものを織つたものだと思います。その辺の違いがあるかもしれません。

仲尾 ありがとうございました。今少し横からお答えいただけた鄭昌根さんは韓国生まれ・育ちで、そして日本に来られたわけです。そうした意味で現代韓國文化はむしろ鄭さんにお尋ねしたほうがいいかもしません。

仲尾 それでは金田望さんにもう一つの質問です。

「李朝の場合の焼き物として白磁だけでなく、多彩なものがあるということでしたら、それでは美術館名にも付いている高麗と言えども、焼き物は青磁と連想しています。けれども高麗時代は青磁だけではなく、李朝時代と同じようにいろいろなものがあつたのでしょうか。」

这样一个質問です。

金 高麗時代はやはり青磁が多いです。たまに黒釉、黒い色の焼き物がありますが、殆ど焼き物は青磁なんですね。と申しますのは、当時の焼き物、高麗は九一八年から一〇世紀から一四世紀の間は焼き物は非常に高価な品物です。ところが、高価な品物は一般民衆は使えないで、国王、並びに貴族（ヤンバン）が使うものでした。当時は李朝時代とは違つて、贅沢三昧をした時代です。李朝はどうちらかというと、朱子学の理念によつて質素に暮らしてきたのです。ですから文様も余り付けない。ところが高麗の文化は仏教文化、貴族文化で、華やかな、例えばお客様を迎えるときに一番いい物を、贅沢品を使っておもてなしをするという時代でしたし、一点一点の青磁は貴重なものですからそういうものでお客様に料理を出したりしています。ほとんどは青磁です。たまに地方で窯跡を見ると、青磁になれなかつた、青磁のできそしないのようなのがあります。主流は青磁であつたところ理解ください。

仲尾 もうひとつ金さんに質問があります。

「いつ頃から朝鮮文化に興味を持たれましたか。在日の立場で日朝両文化を見ると、たいへん有利だということが解りましたが、日本人から見て解らない朝鮮文化の優れたところとは何でしょうか、教えてください。」

合わせて襄さんへ、

「これからも頑張つてください。ご活躍を期待しています。」

金 「日本人の人から見て分からない朝鮮文化の優れたところは何でしょか。」といふご質問ですが、逆に朝鮮文化の優れたところをどの部分、日本の方にわかつていただけないのかなど、私がお尋ねしたい。例えば、私が朝鮮文化、朝鮮の美術品イコール全て優れたものとは思っていません。やはり、李朝のものも高麗のものも歴史的な資料として優れたものはありますが、美術的な価値からすると、どうかなどいうものも確かにあります。ただ、ちょっと話が外れるかもしませんが、朝鮮文化の優れたものは、やはり時代を越えて私達の感性に触れるものが確かにることで、焼き物にはその高い感性を見ることがあっても、その他の工芸品には見る機会がない、ということは言えるでしょう。

「いつ頃から朝鮮文化に興味を持たれましたか」ということですが、やはり大学へ行っている時、「自分は何人であろう。日本人でも朝鮮人でもない。どうやって生きていいらしいのか、自分のアイデンティティというのですか、自分自身は何だろう」というところに入りました、結局自分は自分でしかない。あるがままに認めざるを得ないなど。朝鮮人でもないし日本人でもないし何人であろうということではなくて、むしろ朝鮮人でもあるんだという開き直り、それこそ朝鮮文化に興味

を覚えた結果だと思います。

**仲尾** 確かに一つの民族、例えば日本民族をもつた日本人から見た、日本文化に染まつた日本人から見れば、他の民族の文化をどう見るかは様々なことがあるのですが、往々にして陥りがちなのは一面化してしまうということです。

これはたいへん有名な話ですが、柳宗悦という有名な民俗学者がおられた。この人は朝鮮に戦前度々行かれて、朝鮮文化に非常に愛着を持たれた。そして当時の総督府政府によつて文化財が無残に破壊されようとしていたのを、声を上げて頑張つて保存運動に尽くされた方です。

ところが、柳宗悦さんもやはり「朝鮮文化は白の文化である。これは悲しみの文化である。悲しみの民族である」と書いて残しておられます。これは今日お二人からそれぞれおつしやいましたように、全く誤解なわけです。確かに白衣は使われることがあるけれども、それはむしろ高貴を意味する。あるいは亡くなつた人を貴ぶということで使われることはあつても、決して悲しみの色でも何でもなかつた。ところが外面向的にみると、優れた民俗学者であつても理解できないところがあつたわけです。そういう意味で私達は、どこの民族文化を見てもいろんなふうに見ますが、自分の物差しで見てしまうと一面的になつてしまつことがあります。そういう意味では、二つの目で見ることができ在日の立場は、これで一つのユニークな立場でありますから、そういう点で今日のお話は示唆に富むところが多かつたのではないかと思つています。

それでは裴孝子さんのほうに移ります。ご質問の中に「お二人に」ということも書いてあつたのですが、内容からして裴さんにお答えいただいたほうがいいと思いますので、裴さんに回しました。まず、やはりチマ・チョゴリに関するものが何点かきていますので、それをまとめてお答えいただこうと思い

ます。三通ありますので、三通ともまとめて読ませていただきます。

「私は金さんは韓国、裴さんは北朝鮮の方だと推察しましたが、それはともかく、今や米ソの対立・東西ドイツの統一がなされたのであります、南北の統一がなされないかぎり、悲劇は永遠に続くのはと想像していますが、今日のお二人が仲介の役目を果たしてもらえばと痛感しております。

裴さんに対する質問ですが、チマ・チョゴリは韓国の方々はミス（娘さん）とミセス（お嫁さん）、お年寄りとかによつて色も違つように感じていますが、その辺のところを解りやすくご説明くださいませ。男・若中老、女・若中老の別でお願いします。」

「これがチマ・チョゴリの第一番目の質問です。

同じく、

「チマ・チョゴリの正装の素晴らしい方に時々お会いして、最高に素晴らしいと思つています。祖国愛と民族意識を大切になさつてゐることは」立派です。が、靴はどうして西洋のものを履くのですか。韓国を訪ねたときに靴だけ買いました。」

「こういうご質問がきいています。

二番目、やはりそれと関連しています。

「『チマ・チョゴリときもの』というテーマにもみられるように、チョゴリと着物はよく比較されますね。素朴な疑問ですが、着物は今でこそ成人式やパーティーなどといった機会にしか着ませんが、昔は庶民の衣服でもありました。チマ・チョゴリはどうですか。お祭りのときしか今も昔も着ないのでですか。また、日本という羽織・袴のような男性版・チマ・チョゴリはないのですか。」

「いずれも衣装に関する事ですので、多少順序は前後しても結構ですので、一通り裴さんからお答えいただこうと思います。

裏 一番最初に仲尾先生から読んでいただいた中で、質問ではないのですが、北、南という話がありましたが、国籍の問題で言えばそういうものがあるかも知れませんが、今ここで二人が顔を合わせてお話をさせていただくなれば、共通の民族と文化・伝統で、多分一昼夜話が尽きないくらいに続けられると思います。ということは、文化・芸術、政治理念を超えて一つの魂を持っているのです。質問にはありませんが付け加えさせていただきました。

チマ・チョゴリのことですが、今日私の着ているチマ・チョゴリは俗にいうキン・チマで、先ほどスカートと言いましたが、チマはスカートで、キンは長いという意味です。

ミセス、ミスで分けるのであれば、結婚している場合にはキン・チマを着ます。そしてミスは膝小僧が隠れるくらいの丈のチマをはきます。結婚式では長いチマを花嫁が着ます。でも最近は、生活習慣やファッショニの多様化で、いろいろな着かたをしています。独自の個性で、好きな長さで、自由に着ます。長いチマは足の太いのが隠せたりして好きだわ、という理由で着たりしておりますので、一概には決められませんが……。

男の方の民族衣装の話がありましたら、男性が着るのはパジ・チョゴリと言います。パジはズボンのことを指しており、上はチョゴリです。最近は結婚式で古典的な衣装を着ることが多く、そんな時には男性は、洋服ではなくパジ・チョゴリを着ますね。

金 私は唯一結婚する時にそれを着て、チョッキみたいなものと、パジ、どつちかというとパツチのようなふわっとしたズボンです。恐らく在日の人間は一生に一回着るかどうかという気がします。最近は余り見ないです。

襄 最近は逆文化のせいか、段々と派手になつてきまして、アレンジしたチョゴリを着たりします。

これはオッコルムといいます。ボタン式ではなくひも式に結んでいますが、ブローチをつけたりホックをつけたりして、洋服みたいに着たりもします。古典的な着かたで、金銀の冠をつけ、宮廷の衣装のように華やかなものもあります。それを着るのは新郎新婦が多いですね。

靴の質問がありましたが、今日私ははいている靴はパンプスです。チマ・チョゴリにはコムシンという靴を合わせるのですが、どうしても慣れているのでヒールをはいてしまいます。八頭身美人に見せるためなのか、足を長く見せるためなのか、コムシンよりヒールをはく方が多いです。チマ・チョゴリはとても美しく、スタイルもよく見えます。腰の太い方もチマで隠れますし、足の太いのも長いチマで隠れますね。やはり優雅にヒールをはいて出かける方のほうが多いかしら……？

ボソンというはきものもあります。長靴みたいな形ですが。昔、私のオモニ達は家で手縫いで作つてはいていたみたいです。

仲尾 引き続き襄さんにお答えしていただきましょう。今度は踊りの問題です。

「女性の舞踊はよく見せていただきますが、男性は余り踊らないのですか。踊りの種類も宮廷舞踊、民謡、あるいはクラシック、モダンなどに分けられますか。日本人だからといって日本舞踊は余りに遠い世界にあるような気がし、金が掛かり過ぎる。子供たちもほとんど日本舞踊をやりたがらず、クラシック・バレエやモダン・ダンスなどを習うことが多いのです。西洋のものもあるにもかかわらず、日本人に民族的な文化性が失われていくのはおかしいと思いますか。」

これは朝鮮文化を担つておられる襄さんへの質問として妥当かどうか解りませんが、ともかく最初の二つ、それから日本舞踊に対するご感想がありましたらおっしゃつてください。

裴　さきほどもお話をさせていただいたのですが、結婚式が昔は自宅でよくされたということから、そういう時は当然女性の方も男性の方も喜びの感情表現としてよく踊っていました。うちのアボジも、踊つたりします。朝鮮舞踊の中で特徴と言えば肩をよく動かすことです。今日のビデオは手先を使っていましたが、それはどちらかというと西洋的なものも入っていますが、チャンダンもそうですが、体の中から全部表現するので、顔を動かす、手を動かすとなれば、当然肩でリズムをとります。自宅で結婚式を行つたときは、音楽に合わせて右や左に肩を動かして踊つている風景を見ました。でも、最近男の方が踊られているのは、舞台ではよく見かけますが、普段はあまり見かけません。

金　家で結婚式をしたときは私も子供ながら踊つたのですが、ただ舞踊というイメージなら、農楽。紙テープなどを回して踊るのは伝統舞踊としてあります。一般の生活の中でこんなしたらアホやと思われますね。

仲尾　鄭さん、現代の韓国ではいかがですか。男の人の踊りは。

鄭　サムルノリとか農楽でしたら、男の人でも肩とか足を動かしながらの踊りは学生の中でもかなり踊つております。

仲尾　どうもありがとうございました。

裴　私達の民族舞踊にも当然古典舞踊と現代舞踊、創作舞踊の三つのジャンルに分かれます。私個人

の希望から、古典はもちろん、現代舞踊も扱っています。

当然日本に住んでいますから、歐米文化も入っています。要望に合わせてそれらをカリキュラムで組んでいます。

それから質問というよりはこの方の体験、環境の中で感じられたと思いますが、日本舞踊もそうですが、クラシック、民族舞踊も全て自分の国独自の個性を出したものだと思いますから、大事にしていて欲しいと思います。お金の問題とかあると思いますが、好きなものに関しては手段を問わず、いろんな方法でチャレンジすることができると思っています。

日本舞踊をずっとやられた方でも、もし私達の民族舞踊をやってみたいという方がおられましたら、どんどんと躊躇せずに一度試してみてください。

仲尾 裴さんに対する最後の質問ですが、

「在日特有の文化があればどういうものか教えてください。チャンゴを叩いて欲しい。」

という希望がありますので、在日特有の文化があるかどうか一言お答えいただいた上で、少しチャンゴを披露していただくと大変嬉しいと思います。

裴 在日特有の文化というと、金巴望先生は何か……。

金 在日特有の文化とおっしゃいましたが、文化イコール生き様だと思います。私達が今生きていること自体が、将来の歴史から見ると文化だったなどいうふうに見られると思いますから、在日韓国・朝鮮人そのものが在日文化だと言わざるを得ないと思います。

裏 せっかくこうしてお声を掛けさせていただきましたので、最初に申しましたが、私は踊らせていただいだほうがいいと思います。今日は踊りはできませんが、代表的なチャンダンをたたいてみます。前にも外国人の弁論大会のときに公演させていただきまして、その時にチャンゴの講習会をしたのですが、とても喜んでもらえました。クウコリ、ヤンサンド、アンタンチャンタン、まだまだいっぱいあります。チャンダンは呼吸を伴って行われます。クウコリを叩いてみます。

(音)

子供用のチャンゴなので余りいい音が出せないので残念です。本當は大きなちゃんとしたチャンゴなので、お見せするだけと思ったので持つてきませんでした。では、クウコリで民謡を、

(歌と音)

「れをもつと、

(音)

リズムに変化を付けます。

はじめての生徒さんにはこのチャンダンを教えます。まず口で言えるようにして、今度は身体でリズムを取りましょうということで、今のリズムを口と同じように手足で動かしてみせます。ハッターケン、タックン、タックン、このハツの時に息を大きく吸っていただく。吸つて吐いてがリズムになっていますが、感情表現が単調とても豊富です。息を吸つたときにもすぐに吐かないで、足で自分の身体を押さえて、もうちょっともうちょっとで、ハツというリズムを取るわけです。一番最初にクウコリをマスターしていただきたいですね。

続いて、ヤンサンドをたたきます。結婚式やおめでたい時によく使われます。

(音)

ちよつと踊りを習つてみたいなという方はいつでも教室の方へいらしてください。今日はどうもありがとうございました。

仲尾 ありがとうございました。実はお二人にまだもう一言だけ質問があります。

「金さん、裴さん、一人の話にすごく感動を受けました。様々な難しい環境の中で、民族文化・意識を守ろうとしている姿を見て複雑な気分になるときもあります。外国に住んでいた同胞と違い、祖国を見る目も違うだらうと思います。現在祖国に対し一番やつて欲しいことはどんなことがありますか。」

こういう質問がお二人にきいていますので、ここのこととは祖国というのを政府というふうに考えないで、祖国に対する思いというふうな意味でお二人から一言ずつお話いただけたらと思います。

金 日本政府から何かやつて欲しいということであればいっぱいあるのですね、正直なところ。祖国といふことであれば、私は日常的に勉強する際に不便を感じることは、やはり北と南、二つに分かれていることなんですね。というのは、南に行くと北に行けない、北に行くと南に行けないということです、焼き物を勉強するにも非常に不都合を感じています。焼き物でも朝鮮半島全体で一つの文化を形成していますから、今どちらか片方しか行けないのは勉強の上でも非常に不便を感じています。もうこれしかないです。統一して欲しい。

裴 私も金巴望先生と同じです。二月一八日に、在日の韓国、朝鮮双方の舞踊家達の「統一の舞」が東京でありました。

韓国の在日の舞踊家が同じ曲に合わせて踊りを踊ったのですが、手や足の運びは微妙に違うのです。でもチャンダンだけはどちらも同じチャンダンで、全然ズレもなかつたそうです。その話を聞いたときに、民族舞踊にたずさわっている者として、統一したときに同じクウコリ、ヤンサントをたたき、同じリズムでオッケチュームができるらしいなと思っています。

仲尾 ありがとうございました。今日はお二人から非常に豊かな朝鮮文化のお話をいただきました。それで私も一つぐらい披露しなくてはいけないと思うので、私の専門の領域からご紹介したいことが一つあります。

先ほど金巴望さんが言われていましたように、江戸時代に一二回、朝鮮通信使がやつてきました。そのうちの一回、一七一（正徳元）年六代将軍・家宣の時ですが、家宣の側近で新井白石という人が、彼は朝鮮通信使の出迎えを江戸城で指揮したわけですが、今までのやり方を一切変えたのです。

その一つに、それまでは通信使を江戸で迎えたときには能楽をやつていたのですが、これは足利幕府以来、日本の武家の式楽でしたからこれで迎えるのがよからうということでやつていたのですが、新井白石はそれを止めて、京都にやつて来て、京都から樂師を連れて行つて江戸城で雅楽をやつたわけです。雅楽が何曲があつたのですが、朝鮮通信使はびっくりしたのです。というのは、その雅楽の中には我が国で廃れた古代の拍樂、高麗樂があるというのです。異国の江戸城で聞くなんて全然信じられないと大変びっくりし、感激したのです。

私達の気が付かないところで、また歴史の中で朝鮮文化が息づいているということをございました。ついでに申し上げますと、今年は建都一二〇〇年で、皆さんご存じのように京都に新たな王権を開いた桓武天皇のお母さんは、百濟の武寧王の血筋を引いておられます。そういう渡来系の士族の出身です。

そういうこともあつたでしようがそれから以来、平安時代から現代に至るまで、宮中、つまり皇居の中には園神・韓神が祭られています。それは代々天皇家がお祭りしています。しかも内々のお祭りとしてやっています。これは古代史を勉強しておられる方によると、韓神は元は京都盆地を開拓した秦氏が祭つていた神です。

……土壤もありますし、このようにいろんな交流が歴史の中で続いています。そういうことも合わせて、これから日本民族、朝鮮民族のあり様、一緒に生きていくための違いを認めながら、それぞれの立場で文化を尊重し合つて共存していく、そういう認識が大事なことだと思います。

近年、京都市も教育委員会が「外国人教育基本方針」を出して、「民族の文化に触れる集い」を京都会館でやっています。これには在日の子供たちがたくさん、今のチャンゴを始めとした文化を披露していますし、昨年は東九条マダン、東九条の在日の方々を中心として、朝鮮文化の集いをされました。そういう意味では、これから京都が日本において在日の方々の文化活動のより実り豊かな場であることを期待して、今日のセッションを終わりたいと思います。

どうもお二人ありがとうございました。

## 第四回 「国際社会・日本の中での在日韓国・朝鮮人」

パネラー

リングホーファ・マンフレッド氏

(オーストリア・大阪産業大学助教授)

藤井 幸之助氏 (日本・『季刊Sa』編集人・阪南大学教員)  
吉澤 琴袖氏 (在日三世・学生)

コーディネーター 仲尾 宏氏 (京都芸術短期大学教授)



## 第四回 「国際社会・日本の中での在日韓国・朝鮮人」

### 第一部

司会 只今より連続フォーラム「チョゴリときもの」を始めさせていただきます。

この連続フォーラムは、去年一二月からスタートいたしましたけれど、本日をもちましてその最終回を迎えました。本日は「第四回 国際社会・日本の中での在日韓国・朝鮮人」についてお話をいただきます。

本日のコーディネーターとパネラーの方をご紹介させて頂きます。コーディネーターの方で仲尾宏様です。仲尾様は現在、京都芸術短期大学の教授でいらっしゃいまして、昨年の連続フォーラムからずっとコーディネーターをお願いしています。

パネラーですけれど、曹琴袖さんカククス。曹さんは今、在日韓国人の第三世でまだ学生でいらっしゃいます。次はリングホーファ・マンフレッドさんです。リングホーファさんはオーストリアの方で、大阪産業大学の助教授でいらっしゃいます。

そして藤井幸之助さんです。藤井様は日本の方で、現在阪南大学の教員でいらっしゃいます。それでは仲尾先生、よろしくお願ひします。

仲尾 皆さん、今日は。大変良いお天気で、外にいたほうがいいのですが、今日のお話も今日の天気に負けず、素晴らしいお話が聞けるかと思います。

今日のタイトルは「国際社会・日本の中での在日韓国・朝鮮人」というテーマです。こういうテーマ

にした理由は、この日本社会 자체がもう国際社会になつてゐるということが如実に現れてゐるからです。在日韓国・朝鮮人の方で外国人登録されている方は七〇万人と言われておりますが、それ以外の定住外国人を合わせると、約一五〇万人、登録されていない方でも住み付いておられる方、あるいは中期的にいらっしゃる方を入れると、実数としては二〇〇万近く外国籍の人、あるいは日本民族でない方が住んでおられる社会です。

そんな日本社会の中で、在日韓国・朝鮮人の若者がどういう夢と期待をこの日本社会にかけておられるかをお聞きするのが、今日のテーマです。

それと同時に、こういつた日本社会の外国籍、あるいは他民族の方の受容度を、いろんな意味で国際比較してみるのも面白いのではないかということで、今日はお二人の方にゲストとして来ていただいております。

今ご紹介されましたように、リングホーファ・マンフレッドさんはオーストリアのウイーン大学のご出身で、比較社会論の専攻であります。特に日本に来られてからは、在日韓国・朝鮮人の社会的な地位について、研究を進められておられます。それから、日本人のゲストであります藤井幸之助さんは阪南大学の教員であると同時に、今皆さんにお配りした「季刊 Sa-i (サイ)」、下のタイトルにあるように「日本人と在日コリアンのための人権情報誌」を主宰されております。藤井さんはこういうことをやりますながら、ご専門は中国の東北地方に延辺朝鮮族自治州の問題です。そこには約八〇万の朝鮮族の人が暮らしています。そういたしますと中国社会の中では朝鮮人、朝鮮民族がどういう地位にあるかを、日本と比較しながらお聞かできるのではないかということで来ていただきました。

そして今日のメイン・スピーカーである、曹琴袖さんは在日韓国人三世の方で日本の民族学校、並びに日本の学校をご卒業後、アメリカへ一年間留学なされていました。そして日本に帰ってきて、早稲田

大学の法学部に進学されて、今四年生であります。ですから、曹琴袖さんご自身も日本社会での日本の学校体験、民族学校の体験、それからアメリカでの留学体験をお持ちです。そういうことですから、今日のお話はそれぞれに非常に特徴のあるご意見が聞けるかと思います。  
それでは最初に曹琴袖さんからお願ひします。

### 緊張の連続だった小学校時代

曹 アンニヨンハシムニカ、今日は。

私が今皆さんにお話できることは、戦争を直接知らない、全く知らない三世としての視点で、今私が学生として生活している中で、在日であることなどをどんなふうに考えているかを、素直に率直にお話するのが、一番皆さん的心に訴えることができるのではないかと思います。私の体験談の中からしかお話しできないのですが。

私は一九七〇年に日本で生まれました。三世だから当然ですが。生まれたときから両親が本名を与えてくれました。在日の方は普通、日本名と韓国名（本名）を使い分けて持つていらっしゃる方が多いのですが、私には一つの名前しかなくて、小さい頃は「名前が変だ」と言つていじめられたり、「朝鮮だ」と言われて、石を投げられた記憶もあります。「うちの父ちゃんが朝鮮人は馬鹿だと言つてた」とか喧嘩になつたら必ずそんなことを言われました。小さいときは、なぜそんなに韓国人であつたり朝鮮人であつたりすることが悪いのか解らないまま、それを恥じて暮らしていました。

歴史の時間でも、朝鮮や韓国の歴史の話が出てくると、顔を上げられなかつたり、卒業証書を渡されるときに「曹琴袖」と壇上で呼ばれることが嫌で嫌で、四年生のときから六年生の卒業式の来るのが恐かつたり。そういう心境で日本の小学校時代を過ごしました。

## 田覓めた民族意識

中学校にはいると、在日の同じような環境で暮らしてきた子弟が通っている民族学校に入ることになりました。そこで韓国語を習い、韓国の歴史を習い、どうして韓国人が日本に来るようになつたのか、日本の中でのどのように頑張ったのかを知るようになるにつれ、私が恥ずかしいと思うことが間違つていたんだと思えるようになったのです。

それで、どうしたらもっと隣で同じように暮らして遊んできたケイ子ちゃんと同じような生活ができるのだろう、どうしたらもっと私も日本人の人と同じように、ただ普通に同じような権利が持てる生活ができるだろう、そのためには私には何ができるだろう、そんなことを中学からずっと考えていました。自分は同じような立場にある在日韓国人、在日朝鮮人のために何かをする人になろうと思つていたのです。

## 差別・偏見のない自由な社会を求めて

中学を卒業して、洛北高校という日本の学校に入ったのです。日本の高校に入る前にはやはり緊張感がありました。同じような環境の在日の子ばかりの中、ぬるま湯のような中で暮らしていたのに、日本の環境に入り直したら、また「朝鮮人」と言われるのではないか、いじめられるのではないかとう不安がありました。でもそんなことがあっても、もう絶対に私の中で朝鮮に負い目を感じる、朝鮮を恥ずかしいことだと思うことは決してないという自信がありました。そして日本の高校に入りました。日本の中では外国人は不利であることには変わりないので、私は日本を飛び出して国際社会で通用する人間になりたいとずつ思つていました。そのためには英語が必要だし、自由と平等の国であるアメリカにいきたいと思っていました。アメリカには黒人や白人がいて、民族差別があつて、でもそれを

長い歴史の中で解決しようとしてきた動きがあつて、今は差別のない価値観をみんなが持つて暮らしているんだと思い、理想の社会だと夢見ていました。

### 国籍にこだわらない韓国人

アメリカに実際に行つて感じたことが三つあります。一つは、むこうで在米韓国人に出会ったのです。在米韓国人は、日本人や韓国人、中国人に間違われるのだそうです。むこうの人は、アジア人は区別がつかなくてどちらでも一緒だと思つているようなところがありますから。何人かと聞かれた時に、面倒くさいときは「日本人」と答えると在米韓国人の若者、同じような年の人いうのです。なぜ日本人だと答えるのと言うと、「日本人の車がかっこいいから」と言うのです。私なら日本の中で生きていて、「日本人か韓国人か何人なの」と聞かれた時に、日本人だと答えることは屈辱なんです。私は韓国籍、韓国人であることを恥じていないので、日本人のほうがかっこいい、日本人のほうが韓国人の上にあるものだから日本人と答えるなんて、私にすると軽蔑すべき答えなのに在米韓国人はそれが全くないのです。日本と韓国の長い歴史の中で不幸な時代があつたからこそ、日本社会の中にある在日韓国人と日本人の関係はすごく繊細な関係になつてゐるけれど、在米韓国人の中ではそういう思いがなくて、そういうことをきちんとと言つてのけるのです。国籍にこだわりを持つてない韓国人がいるということが大きな驚きでした。

### アメリカの差別の現状

二つ目に感じたことは、自由と平等の国・アメリカにも差別はあるんだということでした。それがすぐくショックでした。私にとって、この日本から、この差別のある日本から逃れたら、差別のない自由

な環境にいけるんだとずっと思っていました。差別する心は世界共通なんですね。どこに行つてもあるのですよ。それは対アジア人、対韓国人の私に向けられたものでなくとも、差別される対象が黒人であつたり、いろんなマイノリティ、弱者であつたりするわけです。アメリカに行つて、人間は差別しない心を持つのは不可能じゃないかと思えるようになりました。

#### 自分自身にある差別する心について

もう一つ、私が一番ショックだったのは、絶対に差別なんかに負けるもんかと思つて育つてきた私自身の心の中にも、人を差別する心があるんだということに気付いたときでした。今までは、加害者が日本で、被害者が韓国人であるという図式が出来上がっていったのに、私の中で、差別する心は誰にでもあつて、私もそういう状況になつたらするかもしれない人間だということが解つたのです。私はこれから日本を差別のない暮らしやすい社会にしたいと思つてきましたけれど、自分自身が差別する心を持っているのに、どういう方向に、どう進んでいったらいいのかという道が全く見えなくなつてしまつたのです。その迷いは今でも続いています。

#### 共生社会の実現のために

私の友達は、ほとんどが日本人です。日本人が、私が在日だと意識して付き合つてゐるわけではないし、差別は全然ないよう見えてゐます。「琴袖、就職活動、一緒にいこう」とか。

同じ服を着て同じように歩いて、同じように日本生まれで日本育ちなのに、アパートを探すと「在日だから駄目です」と断られるし、私の友達でさえ「琴袖は好きだけど、韓国人はちょっと苦手だな」とか「琴袖には悪いけど、やっぱり自分の息子・娘が韓国人と結婚して、その孫が韓国籍になるのは嫌

だ」と言つてしまふのです。同じように生まれて育つてきたので、同じように生きたいだけなんだ、ただ同じように生活したいんだという気持ちが、どうしたら日本人の人に分かつてもらえるだろう。そのことが今の私の迷い、気持ちです。

ここにいらっしゃるような方は、そういうことに少しは関心があつて良心的な方ばかりだけど、私達が本当に暮らしやすい社会にするためには、全く無関心で「韓国人なんかいたのか」という人にも、私も同じように生きたいだけなんだという気持ちを伝えなくてはいけない、伝えたいと思うのです。

それがどうしたらできるのかを考えたときに、一つは教育ですよね。なぜ教科書には意図的に、日本と韓国との間に不幸な戦争の歴史のあつたことが削除されているのか。昔不幸な歴史があつたことを「悪いな、悪いことをしたな」と思つて欲しいのではないのです。ただ、未来に向けてこれから前進する上で、それを二度と繰り返さないために、そんな歴史があつたことを知つておくことは不可欠だと思います。

もう一つ差別がなくなるために必要なことは、日本の無関心な人に、「私はこんなに差別を受けている」「一六歳になつたら指紋を押さなくてはならない、悪いこともしていいのに」と口で言うよりも、隣をふと見たら、自分と同じような在日韓国人が堂々と普通に生きているつてことが一番大切だと思います。

でも、みんな在日韓国人であることを隠して、周りに自然に在日が存在していることをアピールしないで暮らしている。今、在日であることをやめていく人が多いのです。それは日本の社会が韓国籍・朝鮮籍をとつていれば生きにくい社会だから仕方がないけれど、社会を変えていくには、変えて欲しいといふ側、在日韓国人からの働きかけと、受け入れる側、日本人からの働きかけ、二つが合わざつていかないとなかなかそういうふうにならないと思います。それなのに在日自身がそれを放棄している。

私自身は日本と韓国の中を語るとき、「こんなつらい生活をしている、こんな不幸な生活をしている。それをしてるのは日本人の方々、あなた達なんだから何とかして欲しい」という、救いを求めるような訴えかけを私はしたくないのです。それよりも「同じ日本の未来を作っていく人間として、この国を精神的に豊かな国にしていこうよ」と呼びかけたい。

#### 日本のこれから課題

この頃、日本は経済的に豊かだから、いろんなところから労働者の方が来られて、ますます外国人が多い社会になっています。多くなつてくると駅の落書きにも「土人帰れ」と平気で書かれるようになります。まだ日本は外国人にとって暮らしやすい社会ではないようです。日本自体が異なる価値觀を受け入れられる社会でないと、国際社会の中で尊敬される存在にはならないと思います。だから、被害者の視点ではなく、同じように日本に暮らして、同じように日本を好きで、同じように日本の将来を憂える共同体として日本を良くしていくために、在日外国人、在日韓国人であり続けたいと思っています。

仲尾 ありがとうございました。今、曹翠袖さんが今までの人生の中では日本として感じてこられたことを、非常に率直に象徴的な言葉でお話いただいたと思います。そして日本社会がより良くなるために、よい共同体になるためにという課題を提示されたと思いますが、ここで一つ、日本と同じ先進国であり、昨今のテレビ・新聞の報道でも民族問題・外国人問題について大きな課題があるとされるドイツのことを中心に、リングホーファさんからお話をいただこうと思います。お手元にリングホーファさんの写真が出ているサンケイ新聞の記事と、リングホーファさんの書かれたことの具体的な裏づけのある英字新

聞、ジャパン・タイムズの記事が出ています。お読みいただくのはお帰りになつてからとということにして、とりあえずはリングホーファさんからドイツ社会の中での国際化の位置付けをお話いただきたいと思います。

### 深刻化するドイツの排他的行動

リングホーファ リングホーファです。どうぞよろしくお願ひします。今日はドイツのことについてもお話ししますが、日本の在日社会についてもお話ししますので一つよろしくお願ひします。

日本のマスメディアでドイツの排他的な行動がよく紹介されていますが、それが全てネオナチや右翼の犯行であると書かれています。しかし決してそうじやない。このコピーは九三三年七月一三日のものです。その中で、上のほうから読んでいただくと解つていただけるのは、決してこれは右翼やネオナチではない、決して外国人のみがこういう行動の対象者ではないということです。簡単に言えば、自尊心のない若者がこのような行動に走るわけです。被害者の中には外国人だけではなく、ドイツ人の中でも弱者、身体障害者や最近は老人でも被害を受けています。この正月に友人から手紙をいただいた。旧東ドイツの定年退職をした夫婦が、ゴルフルトという大きな町ですが、そこでは去年の秋から、昼間でも老人が襲われることがあります。老人専門の空手コースもできています。段々深刻になつてきています。

### 差別の背景

ドイツの場合は確かに日本と違つた背景があることはあるのです。しかし、根本的に言えることは経済的不況の問題が一番大きいわけです。もう一つは旧東西ドイツのお互いの無理解、あるいは東側が西側に差別された、これは話を始めたら二、三時間でも話ができるほどの面白い情報を持つっていますが、

ともかくここで強調したかったのは、決して右翼やネオナチの思想をもつてゐる若者という簡単な図式で片付けられないということです。ジャパン・タイムズという英字新聞の一〇月一九日に、ドイツ政府が委託した調査結果が紹介されています。九三年夏の調査で分かつたことは、九二年一年間の間に排他的な行動を起こした若者の背景・関係を調べたところ、七〇%が全くネオナチや右翼と関係ない若者であつたことははつきり解つたのです。ということは、根がもつともつと深いということも分かつていただけたと思います。

### オーストリアの外国人問題

確かにドイツは日本よりも外国人の率は高いです、八%くらいは外国人、日本はまだ一%少々ですか。オーストリアのことを少し話しますと、オーストリアはちょうどその間くらいに置かれています。実はオーストリアの場合は、オーストリア人としても恥ずかしい話ですが、ユーロなど東ヨーロッパから二年ほど前に難民がたくさん入ってきました。その中には経済難民も含まれていたわけですが、これを阻止するため法律が三つほどできました。難民の数は減ったわけですが、去年の春になつて、法務大臣が突然新しい条件の入った通達を出しました。その内容が極めて厳しい内容だったのです。外国人一人当たりの住居面積が、一〇平方米でないと国から出ていかなくてはいけない。もともとこれは新しく入ってくる人を対象にして考えた法律だったのですが実はその法律に引っ掛かつたのは、逆に定住外国人、オーストリアには一〇、二〇、三〇年前から住んでいて、国籍はオーストリアでない人、すなわち三〇万人近くの人が引っ掛けたわけです。

三人家族で二八平方米の小さなアパートしか住んでいない、二人とも働いていても急に出ないといけない。こういう法律がオーストリアで作られたわけです。

## ドイツの外国人労働者

最近、日本の新聞でもよく書かれている、オーストリアの自由党という、かなり右よりの党が一、三年前から票を伸ばしています。党首はネオナチに極めて近い方で、南部の州の県知事を務めて、半年後には「ヒトラー時代のほうが政策がよかつた」という発言のため辞職させられたのですが、その党は同じ州で三五%くらい取ったわけです。

そういう政党などが排他的な関係を作るのはドイツにもあつたわけです。逆に、ドイツでは一九六〇年代の後半、七〇年代に入つてから、七三年以降、石油ショック以降、新しい労働力をヨーロッパから入れていないので、そういう意味で政治家の一部が「こういう人達は本当の社会の構成員ではない」、あるいは「ドイツは移民国ではない」という考えを主張してきたのです。それを信じた国民がかなり多かつた。今でも信じる人はいるようです。だけどドイツの場合、最近入ってきた難民を除けば、外国人労働者は少なくとも二年前から入つています。七三年以前に一世たちが入つてきているわけです。もう三世、四世がいるのです。

## 表面化する日本の排他性

そういう意味で日本はどうでしょうか。在日韓国人を始め、外国人に対するいろいろな政治家の発言があります。去年の選挙で、関西のある県でトップ当選した方のパンフに、「将来大量に流入されると考えられる外国人・エイズ・銃・麻薬」という恐ろしい文章を書いた人がいます。この文章でトップ当選しました。当然私だけではなく、他の方も事務所に抗議文・抗議電話を入れました。こうしたことから考えると、どうもドイツの二〇年前くらいの状況に、日本もほつほつ入つてきているのではないかという気がします。

それを裏づけるようなことを、私自身が去年の七月一〇日に大阪の梅田で膚で感じました。どういうことがあつたかと申しますと、ある有名な在日韓国人の桃山学院大学の徐龍達先生の還暦記念パーティーに出席した後に、ウェーン大学の先輩で東京に住んでいる方と一緒に飲みにいこうと思つて、梅田あたりで店をさがした時、周りに人がいなかつたのです。突然、腕が痛い！と思つて、後ろを見ると二人の男性が立っています。まあ、蚊やハチと思つていましたが、翌朝まだ痛くて。よく見ると煙草でした。きれいに三六〇度、煙草はこの腕に付けられていました。今まででは表面化しなかつた排他的な考えが、ほつほつ日本でも表面化し、直接我々白人に対しても現れているわけです。しかしそれを刺激するのは、やはり世論、マスメディアです。

### マスメディアは正しいか

その中で特に気になるのは、外国人労働者問題に対する報道です。確かにマスメディアの中には問題を把握できている記事もあるでしょうが、そうでない記事もあります。特に外国人の犯罪の紹介の場合は、英字新聞と日本新聞の同じ調査、同じ警視庁の発表、同じ統計を使いながら、全く違つた記事になります。日本語の新聞記事のほうが感情的な形容詞ばかり入れて、外国人の犯罪を抽象して日本人より高い犯罪率をもつてしているとしています。本当は違います。日本人のほうが高いですよ。こういう雰囲気の中で、「不法」就労者はいますが、日本人の不法営業者はいないことになつていています。外国人を雇つている企業は法を破つていています。確かに罰金制度はありますがあつていい。

こういう雰囲気が出てきているので、これから社会全体、または教育の中で新たな考え方が必要だと思います。先の話では、在日のこと、在日の苦しみ、在日の置かれている状況を本当に分かってくれている日本人はなかなかいない。なぜでしょうか。単なる知識の問題だけではないと思います。私なりのい

くつかの問題点を紹介したいと思います。

### あいまいな日本人自身の民族観

まず一番大事なのは民族の実感です。民族そのものは何であるか。概念の内容は何であるか。それを多くの日本人は分かつていいないと思います。ということは、日本人で日本で生活すると「自分は日本人です」という必要がないですね。外国にいって初めて解るわけです。言わなくてはいけないから。あるいは私のような変な外人、私は「外人、外人」と言われたとき、精神的・時間的余裕があれば、「変な日本人」と言い返すのです。これは効果がありますよ。私の気持ちをある程度理解できるし、同時に、初めてその人は日本人と言われたわけです。恐らく日本人の約九割くらいは本当の意味で日本人になりきれていないですね。自分が日本人であること、日本民族の一員であることを膚で感じたことがないと思います。これは大事なことです。自分自身の民族観がないのですから、他の民族を理解できるわけはない。という意味で在日の問題も理解できるはずがないというのが私の結論です。

### アイデンティティの多様化

もう一つ、二文化・二言語・二民族的アイデンティティの問題ですが、先ほども言われたように、日本の国際社会、国際社会の条件の基本的条件は多文化・多民族社会の存在・現実を認識することです。日本は昔からそんな社会であったわけです。

近代国家形成の時期に民族は一つ、文化は一つ、言語は一つというふうにまとまつたわけですが決してそれを裏付けることができる歴史的背景はありません。いろいろな民族が入ってきて、いろいろな民族が今でも暮らしています。在日の方、私もそうですが、プラス・マイナスは個人差があります。文化

を二つ持つてゐる、言語を二つ持つてゐる。あるいは、民族的アイデンティティとしては、私はオーストリアの混血民族のアイデンティティしか持つていませんが、日本人と結婚していきますから、子供は二つのアイデンティティを持つていて思ひます。私の場合寝言は二年前から日本語しかありません。寝言が日本語しかないということは、日本語的アイデンティティを十分に持つてゐるということです。同時にドイツ語的アイデンティティを持つてゐるのです。人間としてはアイデンティティが一つあって、その中に二つの文化・言語的アイデンティティを持つていてもいいじゃないか。これを素直に認めること。日本社会はどうしても一つしか認めない。

### 外国人と共に暮らす意味

もう一つ大事なことは、在日の方自身が多文化・多民族社会のほうが、一つの文化、一つの言語にまとめるよりも最終的には豊かな社会につながるし、よりベターであるという意味で自分の民族を隠さずにそれを通していく、人と連帯して。そういう意味では在日の方のほうももつと目覚めないといけない面もあるわけです。在日の七割以上が国際結婚ですが、自分は日本に住んでいて、確かに日本の要素が強いといつても、自分の中の在日韓国・朝鮮人文化を殺す必要はありません。逆に子供に伝えることによって、その子供、あるいは周りの人もいろんな形でより国際人に成り得ると思います。在日の問題をもう少し広い枠に入れないといけないと思います。人権を実感できるような形の人権教育です。

### 人権教育を体験する

今までの人権教育はほとんど抽象的な形でした。そうすると「差別をしてはいけない」というふうに抽象的にみんな解つてゐるのです。その人は部落出身、この人は在日出身だから私は注意してこうしな

くてはいけないと考へてゐるわけです。自分なりに差別しないように努力して対応するわけです。しかしこれで相手の本当のことを解るはずがない。

例えば、差別や他文化や他民族などを実感できる、自分で差別されるような立場になり、ゲーム、ローリープレイ等の原因や例をすると、一瞬で理解できます。私は去年一年間、大学のゼミでやっていました。大成功でした。学生も私も楽しかった。お互いにものすごく勉強になつた。学校教育の中で効果がなかつた人権教育であつたが一回だけで差別が何であるか、膚で感じて十分分かりました。これしかないと思ひます。

こういうゲームがあります。学生にもこれは民族と多文化問題を抱えているゲームだとは全く言いません。ゲームの途中でもまだ解らない学生がいる。ゲームが終わつてもまだ解らない学生もいる。説明を受けて初めて「あつ、差別……感じた」と目覚める。学生によつて違う反応があるのでですが。こういう人権教育の中で、平和や環境問題などいろいろ入れて、その中でも、多民族社会、在日韓国・朝鮮人問題もいれるわけです。もちろん当事者もちゃんと入つてもらうわけです。

#### マイノリティを尊重できる社会に

日本の場合、数年前からアジアに目を向けていますが、まだ十分ではありません。アジアとの連帯とよく言われていますが、内なる国際化もまだ十分に進んでいない。去年、私はネバールにいるブータン難民のために援助組織を作りました。こういう中のマスメディアの対応、問題意識——一二万人がブータンから追い出されています。人口の二割くらいです。

最後になりますが、私の好きな言葉ですが、「違ひの中の平等・平等の中の違ひを認めること」です。「違ひの中の平等」、違つた文化、違つた言語を話していますが、同じ人間だから平等の権利を持つと

いうことです。平等な人間、平等な社会で暮らすとその中で違ひがあつても当然のことでおかしくない。このような社会を作らないといけない。以上です。

仲尾 ありがとうございました。ドイツ、オーストリアの例を引きながら、大変論理的にうまくまとめていただきました。今度は中国のことになります。藤井さんには大変たくさんのお資料をいただいております。中華人民共和国・吉林省延辺朝鮮族自治州という地図のある資料です。大変膨大な資料なので、この説明だけで二〇分取つても足りませんから、ポイントはここだというところだけご説明いただけることになると思います。

藤井さんのこの地図は、人口が右下に出ていますが、州総人口二〇七、九九〇二人、うち朝鮮族が八二万人となっています。その数字のポイントが我々が日常見るポイントではなく、読みやすいようにということで万という単位でありますので、二〇〇万ではなく、二〇七万人が州総人口、朝鮮族は八二、一四七九人であるとご承知おきください。藤井さん、お願いします。

### 変な名前と左利き

藤井 皆さん、こんにちは。藤井幸之助です。大阪のいくつかの大学で朝鮮語や人権問題を教えていきます。ぼくはちょうど天安門事件のあつた一九八九年九月から二年間、延辺大学日本語学科の客員講師として、中国吉林省延辺朝鮮族自治州というところで生活をしました。地図を見ますと、豆満江（中国では図們江）をはさんで、朝鮮民主主義人民共和国の咸鏡北道の北側の地域になります。（地図1）

中国朝鮮族のお話をする前に、少し個人的なことをお話ししたいと思います。ぼくはそもそも大阪北摂の豊中で育つて、まわりに朝鮮人や中国人がいたにもかかわらず、まったく知らずにいました。小学校

のときに万博があつて、日本と外国を意識するようになり、この国は当然、日本人だけの国だと思つていました。ですから、同級生の張さんが、ある日突然長田さんと呼ばれるようになつたとか、近所に李清欽君という変わつた名前の男の子がいたとかいつても、この子たちは変な名まえの日本人くらいにしか考えていませんでした。ぼく自身、「幸之助」というあまりない名まえのために、いくらかいやな思いをしたことがありますから、あとで考えてみれば、張さんは朝鮮人で、李君は中国人でした。

もうひとつ個人的な事。ぼくは実は左利きなんです。それがどうしたと思われるか知りませんが、日常生活の中で、いつも左利きだということを意識させられながら暮らしてきました。小学校にあがる前に、母が心配して、箸と鉛筆くらい、右で使えるようにしないといけないと右を使えるように特訓を受けました。そのときはわけがわからないまま従いましたが、なにか不自由なものを感じました。あとで考えてみると、無理に右に直さなくてもよかつたなあという感じです。

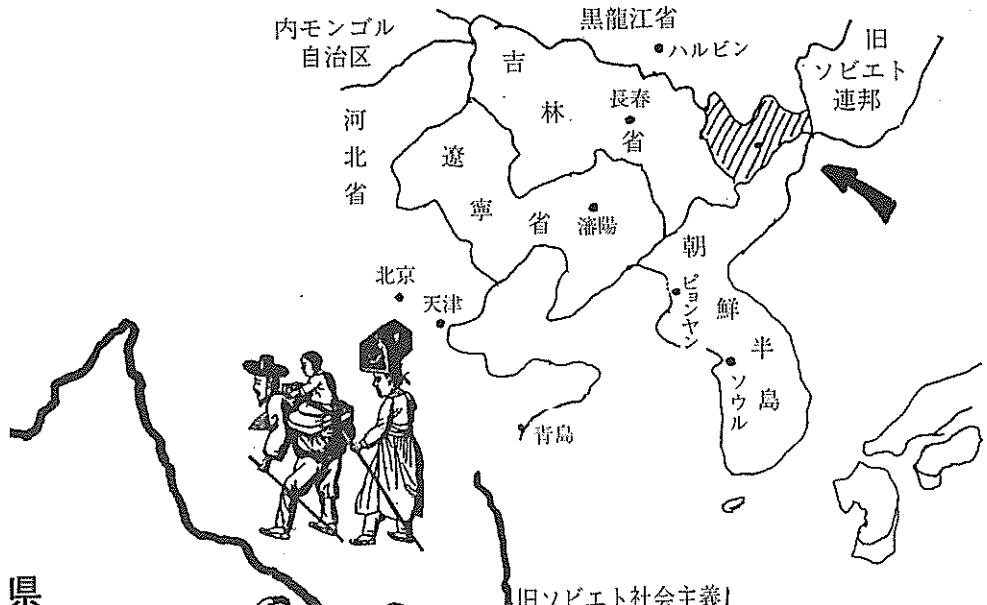
### 「わが国」ってどこの国?

ここに、おととい行われた、大阪府の公立高校の入試問題があります。「社会」を見ると、大きな問題が全部で三問あるのですが、(1)と(3)の設間に「わが国」ということばがでてきます。

(1) わが国の歴史や地理に関する次の問いに答えよ。わが国は古くからアジアの国と交流し、さまざまな文化を取り入れてきた…。

(3) わが国の政治や経済に関する次の問いに答えよ。【傍線は引用者】

みなさんもご存じのように、大阪府は日本でも最も朝鮮人が集住している地域です。八七〇万人中、一八万人くらいです。ですから、朝鮮人の子どもも日本で一番多いでしょう。この試験は日本人だけでなく、朝鮮人や中国人の生徒も受けます。朝鮮籍・韓国籍・中国籍や日本籍でも朝鮮系の生徒がこの問



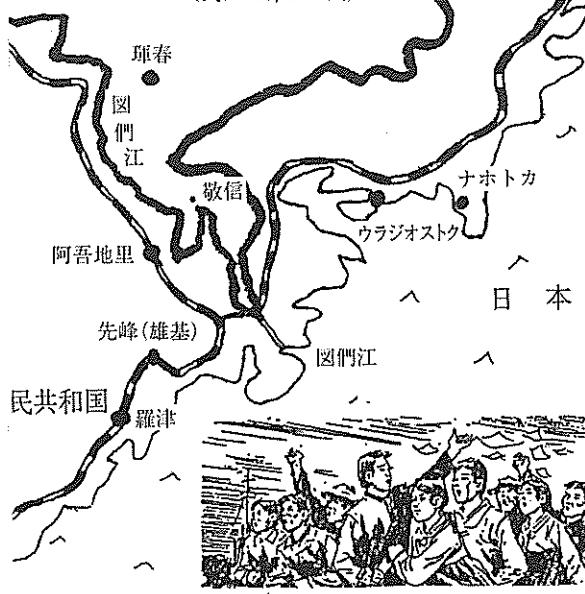
## 県

(人口 26,8642人)



## 琿 春 市

(人口 18,3755人)



州総人口 207,9902人

♀ 102,3453人 (49.21%)  
♂ 105,6449人 (50.79%)

## 民族別 (27民族)

漢族	118,7262人	(57.08%)
朝鮮族	82,1479人	(39.50%)
滿族	6,2101人	(2.99%)
回族	6945人	(0.33%)
その他	2115人	(0.10%)
モンゴル族・チワン族・シボ族・ミャオ族・イ族 トウチャ族・ベー族・タイ族・ウイグル族・トン族 ヤオ族・ダール族・ブイ族・ショオ族・チャン族 オロス族・リー族・ハン族・チベット族・カザフ族 チンボー族・ホジエン族・オロチョン族		

[全国第4次人口調査(1990.7.1)による]

1991年2月22日作成  
藤井幸之助

中華人民共和国 吉林省  
민족自治区 주민연변족자치주  
吉林省 延邊朝鮮族自治州

1952年9月3日創立



題を見たらどう思うか、大阪府教育委員会は考へても見なかつたのでしょうか。総人口の一%を越えるくらい外国人が住むようになつてゐるのに、大阪府教委だけではなく、多くの人々は、いつまでも日本の学校＝日本人の学校と思つてゐるようです。身のまわりの民族や国籍の異なる人々に気がつかないでいます。いや、知つてゐるけれど、知らないふりをしてゐるのかもしれません。これは「日本語」を「国語」と呼び続けることと同じではないでしょうか。

### 民族の平等と権利

これから、中国朝鮮族のお話に入つていきますが、このことを念頭においてお聞きください。

みなさんは中国についてどの程度ご存知かわかりませんが、中国と一言でいつてもあまり意味はありません。また、同様に中国人といつても、これが中国人だといつてしまふこともできません。中国とは実に多様な人々を指す代名詞すぎません。

一説によると、中国の人口はもうすでに一五億人を越えているといいます。その内訳を見るとよくわかりますが、人口の約九二一%を漢族（ある意味では、混血を繰り返して、特定の少数民族に決められない人々ともいえる）、残りの約八%を五五にものぼる少数民族で構成されています。民族は異なつても、中国国籍を持つ、これら五六の民族をあわせて、中華民族というわけです。中国の人口のほとんどは海沿いの大都市に集中し、辺境といわれる周辺の地域に少数民族は住んでいます。

一九四九年一〇月に、中華人民共和国ができる以來、中国では、民族問題が大きな課題でした。現行の憲法は一九八二年に改正されたものですが、第四条で「中華人民共和国の各民族は一律に平等である。……いかなる民族に対する差別・抑圧であれ禁止し、民族の團結を破壊し、民族の分裂をつくりだす行為を禁止する。」とわざわざ述べています。（表7）また、「各少数民族が集

居する地方は区域自治を実行し、自治機関を設け、自治権行使する。各民族の自治地方は中華人民共和国の不可分の一部である。各民族は自己の言語・文字を使用し発展させる自由をもち、自己の風俗・習慣を保持または改革する自由をもつ」という、民族の平等と権利が述べられています。

### 中国になぜ多くの朝鮮人が？

地図を見ていただくとわかりますが、現在の中国東北三省（吉林省・遼寧省・黒龍江省）は、むかし日本がデッヂ上げた傀儡国「満州国」にぴったり重なり、この地域に朝鮮人、今では中国国籍を持つ朝鮮族と呼ばれていますが、多く住んでいます。高句麗や渤海の時代はさておいて、李朝の長い封建時代の悪政や飢饉、日本の朝鮮植民地支配によつて、朝鮮（特に北部）で食えなくなつた人々が川を越えて、中国に渡つていきました。朝鮮南部の人々は連絡船にのつて、日本に来たわけです。ですから、今、在朝鮮人は七〇万人とも一〇〇万人（日本国籍取得者や国際結婚のカツブルから生まれて、日本籍の子どもなども含めて）ともいわれていますが、ほとんどの人の故郷は朝鮮南部です。

中国には一九二万人（一九九〇年の人口調査）もの朝鮮人が住んでいます。彼ら、彼女らの出身のほとんどは、現在の朝鮮民主主義人民共和国の、中国との国境に近い地域になります。日本の朝鮮植民地支配や侵略戦争がひどくなるにつれて、難をのがれ、あるいは、抗日独立運動のために、国境を越え、歩いて中国の地に渡つたのです。現在の出身地別分布を見ますと、吉林省には咸鏡道、遼寧省には平安道、黒龍江省には全羅道・慶尚道出身者が多くなっています。国境を軸にして朝鮮半島を折り曲げた形です。対岸地域は早い時期に移住が終わり、北部に遅れた人々が移住してきました。朝鮮南部出身の人々が黒龍江省に多いのはこのためです。

表7 中華人民共和国憲法

1982年12月4日、中華人民共和国第5期全国人民代表大会  
第5回会議採択

第4条 中華人民共和国の各民族は一律に平等である。国家は各少数民族の合法的権利と利益を保障し、各民族の平等、団結、相互援助の関係を維持し、発展させる。いかなる民族にたいする差別抑圧であれ禁止し、民族の団結を破壊し、民族の分裂をつくりだす行為を禁止する。  
国家は各少数民族の特色と必要にもとづき、各少数民族地区の経済と文化のすみやかな発展を援助する。  
各少数民族が集居する地方は区域自治を実行し、自治機関を設け、自治権を行使する。各民族の自治地方は中華人民共和国の不可分の一部である。  
各民族は自己の言語・文字を使用し発展させる自由をもち、自己の風俗習慣を保持または改革する自由をもつ。

#### 第6節 民族自治地方の自治機関

- 第112条 民族自治地方の自治機関は自治区、自治州、自治県の人民代表大会と人民政府である。
- 第113条 自治区、自治州、自治県の人民代表大会には区域自治を実施する民族の代表のほか、その行政区域内に居住するその他の民族も適當な定数の代表をもつべきである。  
自治区、自治州、自治県の人民代表大会常務委員会にあっては区域自治を実施する民族の公民が主任、または副主任を担当すべきである。
- 第114条 自治区主席、自治州州長、自治県県長は区域自治を実施する民族の公民が担当する。
- 第115条 自治区、自治州、自治県の自治機関は憲法第三章第五節の定める地方国家機関の職権を行使し、それとともに憲法、民族区域自治法、およびその他の法律の定める権限にてらし自治権を行使し、その地方の実状にもとづき國家の法律、政策の執行を貫徹する。
- 第116条 民族自治地方の人民代表大会はその地の民族の政治、経済、文化の特徴にてらし自治条例と単行条例を制定する権限をもつ。自治区の自治条例と単行条例は全国人民代表大会常務委員会に報告し承認されたのちに発効する。自治州、自治県の自治条例と単行条例は省、または自治区の人民代表大会常務委員会に報告し記録にとどめる。
- 第117条 民族自治地方の自治機関は地方財政を管理する自治権をもつ。およそ国家の財政制度にてらし民族自治地方に属するものとされた財政收入は民族自治地方の自治機関が自主的に調整使用すべきである。
- 第118条 民族自治地方の自治機関は国家計画の指導のもとに自主的に地方的な経済建設事業を調整し管理する。  
国家は民族自治地方で資源を開発し企業の建設をおこなうさい、民族自治地方の利益を配慮すべきである。
- 第119条 民族自治地方の自治機関は自主的にその地方の教育、科学、文化、医療衛生、体育を管理し、民族の文化遺産を保護、整理し、民族文化を発展、繁栄させる。
- 第120条 民族自治地方の自治機関は国家の軍事制度とその地の実際の必要にもとづき、國務院の承認を経て、社会治安を維持するその地方の公安部隊を組織できる。
- 第121条 民族自治地方の自治機関は職務の執行にあたって、その民族自治地方の自治条例の定めにてらし、その地で通用する一種または数種の言語文字を使用する。
- 第122条 国家は財政、物資、技術などの面から各少数民族がその経済建設の事業がすみやかに発展するよう援助する。  
国家は民族自治地方がその地の民族のなかから各段階の公務員、各種の専門的人材、技術労働者を大量に育成する援助をあたえる。

## 民族語を勉強する分、負担が大きい

今日は、特に朝鮮族の教育を中心に、若者たちが、どんなふうに日々暮らしていく、どんなふうに将来を考えているのかということをお話したいと思います。

中国では、少数民族に対する民族教育の権利を認めています。小・中学校の義務教育化が何年か前に実施されました。学校形態も、漢族学校・少数民族学校・混合学校（漢族と少数民族がともに在籍する）のように分けられます。資料であげたのは、民族自治区域である延辺朝鮮族自治州の朝鮮族小学校の一年から六年までのカリキュラムです。（表8）

ぼくが中国に行く前の知識では、民族的な権利も保障されているし、少数民族は何不自由なく暮らしているだらうくらいに思っていました。しかし、実際に行つてみると、なかなか理想どおりにはいっていないうことがわかりました。

結論からいうと、少数民族の子どもたちの負担が相当大きいのです。朝鮮族の子どもたちは二言語社会で暮らしている訳ですが、集住地域では、朝鮮語だけで用事が済るので、多くの子どもは漢語はありません。大人が朝鮮語で話しかけて、朝鮮語を母語として育つのです。ご覧になつてわかるのは、朝鮮語（閲読・作文・写字）の下に漢語（閲讀写字）となつていますが、一年では漢語を習いません。一年で、朝鮮語の基礎をしつかりつけた後、一年から漢語を習いはじめます。しかし、漢語については、テレビ・ラジオの普及で子どももある程度聞き取りができるようになつています。漢語以外の科目は、すべて朝鮮語に訳された教科書を使って、朝鮮語で行われます。

漢族学校と朝鮮族学校の中學・高校（初級中学・高級中学）の時間割ものせました。（表9・10）一年間の授業時間数を見ますと、漢族学校の文系が五五四四時間、理系が五七三四時間。朝鮮族学校の文系は六〇八四時間、理系は六四三六時間。その差はそれぞれ五三〇時間・七〇二時間。ということは、

表8 1985年延辺全日制六年制朝鮮族小学教学時間割

科 目 斜 角 数	周 時 年 級 数	一	二	三	四	五	六	総 時 数
思想品德		1	1	1	1	1	1	216
朝鮮語文 閱読	10	6	6	5	5	5		1,764
朝鮮語文 作文	1	1	2	2	2	2		
朝鮮語文 写字	1	1						
漢語文 閱読		4	4	4	4	4		900
漢語文 写字		1	1	1	1	1		
数学	6	6	6	6	6	6		1,290
自然常識				2	2	2		216
地理					2			72
歴史						2		72
体育	2	2	2	2	2	2		432
音楽	2	2	2	2	1	1		360
美術	2	2	2	1	1	1		324
労働				1	1	1		108
併開科目	6	7	7	9	10	10		
毎周時数	25	26	26	27	28	28		5,754
自習	3	3	3	3	3	3		
科技文 娯活動	2	2	2	2	2	2		
体育活動	2	2	2	2	2	2		
周会班会活動	1	1	1	1	1	1		
在校活動総量	33	34	34	35	36	36		

『延辺朝鮮族自治州教育誌』東北朝鮮民族教育出版社 1992 P.58

### 中学朝鮮語文教科書の内容うちわけ

	1955年 まで	1956～ 1958年	1959～ 1966年	10年 内乱時期	1978～ 1983年	現 在
民族作品	30%	50%	1.9%	0.6%	25%	49%
翻訳作品 中国・ロシア(外)	70%	50%	98.1%	99.4%	75%	51%

『回顧与展望－延辺教育出版社建社四十周年記念 1947～1987』P.64

朝鮮族の生徒は漢族の生徒に比べて、時間的にいうと、民族語の分を余計に習わなければならないということです。そして、同じ大学入試に臨まなければなりません（少数民族の受験生に対するいくらかの優遇はあるが）。外国语も勉強しなければならないことも考えると、明らかに、少数者の方に負担を強いています。

延辺朝鮮族自治州の州都延吉市には中学・高校が一五校あります。（表11）そのうち八校が朝鮮族学校で、七校が漢族学校です。ところが、在校生の民族別の内訳を見ると、朝鮮族学校には漢族の生徒はほとんどいないのに、漢族学校には結構多くの朝鮮族生徒が通っていることがわかります。

延辺朝鮮族自治州には、「延辺朝鮮族自治州自治条例」というのがあって、公用語として、第一言語を朝鮮語、第二言語を漢語とし、多数者である漢族も朝鮮語を学ぶべきだとしていますが、漢族はあって朝鮮語を学ぼうとしません。漢語だけでも十分社会生活が送れますから。するとどうなるかというと、たとえば、会議のとき、一人でも漢族がいると、あとがすべて朝鮮族でも漢語を使わざるをえないのです。

一九九二年（延辺朝鮮族自治州創立四〇周年の年）に、延辺大学に在学する朝鮮族学生に「言語使用と民族意識についてのアンケート調査をしました（詳しくは、藤井幸之助「中國朝鮮族の二言語使用および民族意識に関する予備調査－延辺朝鮮族自治州の朝鮮族学生の場合」『アジア市民と韓朝鮮人』日本評論社、一九九三年、を参照のこと）。

「朝鮮語と漢語のどちらがよくできるか？」という問い合わせに、圧倒的に朝鮮語と答えています。漢語の方がよくできると答えた者が一割いますが、これは朝鮮族の多住地域に住みながらも漢族学校に通った者か、長春・ハルビン・瀋陽（それぞれ東北三省の省都）など、大都市の中で、朝鮮族の散住地域で漢族学校に通つた者と思われます。

表9 1981年延辺全日制六年制重点中学時間割

科目	周時數	初 中			高 中				總 時 數	
		一年	二年	三年	一年	(一)	(二)	(一)	(二)	(一)
政治		2	2	2	2	2	2	2	2	384
語文		6	6	6	5	7	4	8	4	1,208
數學		5	6	6	5	3	6	3	6	906
外語		5	5	5	5	5	5	5	4	960
物理			2	3	4		4		5	292
化學				3	3	3	4		4	288
歷史		3	2		3			3		350
地理		3	2			2	2	3		318
生物		2	2			2			2	200
生理衛生				2						64
體育		2	2	2	2	2	2	2	2	384
音樂		1	1	1						100
美術		1	1	1						100
上課時數		30	31	31	29	26	29	26	29	5,554
勞動技術		二 周			四 周					576

注：(一)為側重文科的專修、(二)為側重理科的專修。

『延辺朝鮮族自治州教育志』東北朝鮮民族教育出版社 1992 P.122

表10 1981年9月延辺全日制六年制朝鮮族中学時間割

科目	周時數	初 中			高 中				總 時 數	
		一年	二年	三年	一年	(一)	(二)	(一)	(二)	(一)
政治		2	2	2	2	2	2	2	2	396
朝鮮語文		4	4	4	3	5	3	5	3	824
漢語		5	5	5	5	5	4	5	4	990
數學		5	6	6	5	3	6	3	6	930
外語		4	4	4	5	4	4	5	4	856
物理			2	3	4		4		5	298
化學				3	3	3	4		4	294
歷史		3	2		3			3		362
地理		3	2			2	2	3		330
生物		2	2				2		2	136
生理衛生			2							68
體育		2	2	2	2	2	2	2	2	396
音樂		1	1	1						102
美術		1	1	1						102
必須課用時數		32	35	31	32	26	33	28	32	6,084
勞動技術		二 周			四 周					576

注：(一)為側重文科的專修、(二)為側重理科的專修。

『延辺朝鮮族自治州教育志』東北朝鮮民族教育出版社 1992 P.123

回答者の朝鮮語のよみ・かき・きき・はなしの運用能力を問うてみたところ、すべてが「不自由なくできる」とした者は五・六割しかいませんでした。漢語については「不自由なくできる」とした者は二割でした。この結果からわかるのは、朝鮮語・漢語の両方を「不自由なくできる」者と「不自由なくできる」者との数の低さです。もともと朝鮮族学生たちの話す朝鮮語は祖父母・父母から習い覚えた咸鏡道や平安道の方言の影響が多く、共和国や韓国の標準語（共通語と言いたいけれど）の発音や抑揚・語彙とは少しちがいます。しかも、「標準語」神話のある学生たちは朝鮮語に自信が持てない。朝鮮語において胸をはって話ができるない。朝鮮語にしても、あとから習い覚えた漢語にして前で胸をはって話ができるない。朝鮮語には驚きました。

### 中韓国交樹立と朝鮮族

一九九一年に、中華人民共和国と大韓民国とが国交を結びました。朝鮮族の人々にはとても大きなエポックメイキングなことだったようです。八〇年代の後半ぐらいから、延辺にも韓国から同胞の男性観光客がたくさん来て、お金を落していく訳です。朝鮮人の聖なる山々白頭山に登り、図們から国境をはさんで朝鮮

表11 延辺州中学校録（延吉市）

学 校 名	在 校 学 生 数				
	計	男	女	漢	朝
☆延辺第一中学	1013	548	429		1013
延辺第二中学	911	574	337	731	180
延吉市第一高中	874	425	449	874	
☆延吉市第二高中	1192	651	540		1192
☆延 大 附 中	1382	646	736		1382
延吉市第四中学	906	486	405	831	75
☆延吉市第五中学	1034	490	544		1034
延吉市第六中学	675	323	347	593	82
延吉市第七中学	773	392	361	683	70
延吉市第九中学	1262	646	616	1185	77
☆延吉市第十中学	1146	490	674	2	1144
☆延吉市第十三中学	1228	602	624	7	1221
☆長 白 中 学	354	159	195		354
☆依 蘭 中 学	164	84	80		164
烟 集 中 学	213	100	113	138	75

\*印は朝鮮族学校

民主主義人民共和国を眺める。海外からの観光客の受け入れに慣れていない延辺では、売春を要求するものに対し、当初戸惑いがあつたものの、金になるとわかれ、非合法でも売春を斡旋する者も現れました。

親戚訪問と称して、韓国に出稼ぎに行く者もこのころから増えはじめました。「漢方薬を持つていたら、とても高く売れた」だの「ちょっと働いただけで、中国での何ヵ月分かの金が儲かつた」というような成功談があちこちで聞かれるようになりました。ラジオを持っている学生はKBS（韓国放送公社）の歌謡番組や離散家族探し番組などを一生懸命聞いて、「韓国の歌はいいですねえ」なんていついます。ちょっとした韓国ブームが延辺にもやつて來たようです。親しくしていた政治学の若い先生も「ばくも給料の安い大学の教師なんかやめて韓国へ行つて一儲けしたい」なんて、言い出すしまつです。「何するの？」と尋ねると、「肉体労働も辞さない」って言うんです。

名目上は親戚訪問で、韓国に出稼ぎに行つた人々は、初期は薬も卖れたかも知れません。しかし、我も我もと競つて行くようになると、ニセモノの薬をつかまされて持つて行つたり、韓国薬事法に触れるようなものがあつて、水際で没収されてしまつたりといふことが増えてきました。韓国でのことばや習慣の違いで、随分馬鹿にされて、ほうほうの体で帰つてくる人も情けない話はあまりしたがらないものです。いい話ばかり聞いて、韓国はとてもいい国のように思つています。

中国では大韓民国のことを「南朝鮮」といつてきましたが、一九九〇年に北京で開かれたアジア競技大会から「韓国」というようになりました。アンケート調査の最後で、学生たちに「朝鮮民主主義人民共和国と大韓民国のどちらに行きたいか?」という問い合わせに、共和国と答えた者はわずか九%、韓国は半分近くの四七%、両方行きたいとした者が一四%、統一後行きたいとした者が四五%でした。韓国に行きたいという者が圧倒的に多くて、経済や国と国との関係の変化などで、若者たちの気持ちが非常に搖

それがされているなあというのを実感しました。

最後に、ことばの問題でいうと、多数者の漢族が朝鮮語を勉強しないで、少数者のほうにだけ二言語を強いて、相当な負担になりながらも、韓国との交流という点では、若者たちはとても明るい希望を持っています。朝鮮語と漢語プラス日本語も駆使して、貿易の仕事に携わる者も増えてきました。

### 「男はそと、女は内」式の伝統も守る？

このアンケートの中にも出でますが、「子どもができた場合、朝鮮学校にやりたいか、漢族学校にやりたいか？」という問いには、「小学校は朝鮮族学校にやつて、できれば一流大学に進学させたい」というこたえがつけてやりたいが、中・高は漢族学校にやつて、できれば一流大学に進学させたい」というこたえが読み取れます。男女別でみると、女の子は「それほど社会にでないので、朝鮮族学校でいい」、男の子は「漢族に負けない人になるためには、漢族と同じ教育を受けて、漢族社会での生き残りをはかりたい」という傾向が見られました。このすれば「男は外、女は内」式の性差別的な考えが根強く残っていることを表しているといえるでしょう。

### 少數者と多數者が一緒に学べる社会を

日本では、学校教育の中で朝鮮語を勉強する機会も少ないし、朝鮮の歴史や文化もほとんど伝えられていません。琴袖さんとリングホーファさんのお話とくつづけていうと、ほく自身、朝鮮語という言葉から隣国のこと勉強しはじめて、身近にいる朝鮮人のことを知るようになつて、欧米崇拜・アジア軽視の日本社会の中で、とても大切な何かを見つけた気がします。目には見えないけれど、非常に豊かなものが感じられるようになりました。ですから、日本にいる少數者の朝鮮人の子供たちの教育をどうす

るかということになると、朝鮮人の大人が民族教育としてやるだけでなく、多数者の日本人の子供も一緒にいる中で、朝鮮のこととアジアのことと欧米のことと同時に教えていく必要があるのではないでしょうか。中国朝鮮族のおかれている状況から考へることをお話しいたしました。ありがとうございます。

仲尾 ありがとうございました。それではお三方の報告が終わりました。今から休憩に入りますが、お手元に質問・意見票が配つてあります。どんなことを書いていただいても結構ですが、一つ、二つお願ひは、例えば今の延辺朝鮮族自治州のお話やヨーロッパのことについてもつと知りたいという方も多いと思いますので、それは出していただきてもいいのですが、ただ、メインは在日韓国・朝鮮人が日本の中でこれからどうやって生きていく展望を持てるだろうかということがテーマですので、それに関連した形で質問なり、ご意見をまとめていただければいいかと思います。

それから、いつもたくさん質問をいただくのですが、できるだけお尋ねになりたい点、主張される点を簡潔・明瞭にしていただくと、たいへん助かります。すこし時間が超過しておりますが、今から休憩に入つて、その後で皆様方からの質問に答える形で、お三方にお話を進めていただいて、最後に私のほうからまとめていただきたいと思います。

## 第二部

仲尾 たくさんのご質問をいただきました。一問一答という形もありますが、三人の方にそれぞれ指名された質問について、なるべくまとめてお答えいただこうと思います。予定の時間はあと一〇分しか

ないのでですが、もう少し余裕をいただきましたので、お一人に一〇分以内でまとめたお話をいただいて、そして全体のまとめ、私なりの感想をごく少々述べさせていただきたいと思います。

まず曹琴袖さんへの質問がいくつかありますので読み上げてみます。

「曹さんの話を聞いて、我々日本人の大きな責任を感じます。曹さんの結婚観について教えてください。そしてこの『チヨゴリときもの』を企画した理由について聞かせてください。」

後半のほうは私のほうがまとめてお答えしたほうがいいと思います。もう一つは、

「在日三世として育ち、一流大学である早稲田大学に在学して、率直な在日観はいかがですか。体験的には在米の経験もありのようで、それとの比較を入れながらお願ひしたい。」

これが曹さんにきた第一の質問です。これは特に曹さんにとすることではありませんが、曹さんにもお答えいただきたいことがあります。

「在日韓国・朝鮮人は日本人でもないし、韓国人でもない二つの国にまたがった新しいタイプの人間ではないかと思う。新しい民族として、人間として世界に通用する在日韓国・朝鮮人が輩出することが、日本人が一番評価することではないか。在日韓国・朝鮮人に精神的なよりどころを与えるのではないか。」

「こういうご意見もあります。そういうご意見にも触れながら、先ほどの方々の質問を中心に、曹琴袖さんからお話を聞きましょう。」

曹　日本観や結婚観というお話が出たのですが、私はアメリカに留学するまでは、自分は在日韓国人の中でも稀な、少數な、韓国人としての民族を誇りに思つてゐる学生だと思つていました。日本で育つた在日韓国人は韓国を否定的にとらえがちで、隠したがるのですが、自分だけはそうじゃないという思

いがありました。アメリカに行つて不思議だったのは、自分があれほど韓国を誇りに思つていたのに、恋しくなるのは全部日本の食事、日本の歌であつて、アメリカで出会つて嬉しいのは日本人の方で、何をもつて私は韓国人だとしてきたのだろうと、大きな迷いにぶつかつたのです。アメリカにいると、いろんな国の人人がいて、「この人は本当にドイツ人ぽいな」「この人ってフランス人ぽい」という、国民性みたいなものを感じるのです。そういうのを膚で感じるのです。私と触れ合つたときに、他の人は私たちどんな匂いを感じるんだろうと思つたら、やっぱり私は日本人っぽいんだと思うのです。私は謙遜を美德とする日本の文化の中で育ちましたし、あんまりイエス・ノーをはつきり言えるタイプではないので、本当に日本は私にあつている国なんだなとしみじみ感じました。日本を好きだとはいつても、この国がいろんな民族を抱えて「自分の国は単一民族だ。他の民族が入つてきたら治安は悪くなるし、知的レベルも下がる」というような考え方を政府が取るような国だということをちゃんと解っています。だけど、差別をなくしてしまいたいという思いが強いからこそ、日本人だから、韓国人だからとこだわりたくない。絶対にこれは言いたくないと思っています。日本人の中には韓国の方よりも、そういうことを勉強なさつている方がたくさんいらっしゃいます。人と人とが平等で、お互いに尊重しあうような生き方をしなくてはいけないのは、人種や民族を越えて存在している考え方だと思います。誰とでもいい方がいらっしゃれば結婚します。

在日韓国・朝鮮人は日本人から評価されるすぐれた人材を輩出することが大事だというご意見があつたようですが、こういう考え方方は一世、二世の方には多いんです。だから一世や二世の方はよく「在日の子弟に弁護士、医者になれ」と呪文のように唱える方がいらっしゃいます。それは自由業で差別のないところで生きられるということ、選れた人材で社会から尊敬される人物であつて欲しいという願いがこもつていたと思います。私は優れた人材を輩出しなければいけないなんて、全然思わない。日本人

も、それこそ美容師の方がいて、お医者さんがいて、八百屋さんがいて、在日だって焼肉屋さんであつても、パチンコ屋さんであつても、八百屋さんであつても一緒にいます。

在日韓国人に生まれたから、人より努力して勉強して頑張って、清廉潔白で正しいことばかりしかけてはいけないんだろう。なぜそんな枷をはめられなければならないのか、逆に思うのです。もつと自分自身である、その自分がたまたま韓国籍であつただけでいいじゃないか。自然な生き方をしている人だからこそ、日本人から、自分と同じじゃないか、同じように生きている人間じゃないか、ただ、韓国人として自然に存在することが、一番素直な、「同じように生きたい」というメッセージとなつて、日本人の心の中にも響いていくのではないかと、私は思っています。ただ在日の方が生まれた環境をバネにしてがんばられることはいいことだと思います。

仲尾 次にリングホーファさんへの質問です。三人の方からいただいていますが、まとると二点になるかと思います。一つは、

「ドイツの今後と、EC、ヨーロッパの統合は失敗するか。トルコや、ジプシーはどうなるか。」

念のために言いますと、「ジプシー」は蔑称で、今はロマという言い方になっています。

もう一つは、リングホーファさんがおっしゃったロールプレイについてお二人からの質問です。

「私達が学校教育の中で人権教育を受けた後、こういうことを言つたら傷つけるとか気を付けるようにはなるけれど、本当の理解にはなつていません」というリングホーファさんの言葉には自分自身にも思い当ります。本当に理解するにはどういう方法があるのでしようか。ロールプレイ・ゲームによるその方法も教えて欲しい。」

もう一人も、

「差別について学ぶためのロールプレイ・ゲームについて、具体的なことを教えて欲しい。」  
いい機会ですから、第一番目のECのことをお答えしていただいた後に、ロールプレイの方法をお示  
しいただいたらと思います。

リングホーファ　まずドイツの問題ですが、本当に難しい問題です。ご存知のようにドイツは去年、難民法を改正して、今まで一番難民が入りやすい国だったのですが、今度一番入りにくい国になつたわけです。結局、政治難民でさえもドイツの中には入りにくくなりました。船か飛行機でなければ入れない状況になっています。これは排他的な行動の圧力もあって、政治家が答えたということも否定できません。私は存続して暮らさなければいけないと私は思います。なぜかというと、出生率が低い国一つですから、ドイツの年金制度などが外国人の税金も支払われていることは間違いない。外国人労働者がいなければ制度がつぶれているはずです。

ドイツは第二次大戦中に起こした罪で、移民労働者とその家族を追い出すことはできない。人道上の問題もあるし、ドイツはできるはずがありません。ドイツではこうした外国人労働者問題は、日本よりある意味では新しい問題です。日本の場合は在日韓国・朝鮮人という形でもっと前に抱えている問題だつたのですが、ドイツの場合は、マイナスの情報が日本のマスメディアでよく登場しますが、いいこともたくさんあるわけです。なかなか日本のマスメディアで紹介されていません。

たとえば、一四年前からドイツの一二ヵ所の大学で外国人子弟専門の学科があります。学生の希望が将来は外国人の多い学校で教えたといふものであれば、一二ヵ所の大学で四年間、専門の学科に入れるとわけです。それほど中央政府や州政府は問題意識をもっています。それ以外にも、たくさんのお金で研究や教材、いろいろな国々の出身者のためにいろんなレベルの教科書を作つたりして、努力している

社会と言つていい。もちろん、いろんな教育の中で全ての先生を採用するわけではないし、州によつて、あるいは地方自治体によつて違ひがあるわけです。

ドイツの多くの都市では十数年前から、諮問委員会が作られています。各都市で暮らしている各民族の人数に合わせて、代表者を選挙で選んでいます。その人が役場で諮問委員会を作つて、行政側にいろんな要求ができるわけです。あまり権限はありませんが、かなりうまくいつているようです。参政権は残念ながらドイツでは認められていません。州政府は三つで可決されました。直ちに、連邦憲法裁判所では一九九〇年一〇月三一日の判決で参政権を認めなかつたわけです。国民はドイツ国籍のみと解釈しました。しかしドイツから学ぶべきことはたくさんあると思います。特に、外国人労働者問題が新たな問題として出てきた日本において、在日韓国人の問題・教育などをさらに本格的に考え直す機会にもなるし、南米やいろんな国出身の子供たちの対応に現場の先生が苦労しています。これは文部省の責任が大きいです。少なくとも手引き書や教材作りにお金を出すべきと思います。文部省などで他の国の実例を知る資料はたくさん持っていますから、それを参考にして、現場の先生がもつとやりやすく教育できるような関係を作らないといけない。ドイツでも他の国でも参考になる国々がたくさんあると思います。そのような関係は大学でも外国人理解、異文化理解の講義をもう少し増やさないといけない。特に教育大学では現段階ではあまりされていないようですね。その中では結局人権教育も今と違つた視点を導入しなければいけないと思います。

このゲームをした場合、また問題が起ることか、差別が起ることか、確かに簡単ではありません。僕も長い間、待つて、考え、去年の四月に踏み切つたので。その前はいろんなセミナーを受けて、アメリカの異文化の専門家が日本にきた時セミナーを受けて、いろんな資料を集めて自分自身も体験しました。一番良いのは、学校かどうかで実施する前に自分でまず体験する。あるいは先生同士で体験する。その

中でゲームの目的、問題点がどこにあるかがだんだん浮かんできます。注意すべきところがあつたらそこで注意して、ゲームがなるべく問題にならない運び方ができるような形で、ちょっと直してもいいです。すよ。結局、こういう教育をしようと思えば、型にはまつたものだけでしかできないことはないです。

順応性のある先生でなければ無理ですよ。だから自分でもゲームをしようと思ったら、ゲームの内容を変えたり、自分でゲームを作つたり。私も、かなり有名な方にゲームの指導を受けました。でも失敗でした。それで聞いたのです。するとその先生は「実は経験していなかつた」と言いました。うまい人でも経験しなかつたためにゲームは失敗したのです。だから一発でうまくいくことでもありません。もう一つは、自分が同じゲームをやるつもりでも、同じ条件で別の学生にやつてもらうと、必ずしもいつも同じ結果を得ることでもないし、学生の反応もいつも一緒ではありません。一つのゲームを三回やりましたが、三回とも全然違う様子が見られました。これは個人の行動だけではなく、全体の行動、雰囲気も違つてきました。私も大変驚きました。だけど大事なのは後のアフター・ケア、ゲームの後の分析が大事です。これが実はゲームの時間よりも数倍、一番理想的なのは五~六倍長い時間でないとけません。ゲームの中で例えば、「これはおかしかつた」とか「これは差別された」とか徹底的に論ずればいい。

一つそのゲームを紹介すると、私の場合は学生の人数が二五、六名でした。人数が少ないとちょっとやりにくい。二〇人前後でないとやりにくい面があります。まず、二つのグループに分けます。グループは部屋に残る、一グループは離れて、部屋の外で指導を受けます。部屋に残るグループは例えば私達は「工族」と言います。これは温厚な民族で外国人に接する場合でもなるべく早く友達になりたいし、親切丁寧であるとなっています。彼らには一人一人に一枚の紙を渡します。その紙については一切説明しない。

もう一つのグループは「ウ族」といいます。なぜかというと「ウーウーウー」という言葉しかできませんでした。言語が「ウー」だから。そしてこういう人達の礼儀正しい挨拶は靴の先のところを蹴るもので、感謝の気持ちを表す時、相手の耳を引っ張るのです。彼らのやるべき仕事は、彼らの社会にとつて紙是非常に貴重なもので宝物に近いもので、なるべく紙をたくさん手にいれるように指示します。そして部屋に入ります。そうすると「ウーウー」という言葉しか使えない、なるべく多くの紙を手にいれないといけない。その中では本当に面白い個人の差が出ます。暴力でハツと引っ張る学生もいるし、丁寧な学生もいるし、一ヵ所では「工族」が「ウ族」の挨拶を受けた後、やり返したのです。そして残った「工族」の中では、一部の人は「猿みたい」「人間じゃない、ウーウーばかり言って」「乱暴なヤツ」と、すごく差別的な発言や感想がありました。最終的にみんないろんな形で紙を集めていってそれぞれ人に聞くわけです。「あなたは相手に一枚渡していいない。どうして一枚渡せないのか」とか。時間がないので全部お話をできませんが、結局これは異文化・違った文化・違った言語を話す場合、どれ程問題があるか。相手は十分親切であつたと思っていても、「工族」にとつていい意味で受け入れなかつた。簡単なゲームですが学生はすごく勉強になつたようです。私がそれを経験したときには、ある方が、私に一枚しかくれません。私はもう一枚が欲しい。二~三分ぐらい「ウーウー」と交渉しましたが駄目でした。

しかし別の男性が二枚目を手にいれました。後の分析で分かつたことは、どういう条件で二枚目を手にいれたのかというと、「ウーウー」だけで、「もし私が一番多くの枚数が集まつたなら、ご褒美をもらいますから、ご褒美を半分あなたにあげます」というコミュニケーションまできたのです。これはすごいものです。しかし、その時「工族」のことばは日本語でしたが、やはり「工族」の言語が「工」のみであるほうがよりよいと思います。これで自分のいろんなことが発見できるのです。と、同時に全体の

差別問題などが分かつてくるのです。これは自分で経験しないと分からないです。他にもいろいろあります。「目隠し散歩」、目を隠して大学を案内するものです。

仲尾 藤井さんへの質問です。藤井さんに対する具体的な質問がひとつあります。

「延辺朝鮮族自治州の研究をされている目的と、成果について率直なところをお聞きしたい。」

もう一人は特に藤井さんという氏名はないのですが、在日三世の方からの「質問で「日本人の方々は」という書き出しだすので、日本人のお一人としての藤井さんに答えていただくのがいいかと思います。

「1. 日本人の方々は一般的に在日外国人の地方参政権と、公務就任権についてどのような考えをお持ちになつておられるのでしょうか。」

「2. また、南北朝鮮の統一問題と在日韓国・朝鮮人それぞれの認識の仕方、また権利擁護団体である、朝鮮総聯と大韓民国団の二大組織の存在についてどのように思われるでしょうか。」

いずれも大きい問題ですが、まとめて一〇分以内でお答えいただきます。

藤井 ぼく自身の問題意識はさきほど少し述べましたので、あとの二つのご質問にぼくなりにお答えしたいと思います。

在日外国人の地方参政権については、参政権がないことを知らない日本人が多いのではないでしょか。税金を払つていれば、当然参政権はあると思つています。この程度のお粗末な認識ですが、これが国政レベルの話になるとちがつてきます。外国人に国政レベルの参政権を認めると、日本の国益に反することをするんじゃないかという猜疑心。公務員就任権についても、「なりたかつたら、日本に『帰化』

すれば」という感じです。

ぼくは住民としての当然の権利として、参政権も公務員就任権もあると思います。しかし、どちらも国籍を問題にしているので、中国もそうですが（中国国籍のない住民はほとんど無権利状態におかれている）、日本国籍取得も考えなければ難しいでしょう。ただ、その際、日本人側は徹底して「『帰化』させてやるんだ」というシステム・意識をなくさなければいけません。

それと、民間企業は雇用については役所に「右へなれ」で、「役所が外国人を雇わないのに、何でうちが雇わにやならんのだ」となりますから、積極的に雇用すべきです。利用者の中にも外国人もたくさんいるわけです。

南北朝鮮の統一問題についての日本人のおおかたの意識は、「同じ民族なのに自分たちで戦争までして、勝手にいがみあつてはいるんだから、自分には関係ない」というものでしょう。日朝韓の歴史を無視した無責任な考え方です。

朝鮮総聯と韓国民団についてもほとんど知らないでしょう。朝鮮総聯にしても韓国民団にしても、日本人にもう少しアピールしていつてはどうでしょうか。

最後に、宣伝になりますが、ぼくが編集をしている、日本人と在日コリアンのための人権情報誌『季刊 Sa-i (サイ)』(七〇〇円)という雑誌があります。年に四回の発行ですが、これまで歴史・文化・教育・就職・結婚など、いろいろな角度から在日朝鮮人問題を扱ってきました。自分で言うのもなんですが、オシャレでなかなかいい雑誌ですので、みなさん 読んでください（お近くの書店で「地方小出版流通センター扱い」といって注文するか、発行元のKMJ研究センター [TEL六・七七五・四三〇一]まで直接お申し込みください）。

仲尾 リングホーファさん、追加はないですか。

リングホーファ 参政権の問題で、私も一七年間以上日本で暮らしています。本当は外国籍のままで参政権が欲しいです。私も二年ほど前に大学で一一〇〇名以上の学生に、在日についての知識や意識についてアンケートを取りました。中に参政権の問題もあって、地方レベルの参政権に賛成した学生は七八%、国レベルでの参政権は六六%でかなり高い数字になりました。この前、新聞に出ていた世論調査の数字に近いわけです。日本人と同じように生活していて、税金を払っていますから、そういう意味では持つていてもおかしくないと私は思います。参政権を在日韓国・朝鮮人が持っていないことを知った日本人が多かった。在日党ができる前は、みんな当然永住資格をもっているから、当然参政権も持っていると思い込んでいた人が九割近くでした。参政権や他のまだ解決されていない問題が多少ありますか、私の楽観的な考えですが、そろそろ今世紀中でもかなりの問題が解決されるのではないかという気がします。

仲尾 今、三人の方々から質問についての回答を中心にお考えいただきました。最後に、今日は最終回でもあります。全体を含めた私の感想を少しだけ申し上げて、まとめてみたいと思います。

一番最初に、曹さんがおっしゃった体験ですが、「子供の頃、本名をもらつたけれども、なんとなく自分は韓国人であることが非常に嫌な思いをした。非常にそのことが何か分からぬけれど恥ずかしいと思つてしまつた」と言われました。これは恐らく、今の若い在日韓国・朝鮮人の方がかなりの部分で一旦はそういう思いを持たれたのではないか、持たれていると思います。現に私の知っている大学の学生の場合もそういうことを言つていました。何か分からぬけれど自分が在日韓国・朝鮮人であること

を嫌だ・恥ずかしいと思わなければならぬ社会は、これはちょっとおかしいのではないかということをどれ程の日本人が気付いているかということなんです。日本人が日本人であることを嫌だ・恥ずかしいということは、この日本社会では有り得ないですし、外国に行つたとしても、もしそういうことを思わなければならないとしたら、その社会はおかしいと思います。ところが、多くの日本人には全く見えていない、感じられていない、あるいは知られていない。

曹さん自身はその後、民族学校に行つたり、いろんな体験の中でそんな考えは未熟であつたし、自分はいつまでも韓国人でありたいとおっしゃついていたように、その考え方をご自分の中へ掘り崩していくながら、韓国人としての生き方に一つの方向を見つけられていると思います。しかし、日本人の場合を見てこないために、結局は「韓国人だ、朝鮮人だと僕は差別していないよ、一緒にいいじゃないの」ということで留まっているのが大多数の日本人ではないでしょうか。

そういう点では、リングホーファさんのお話にもありました、今どこの国家も国民国家というものの限界が生じてきていると思います。つまり、国民国家というのは近代社会が生み出した一つの政治組織です。「一つの国民、一つの国家」、これが統治すること。しかしながら、日本の例を考えてみて、明治以降、国民国家を形成してきたわけですが、実はそのプロセスでアイヌ民族を徹底的に同化する、あるいは独自の歴史と国家と文化を持つた琉球、沖縄の人々を中央政府の支配、文化支配、政治支配のもとに組み入れてきて、経済的に搾取を強めたという例があります。もちろん、在日韓国・朝鮮人の方々の植民地時代からの日本における地位というのは、改めてもうしあげるまでもない。そういう国民国家の枠組は、一つの社会の中に多民族、異なる文化を持つ人を認めないという枠組として成立してきたわけです。

これはヨーロッパでも同じだったわけです。それが今や冷戦構造が崩壊した後で、どこでも火をふい

てきているヨーロッパのこと、旧ソビエト連邦のことはひとことではないと私は思います。

この百数十年、日本の場合一二〇年ぐらいの、国民国家が一番いい国家組織であるという美しい言葉の中に、それによって一応民主國家ができるといふ陰に、どれ程の矛盾が隠されているか、民族的な差別がはびこってきているかということを、今更のように思い知らされます。そういう意味で、これもリングホーファさんの言葉にあつたのですが、「違いの中の平等・平等の中の違い」の両方を私達は、今、認識していかなければならぬのではないか。そういうことが実現されないと、本当の意味での民主主義の満ちあふれたた社会とは言えないと私は思います。そういうことを今日のお三人の話を聞いていて、私が痛感した次第です。

しかし延辺朝鮮族自治州の場合でも言われましたように、いくら憲法で少数民族の地位を保障したとしても、実際に少数民族の人人がそこで生きていくためには、中国の場合でも非常に大きな困難がある。これは単に制度として作つただけでは駄目で、社会を構成する一人一人がこの社会がみんなにとつてよい社会であるためにはどうしていつたらいいのか、ということを絶えず「気配り」していく。私は「気配り」という言葉は余り好きではありませんが、やはり見えない差別を見ていく努力を常にしていくかないと、いけないと私は思います。

ある人の言葉は「差別は見ようとしていない者には見えない」と言います。そういうことを今日曹さんはご体験の中でおっしゃつたと思います。私達は民族差別をはじめとしたいろんな差別事象について、敏感になつていかなければならぬ。それは差別されている人のためではなく、自分自身を良い人間に作りかえていくために、そういう問題に敏感になつていかなければいけない。そうすることによつて自分の人間性がより豊かになるような気がします。

最後にこれも曹さんのおっしゃつたことですが、「同じように生きたい」という思いのためには日本と

いう共同体がより良い共同体にならなければいけない」と言われました。私もそのことは非常に大事だと思います。つまり今の日本の経済状態だと、今のように多少不況であるとか、米がないことが大騒ぎになつて、誰にとつても満たされた社会ではあるとは言えませんが、しかし「これでいいんじゃないか」と思つてゐる日本人が大部分だと思います。

しかし、在日韓国・朝鮮人の方々の日本での生き方、生きてこられたご経験を考えると、決して威張れた社会ではない。威張れた社会でない社会をより良い社会にするための努力が一人一人に問われていると思います。もちろん、他にもいろんな矛盾があります。

たとえば、在日の方々の所在を考えてみるだけでも、日本社会をより良くするためにはどうすればいいのか、いろいろ考えるべき課題がたくさんあると思います。これが実は協会で「チヨゴリときもの」というシリーズを企画された最大の原因です。私がそれのお手伝いを少しさせていただいたということです。

このシリーズは今年で二年目で、昨年も五回連続のフォーラムをしました。それは今、後ろのほうに「アジアの風文庫」という形でまとめが出ていて、どうぞお持ち帰り下さい。それからこの協会では、間もなく出版されますが、『一暮らしひ中の市民として—京都に生きる在日韓国・朝鮮人』という冊子を作りました。これも私がお手伝いの一人として参画させていただいております。在日の方々がどのように京都で生きておられるか、これが見えているようで見えていないのですね。同じ市民でありますから、一四五万の市民の中でも在日の方、あるいは外国籍の方がどれ程おられて、どんな思いで暮らしをおられるかを、ほとんど一四〇数万の日本人市民は余り関心を持たないで今まで暮らしてきた。これが在日の方の問題、あるいは外国籍市民の人権問題を非常に見えなくさせて思っています。それで、そういう方からの思いを聞こうということで資料を含めて作つています。四月早々には本屋さんの店頭

に並びますし、この受付でも取り扱われると思いますので、これからいろいろな問題を考えていく上で、ご参考にしていただけたらと思います。

今日は時間が大変超過してしまいましたが、三人の方々のそれぞれのお立場やご専門から、非常に示唆に富むお話を聞くことができてよかったですと思っています。どうも三人の方々ありがとうございました。

## あとがき

在日韓国・朝鮮人——このことばを聞いたことのある人は多いと思います。しかし、本当に彼ら・彼女らの抱える問題を理解している人は意外と少ないのでしょうか。

今の社会、人種差別・民族差別がなくなってきたとはいえ、まだまだ多くの問題が残されたままになつてているのが現状です。私自身、最初に知り合つた在日韓国人の友人と戦争などの話題が出た時、どこか負い目を感じ、とまどつてしまつたことを思い出します。

しかし、今回、この小冊子の作成にたずさわり、驚いたことは、若い世代の在日の方々、ひとりひとりが新しい視点で考え、とても前向きに生きておられるということです。そして、在日韓国・朝鮮人問題だけでなく、本当の国際化とはなにか、日本社会に求められているものは何か、が率直に語られています。

相手の国の文化・習慣・歴史を知り、互いの違いを認めあい、心を開いて語れるようになれば、より理解を深めることができるのではないでしょうか。違いを尊重しあつて、共に生きる社会の実現のために、『チョゴリときもの』が少しでも役に立つことを、心より願っています。

最後に、今回の作成にあたり、ご指導、ご協力いただきましたパネラーの皆様、コーディネーターの京都芸術短期大学仲尾宏教授に深くお礼を申し上げたいと思います。

情報サービス課 河野 玲奈

---

アジアの風文庫⑨

## 「チョゴリときもの」

～新しい時代に向かう日本人、韓国人・朝鮮人～

1994年9月10日 第1刷発行

編集・発行 財団法人 京都市国際交流協会

〒600 京都市左京区粟田口鳥居町2の1

TEL. 075-752-3010

---



(財) 京都市国際交流協会